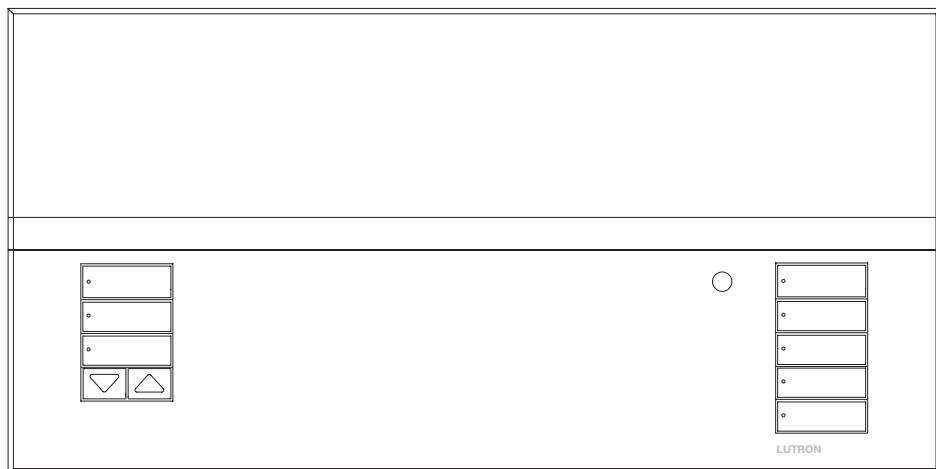
GRAFIK Eye® QS EcoSystem® 対応コントロールユニット

取付と取扱説明書

必ずお読みください

EcoSystem® 対応 GRAFIK Eye® QS コントロールユニットは、ボタンによるシーン呼び出し、省エネ率や状態を表示する液晶ディスプレイ、赤外線受光部、年間タイマー、接点入力、バックライト付きボタン (文字の彫り込み可) などの多くの機能を備えています。さらに、インターフェースを使用することなく、照明と電動カーテンの両方を同一のコントロールユニットで操作することができます。内蔵されている EcoSystem® のバス型リンクでは EcoSystem® 機器を最大で、64 台まで操作することが可能です。

型番: QSGRP-6EJA, QSGRP-8EJA, QSGRP-16EJA
QSGR-6EJA, QSGR-8EJA, QSGR-16EJA

	100 V〜 50/60 Hz	200 V〜 50/60 Hz
ユニット最大容量 (単位: ワット)	1600 W	2400 W
MLV	1600 VA / 1200 W	2400 VA / 1800 W
ゾーン最大容量 (単位: ワット)	25 – 600 W	40 – 900 W
MLV	25 – 600 VA / 25 – 500 W	40 – 900 VA / 40 – 750 W

EcoSystem® バスの定格は 7 ページを、低電圧の定格は 9 ページをご覧ください。

目次

EcoSystem® 対応 GRAFIK Eye® QS コントロールユニット各部の名前と機能

フェースプレート裏面

ページボタン
16 ゾーンユニットのゾーン表示を切り替え (1～8 と 9～16)

ゾーン番号

ゾーンアップ/ダウンボタン
ゾーンレベル LED がゾーンの現在レベルの目安を表示

注: ゾーン 1、2、3 は、一般的な照明器具の負荷をコントロールすることが可能な、ゾーンです。その他のゾーンは *EcoSystem* ゾーンのみです。ゾーン 1、 2、3 は、*EcoSystem* ゾーンか照明ゾーンのどちらかに設定できます。(両方に設定できるゾーンはありません)

1 9　2 10　3 11　4 12　5 13　6 14　7 15　8 16

9-16
1-8

OK

液晶ディスプレイ
ステータス表示、または機能のプログラミングに使用

マスターボタン
全体照明レベルの一時調整ボタン

電動カーテン用ボタン
プリセット選択および開閉ボタン(LED付) (電動カーテンコントロールボタンは最大 3 個まで)

タイムクロック ボタン
現在のタイムクロックの状態を表示

OK ボタン
プログラミングに使用

シーン選択ボタン
LED 付

フェースプレート裏面

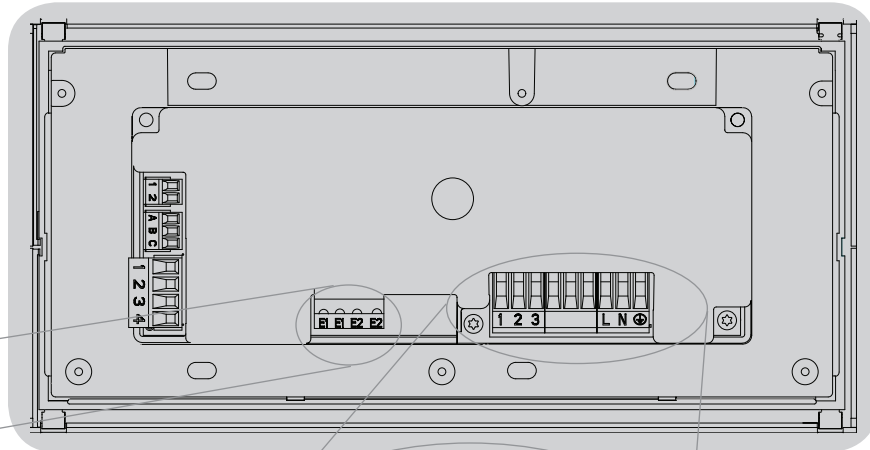
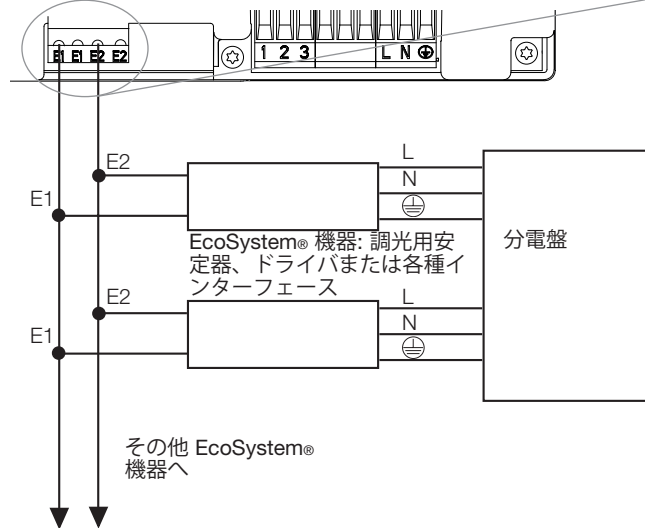
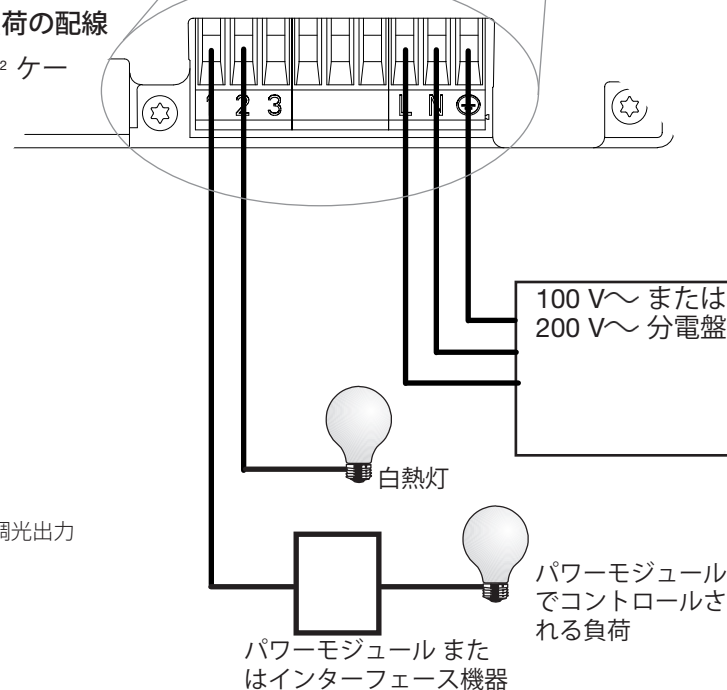
赤外線リモコン受光部
リモコン用

USB ポート**(**ミニ **B** タイプ**)**
PC でプログラミングする場合に使用

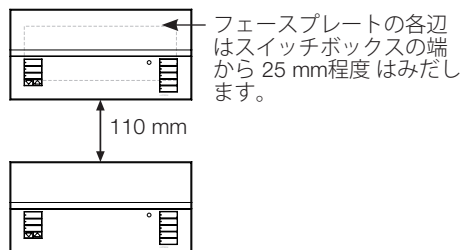
注: 6 ゾーン用コントロールユニットでは、1～6 ゾーンのみの表示となります。

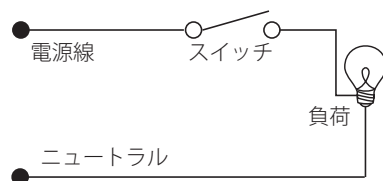
EcoSystem® 対応 GRAFIK Eye® QS コントロールユニットの配線:電源線および EcoSystem® 配線の概要

分岐配線用に接続端子(E1 E2)を 2 つ設けていますが、ユニット上の EcoSystem® リンクは 1 つだけです。

注: 調光用安定器やその他 EcoSystem® 機器には、EcoSystem® 対応 GRAFIK Eye® QS コントロールユニットから動作電源は給電しないでください。

EcoSystem® 対応 GRAFIK Eye® QS コントロールユニットの配線: 電源配線詳細

- 電源線には必ず VVF-2.0mm 等の適切な電線をご使用ください.
- 分電盤に適切な短絡保護装置と過負荷保護装置が備え付けられているか確認してください。また、20 A までの分岐ブレーカーを使用してください。
- ご使用になる国または地域の電気関連法規すべてに従って取り付けを行ってください。
- 赤外線受信部、人感センサー、コントロールを配線する際、必要に応じて接続端子を一時的に取り外すことができます。
- **注意**: ユニットを損傷する恐れがありますので、電源線は低電圧端子に接続しないでください。

手順 1: スイッチボックスを取り付ける。
奥行き 54 mm 程度の 4 個口深型スイッチボックスを、システムのプログラミングや操作が可能な、乾いた平らな屋内壁面に取り付けます。適正に放熱されるよう、フェースプレートの上下に 110 mm 以上の空間を確保します。また各辺でフェースプレートが 25 mm はみ出るようにします。

手順 2: 負荷配線をテストする。

- ブレーカーをオフにします。
- 電源線と負荷線の間に、標準の電灯用スイッチを接続し、回路テストをします。
- 電源を入れ、回路短絡・開放の確認をします。負荷が点灯しない場合は、回路が開放状態です。ブレーカーがトリップした場合、回路が短絡しています。配線を確認のうえ、再度テストしてください。

手順 3: コントロールユニットの配線を確認する。

- アースへは電源配線図のとおりに接続してください。
- 同じゾーンに異なる照明器具を接続しないでください。
- ご使用になる国内または国際電気関連法規すべてに従って、低電圧配線と電源配線を行ってください。

警告! 感電の危険があります。 ケガや死亡事故につながる恐れがありますので、作業を行う場合は、事前に必ずブレーカーがオフになっているかまたは、メインヒューズが取り外されていることを確認してください。EcoSystem® 対応 GRAFIK Eye® QS コントロールユニットに負荷を接続する前に、負荷に短絡がないかチェックしてください。

(次ページに続く)

EcoSystem® 対応 GRAFIK Eye® QS コントロールユニットの配線: 電源配線詳細 (続き)

手順 4: 電源線および負荷をコントロールユニットに接続

- スイッチボックス内の電源線の被覆を約 8 mm 剥きます。

- 電源線、アース、負荷の電線をコントロールユニット背面の、それぞれ対応する端子に正しく接続します。

L: ホット/電源線

N: ニュートラル

⏚:アース

端子 1、2、3: 調光/非調光出力

推奨締付けトルクは電源線、アースとも 0.6 N·m です。

注: 接続可能な負荷タイプ一覧および、負荷を正しく接続するための、EcoSystem® 対応 GRAFIK Eye® QS コントロールユニットのプログラミング方法については、「ゾーンセットアップの項目をご覧ください。

注意: ユニットを損傷する恐れがありますので、EcoSystem® 対応 GRAFIK Eye® QS コントロールユニットの取り付けには、関連法規や建築基準に適合した電気工事士の資格が必要です。不適切な配線は、コントロールユニットまたはその他の機器の損傷につながる恐れがあります。

注: 最大容量を超える負荷は接続しないでください。故障・異常発熱・火災などの原因となります。本器は一般屋内取り付け専用です。浴室や屋外など湿気の高い場所には設置しないでください。故障・火災・感電などの原因となります。本説明書に記載された電線を使用し、確実に結線してください。指定外の電線の使用や不十分な結線は、異常発熱・火災の原因となります。改造をしないでください。故障・異常発熱・火災などの原因となります。本器の出力側にコンセント等の受け口を接続しないでください。故障・火災などの原因となります。それぞれのパワーモジュールに適合する負荷以外のものは接続しないでください。負荷にあったパワーモジュールを選定してください。故障・異常発熱・火災などの原因となります。

EcoSystem® GRAFIK Eye® QS コントロールユニットの配線: EcoSystem® バス配線詳細

EcoSystem® バスは NEC® クラス I または低電圧配線が可能です。

- NEC® クラス I: EcoSystem® バスは電源線と同じダクトで照明器具に配線できます。
- 低電圧: EcoSystem® バスは、主電源線および NEC® クラス I 配線とは別に配線する必要があります。
- 国内および使用地域の関連法規に従って配線してください。
- ジャンクションボックスには、複数の EcoSystem® バス配線が結合されています。誤配線を防ぐため、E1 および E2 (EcoSystem® バス) にはなるべく別々の色の電線を使用してください。次の説明をよく読んでから EcoSystem® バスの配線を行なってください。
- 各 EcoSystem® リンクに接続できる EcoSystem® 対応GRAFIK Eye® QS コントロールユニットは 1 台のみです。リンクにその他の EcoSystem® バス供給機器を接続することはできません。
- EcoSystem® リンクには EcoSystem® 機器を 64 台まで接続することができます。
- その他の機器を EcoSystem® リンクには接続することはできません。

警告!感電の危険。ケガや死亡事故につながる恐れがありますので。EcoSystem® バス供給機器を配線または修理する場合は、事前にブレーカーをオフにしてください。

手順 1: EcoSystem® バスの全長に応じて、適切な電線のサイズを右の表で、確認します。

手順 2: EcoSystem® バスを端子 E1 および E2 からすべての EcoSystem® 機器に配線します

手順 3: EcoSystem® バスを低電圧配線にする場合は、主電源線および NEC クラス I 配線とは必ず別に配線してください。

手順 4: ブレーカーをオンにして、給電を開始します。

EcoSystem® バス	
18 V⎓	250 mA

電線サイズとバス全長

EcoSystem® バス配線の E1 および E2 には極性がありません。EcoSystem® バス全長は、E1 および E2 に使用される電線のサイズによって、次のように制限されます。

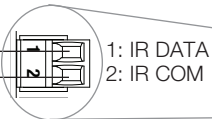
電線のサイズ	**EcoSystem® バス全長の上限**
4.0 mm^2	671 m
2.5 mm^2	427 m
1.5 mm^2	275 m
1.0 mm^2	175 m

注:光センサーや人感センサーなどへの接続が可能な EcoSystem® 機器もあります (調光安定器、ドライバ、各種インターフェース)。これらの機器の取り付けおよび取扱方法については、各機器に付属の説明書をご覧ください。

EcoSystem® 対応 GRAFIK Eye® QS コントロールユニットの配線: 低電圧配線概要

拡張用赤外線受信部接続端子 (IR) の配線

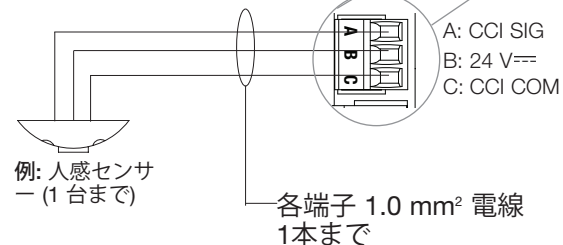
各端子 1.0 mm² 電線
1本まで
外部赤外線信号
接続 (他社製品)

1: IR DATA
2: IR COM

接点入力配線

24 V⎓ 50 mA
設定についてはCCI モードセットアップをご覧下さい。

A: CCI SIG
B: 24 V⎓
C: CCI COM

例: 人感センサー (1 台まで)

各端子 1.0 mm² 電線
1本まで

QS リンクのコントロール配線

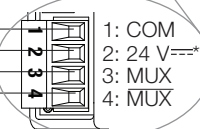
24 V⎓ 100 mA

コモンと電源（端子１および２）
1.0 mm²の電線を使用する場合は最大150 m
4.0 mm²の電線を使用する場合は最大600 m

各コントロールステーション、電動カーテン、または他のGRAFIK Eye® QS コントロールユニットへ

1: COM
2: 24 V⎓*
3: MUX
4: MUX

A: CCI SIG
B: 24 V⎓
C: CCI COM

データ (端子 3 および 4): ツイストシールドペア 0.5 mm² 電線

*端子 2 は、いずれの GRAFIK Eye® QS コントロールユニットとその他電源供給機器 (他の GRAFIK Eye® QS コントロールユニットを含む) に接続しないでください。
配線例の詳細については、「電源グループの配線」項目をご覧下さい。

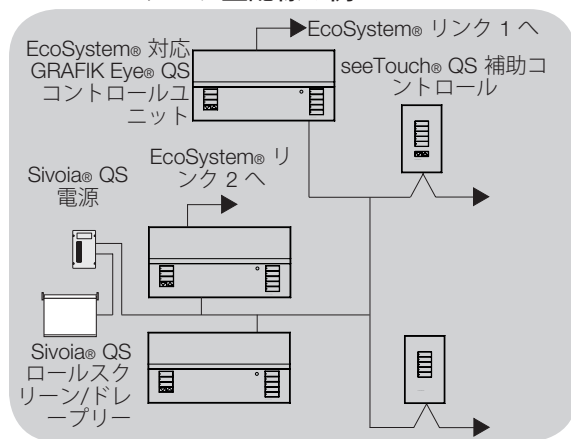
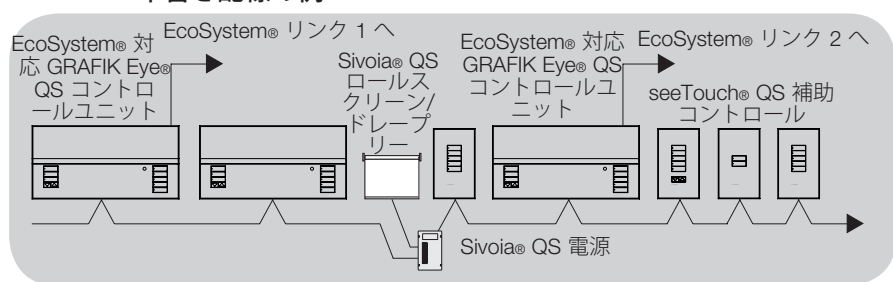
注: 国内の規制で指定される適切な配線接続装置をお使いください。

EcoSystem® 対応 GRAFIK Eye® QS コントロールユニットの配線: QS リンク コントロールの配線詳細

- システムの通信には低電圧配線を使用します。
- ご使用になる国内または国際電気関連法規すべてに従って、低電圧配線と電源配線を行ってください。
- 各端子には、1.0 mm²の電線 2 本まで接続可能です。
- コントロールリンクの最大総配線長は 600 m です。
- コントロールユニットの接続はすべてスイッチボックス内で行なってください。
- 配線は T タップまたは一筆書き配線にしてください。
- 低電圧 24 V⎓　150 mA。

システム許容量

QS リンクで使用できる機器は 100 台まで、またゾーンは 100 ゾーンまでです。
QS リンクのGRAFIK Eye® QS コントロールユニットからは、3 台までの 電源ユニット (PDU)コントロール に給電できます。PDU に関する詳細については、QS リンク PDU 仕様 (Lutron PN 369380) をご覧下さい。

T タップ型配線の例

一筆書き配線の例

電線サイズ (ご使用地域における互換性をご確認ください)

QS リンクの配線の長さ	電線径	ルートロンケーブル部品番号
150 m まで	電源線 (端子1および2) ペア 1.0 mm²	GRX-CBL-346S GRX-PCBL-346S
	データ (端子3および4) ツイストシールドペア 0.5 mm²	
150 m 以上 600 m まで	電源線 (端子1および2) ペア 4.0 mm²	GRX-CBL-46L GRX-PCBL-46L
	データ (端子3および4) ツイストシールドペア 0.5 mm²	

EcoSystem® 対応 GRAFIK Eye® QS コントロールユニットの配線: 電源グループの配線例

QS リンクには、給電する機器と電気を消費する機器が接続されています。給電する機器には、接続可能な補助コントロール数(PDU) があり、電気を供給しています。1 つの電源グループは、電源を供給する機器 1 台と、電気を消費する機器 1 台以上から構成されています。給電用の機器は、各電源グループにつき 1 台となります。PDU に関する詳細については、 QS リンク PDU 仕様 (Lutron PN 369380) をご覧下さい。

配線図に A で示されている 4 つの端子 (1~4) をすべて、QS リンクの電源グループ内に接続します。QS リンクで電気を供給している機器の間に、配線図に B で示されている 1、3、4 の端子 のみ (2 は接続しません) を接続します。

配線は T タップまたは一筆書き配線にしてください。

電源グループ 1

A

GRAFIK Eye® QS コントロールユニットは PDU へ電源を供給

B

(端子 2 には接続しないでください: 24 V⎓)

コントロール インターフェースは電気を消費

補助コントロールは電気を消費

電源グループ 2

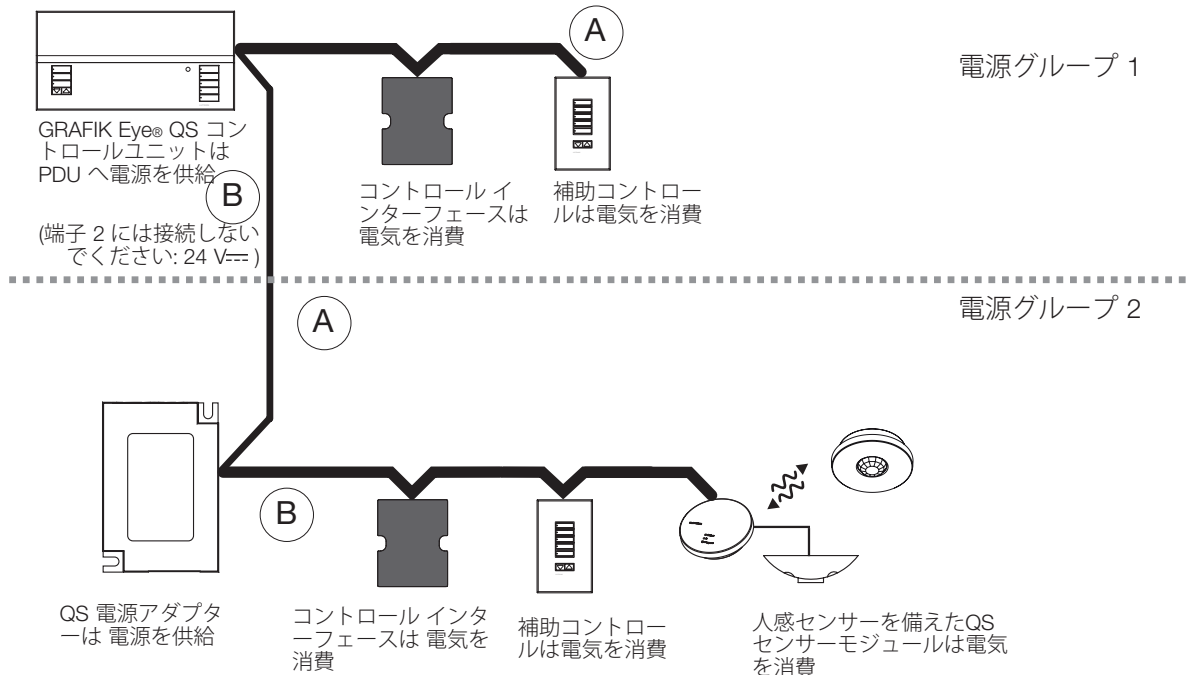
A

B

QS 電源アダプターは 電源を供給

コントロール インターフェースは 電気を消費

補助コントロールは電気を消費

人感センサーを備えたQS センサーモジュールは電気を消費

A

端子 1、2、3、4 (コモン 24 V ⎓ およびデータ) で、電源グループ内の機器を接続。

B

電源グループ間の接続には、端子 2 (24 V⎓) は使用しない。

EcoSystem® 対応 GRAFIK Eye® QS コントロールユニットの配線: 3 台以上の補助コントロールに給電する例

EcoSystem® コントロール GRAFIK Eye® QS は、最大 3 台まで seeTouch® 補助コントロールに給電することができます。4 台以上の補助コントロールに給電する場合は、外付け 24 V⎓ 電源アダプターが必要です。

- 電源から接続されている +24 VDC ケーブルは、それが給電するすべての補助コントロールで QS リンク 端子 2 に接続します。GRAFIK Eye® QS コントロールユニットの端子 2 には接続しません。
- 電源から接続されているコモン線は、それが給電するすべての補助コントロールの QS リンク 端子 1 と、GRAFIK Eye® QS コントロールユニットの端子 1 に接続します。
- QS リンクの通信信号は (端子 3 および 4)、外部電源が接続されていない場合と同様、補助コントロールとGRAFIK Eye® QS コントロールユニットを、ツイストペア シールド線で接続します。 図はコントロールユニットの背面を示しています。

ルートロン製ケーブル
GRX-CBL-346S-500 または GRX-PCBL-346S-500

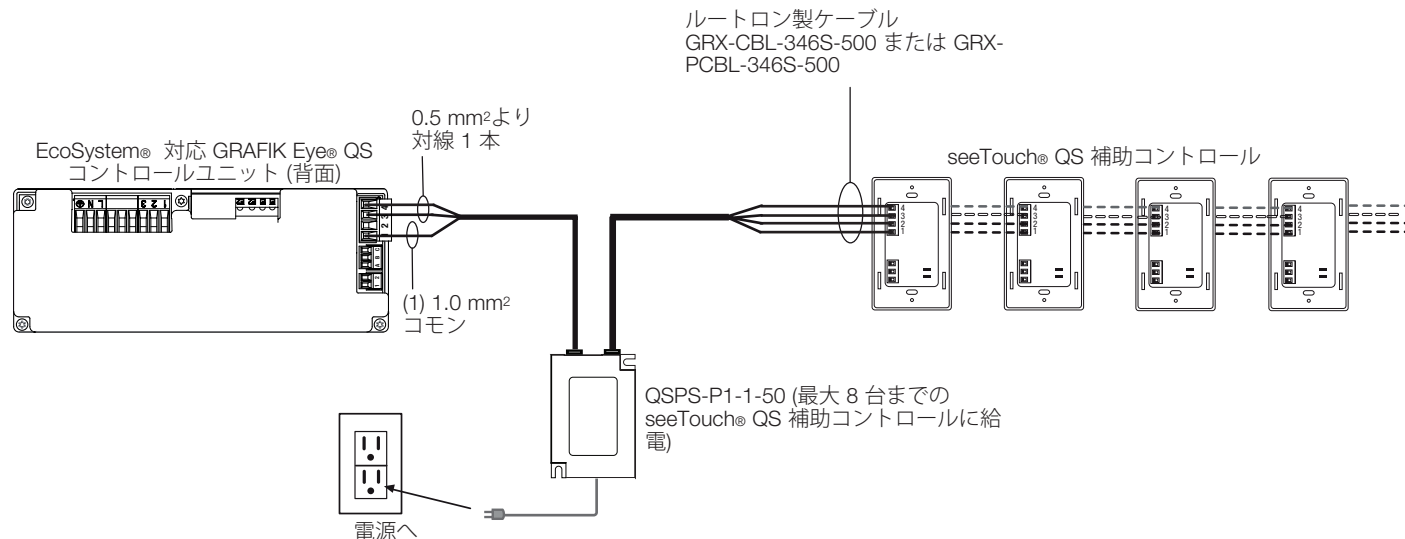
0.5 mm²より対線 1 本

EcoSystem® 対応 GRAFIK Eye® QS コントロールユニット (背面)

seeTouch® QS 補助コントロール

(1) 1.0 mm² コモン

QSPS-P1-1-50 (最大 8 台までの seeTouch® QS 補助コントロールに給電)

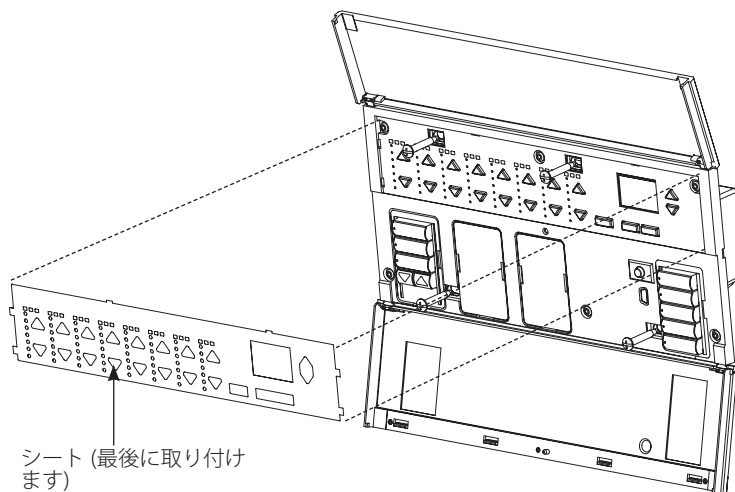
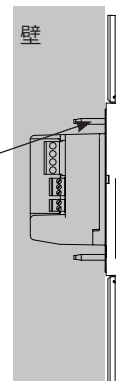
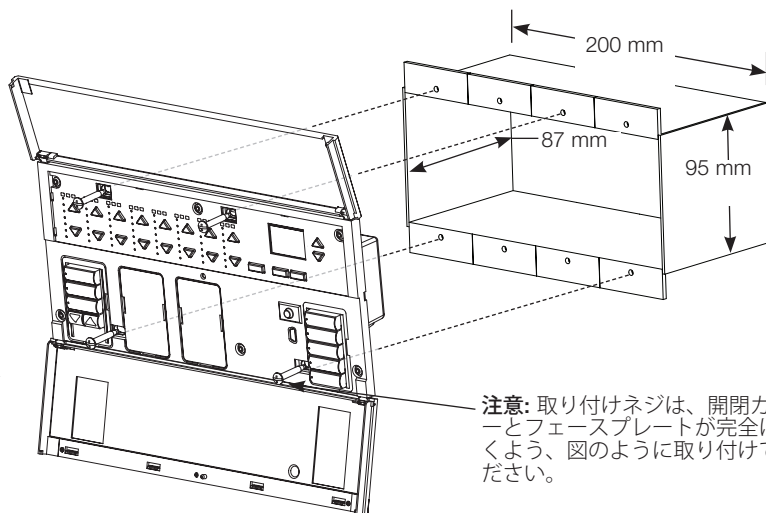
電源へ

EcoSystem® 対応 GRAFIK Eye® QS コントロールユニット取り付け

1. 付属のネジ 4 本を使用して、右図のようにコントロールユニットをスイッチボックスに取り付けます。

   注: ご使用になる国内または国際電気関連法規すべてに従って、低電圧配線と電源配線を行ってください。

2. 取り付けを確認します:

- 電源を入れます。
- 一番上のシーンボタンを押し、LED を点灯させます。
- ゾーン アップ/ダウン ボタンを押し、接続しているすべての負荷をコントロールユニットが調光できるか確認します。

3. 保護シートをコントロールユニットに取り付けます。

一般的な機能

液晶ディスプレイは、最後にボタンを押してから、またはシーン選択後 30 秒経過するとオフになります。下の表示例を参照ください

マスターボタンにはディスプレイを再びオンにする機能があります。マスターボタンは通常、調光ゾーンのレベルを一時的に調整する場合に使用します (シーンが調整できないように設定してある場合を除きます)。このボタンで行う調整は一時的なもので、シーンのプログラミング内容が変更されることはありません。

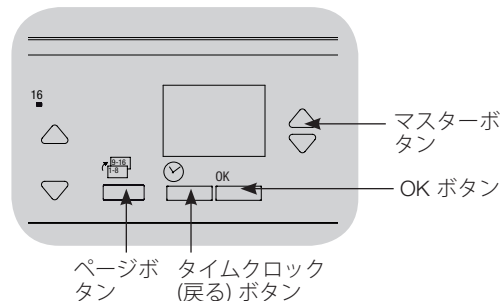
注: マスターボタンを使用すると全ゾーンのレベルが変化します。

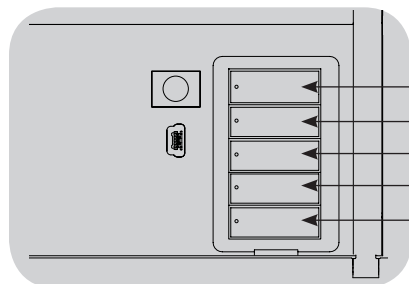
OK

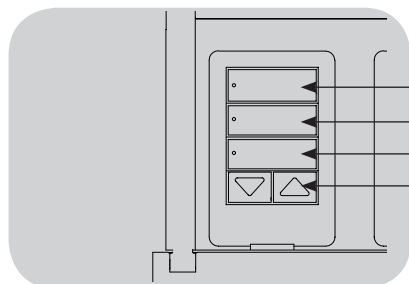
OK ボタンで、ディスプレイをオンにして (オフだった場合)、現在のシーンとフェードタイムを表示させることができます。また、Save Always (常に保存) のモードになっている場合、OK ボタンはフェードタイムの変更に使用することができます。Save by OK (セーブ バイOK) モードになっている場合は、OK ボタンを 2 回押すとゾーン調節ができ、3 回押すとフェードタイムを変更することができます。

タイムクロックボタンは、ディスプレイに現在の時刻と次に予定されているイベント時刻、次のイベント内容を表示させることができます。このボタンを 2 回押すと、時間、日付、営業時間外モードのステータスが表示されます。3 回押すと、所在地と日の出/日の入時刻が表示され、4 回押すと言語選択画面が表示されます。さらにもう一度ボタンを押すと、最初の画面に戻ります。

9-16
1-8

ページ ボタンは 16 ゾーンユニットのみの機能です。このボタンを押すと、ユニットのページ 1 (ゾーン 1～8) とページ 2 (ゾーン 9～16) が切り替わります。各ゾーン LED バーの上にある 2 つの LED は、現在のページを示しています。ページを切り替えると、8 ゾーンの LED バーは、現在シーンの照明レベルを表示します。

工場出荷時のボタン機能

EcoSystem® 対応GRAFIK Eye® QS コントロールユニットは、特別なプログラミングをすることなく、ほとんどの負荷をコントロールすることができます。工場から出荷される各ユニットのシーンおよび電動カーテンボタンは、あらかじめ下記のようにプログラムされています。負荷タイプの設定 (調光用および非調光とも) については、使用する前に負荷タイプを選択してください。シーン設定の変更方法については、「シーンセットアップ」の項目をご覧ください。

シーンボタンは調光用負荷向けにプログラミングされています

シーン 1: 全ゾーン 100%
シーン 2: 全ゾーン 75%
シーン 3: 全ゾーン 50%
シーン 4: 全ゾーン 25%
全ゾーンオフ

電動カーテンボタンは Sivoia® QS ロールスクリーン向けにプログラミングされています

全ロールスクリーン全開
全ロールスクリーン 50% 開
全ロールスクリーンすべて閉
全ロールスクリーンを開/閉
(電動カーテン用キーパッドを備えているユニットのみ)

ゾーンボタンの操作

ゾーンボタンと LED はそれぞれの各ゾーンに対応しています。16 ゾーン用ユニットでは、ページボタンがゾーン 1〜8 と 9〜16 を切り替えます。各列の上にあるページ LED は、現在切り替えられているゾーンを示します。このボタンのどれかを押すと、ディスプレイに対応するゾーンの現在照度と省エネ状況が表示されます。

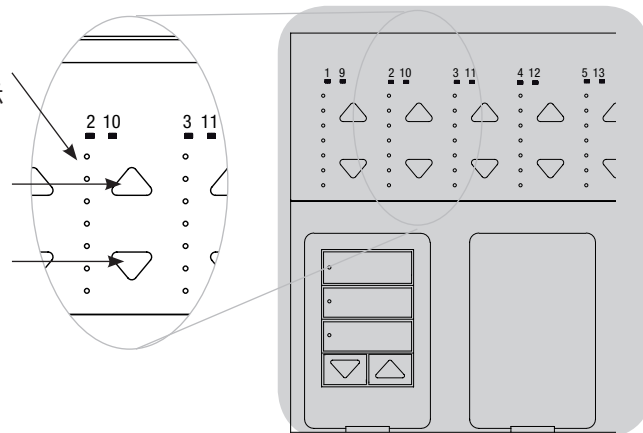
アップ/ダウン ボタンを押して実行する操作はゾーンのタイプによって異なります (詳細は以下参照)。

調光ゾーン:

- 押し続けると、ゾーンの照明レベルがアップまたはダウンし、指を離すと止まります
- フェード中のゾーンの場合、アップまたはダウンボタンを押すと、フェードがストップします
- オフ から 100%までのアップ、または 100% からオフ までダウンするには、ゾーンアップボタンまたはダウンボタンを押し続けて約 5 秒かかります。
- オフと 100% を瞬時に切り替えたい場合は、そのゾーンのアップ・ダウンボタン両方を同時に押します
- ゾーンの照明レベルを 0% にしてから、ダウンボタンを 6 秒押し続けると、そのゾーンは現在のシーンで変化しないように設定されます（無変化ゾーン）。シーンが開始されても、そのゾーンは変化せず、そのシーン中はマスターボタンを押してもゾーンの照明レベルは変化しません。

非調光ゾーン:

- アップボタンを押すとゾーンがオンになります
- ダウンボタンを押すとゾーンがオフになります

注: ゾーンのタイプを設定する方法は「ゾーンセットアップ」の項目をご覧下さい。

ゾーン **LED** は照明レベル **(%)** を表示

照明レベル (%)	オフ	1–17	18-33	34-49	50-66	67-82	83-99	オン/ 100%	UA
調光可能な負荷タイプの場合									
非調光負荷タイプの場合									

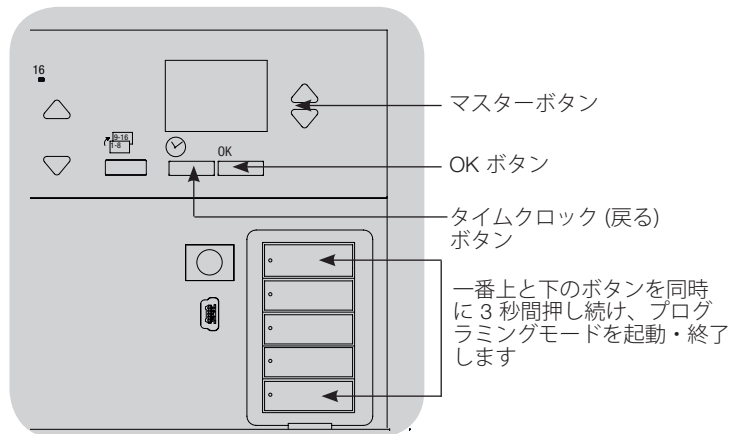
凡例:

UA=無変化 (シーンボタンやマスターボタンを押しても照明は変化しない)
LED オン
LED オフ

プログラミングモード

プログラミングモードを起動・終了する

プログラミングモードを起動する:
シーン選択ボタンの一番上と下を同時に 3 秒間押し続けます。シーン選択ボタンの LED が上から下に循環点滅して、プログラミングモードになっていることを示し、ディスプレイにはメインメニューが表示されます。

プログラミングモードを終了する:
シーン選択ボタンの一番上と下を同時に 3 秒間押し続けます。ディスプレイは「Scene 1」を表示します。

プログラミングモードのメニューを操作する

マスターボタン
マスターボタンは、メニューのスクロールに使用します。カーソルを合わせた項目は反転表示されます。

OK ボタン
OK ボタンは現在反転表示されている項目を選択するのに使用します。OK ボタンを押すと、次のメニューに進むか、または選択を決定します。ディスプレイに Yes/No が表示された場合は、「yes」が OK ボタンとなります。

タイムクロックボタン
プログラミングモードでは、タイムクロック ボタンは「戻る」ボタンとして機能します。タイムクロックボタンを押すと、現在のメニューから 1 つ前のステップに戻り、繰り返し押すと最終的にはメインメニューにもどりますが、プログラミングモードを終了することはできません。ディスプレイに Yes/No が表示された場合は、「No」が タイムクロックボタンとなります。

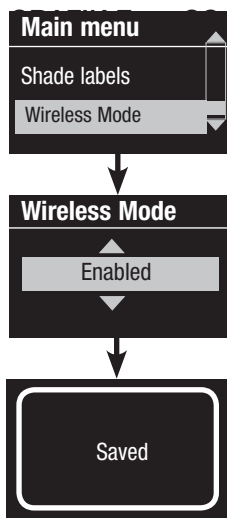
ワイヤレスモード

メモ:ワイヤレス対応ユニットのみの情報。お住まいの地域で適用される可否をご確認ください。

GRAFIK Eye® QS コントロールユニットの多くは、他の Lutron® 製品とワイヤレスで通信させることができます。この機能により、一つの部屋の中なら、ワイヤレスセンサーやキーパッド、リモコン、ロールスクリーンをワイヤレスで使用し、連動させることができます。

ワイヤレス対応ユニットには、ユニット前面に「GRAFIK Eye® QS ワイヤレス」と記載されています。

GRAFIK Eye® QS ワイヤレス コントロールユニットでは 3 種類のモードを使用することができます。

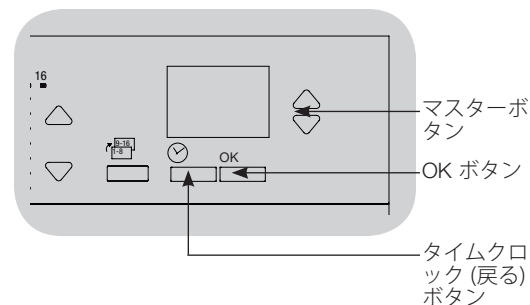
- **Disabled (オフ):** 有線接続専用システムで使用。
- **Enabled (オン):** *GRAFIK Eye* QS ワイヤレス コントロールユニットは、近くの*Lutron* QS ワイヤレス (またはワイヤレス対応) 製品から送信される全てのコマンドに応答します。
- **Ignore Programming (プログラミング無応答: 初期設定):** GRAFIK Eye® QS ワイヤレス コントロールユニットは、接続されているワイヤレス機器からの通常の操作コマンドにのみ応答します。

GRAFIK Eye QS ワイヤレス コントロールユニットのモードを変更する。

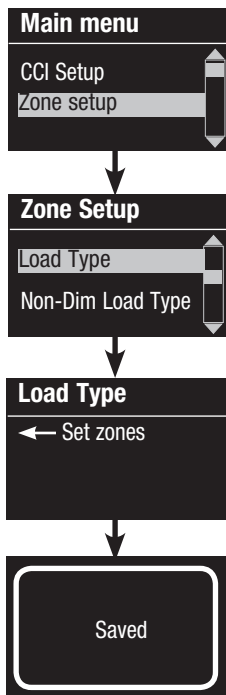
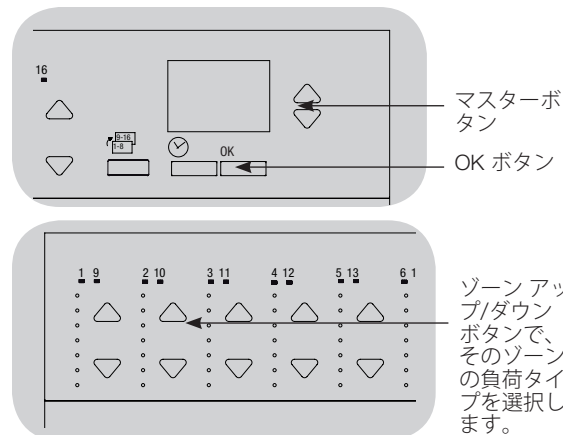
Main menu
Shade labels
Wireless Mode

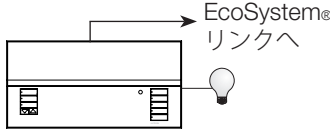
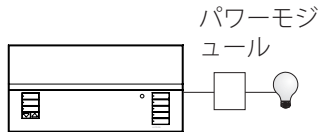
Wireless Mode
Enabled

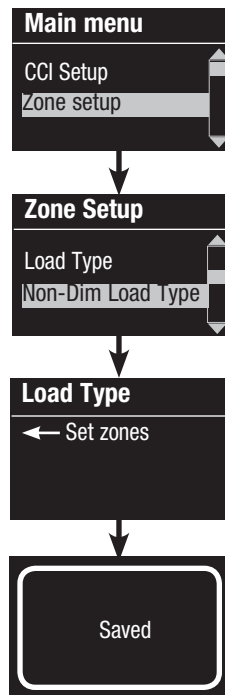
Saved

1. プログラミングモードを起動します
2. マスターボタンで、「Wireless Mode」(ワイヤレスモード) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
3. マスターボタンで、「desired wireless mode」(希望のワイヤレスモード) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
4. ディスプレイには、モードが選択されたことを示す「Saved」が表示されます。
5. プログラミングモードを終了します。

注: ワイヤレス信号の通信可能範囲は通常構造物通過で 9 m、見通しで 18 m です。

ゾーンセットアップ

負荷タイプを設定する

1. プログラミングモードを起動します。
2. マスターボタンで、「Zone setup 」(ゾーンセットアップ) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
3. マスターボタンで「Load type」(負荷タイプ) にカーソルを合わせます。OK ボタンを押して決定します。次ページの表「負荷タイプの設定」を参照してください。
4. ゾーン アップ/ダウン ボタンで、そのゾーンの負荷タイプを選択します。対応する負荷タイプについては次ページの表をご覧ください。OK ボタンを押して決定します。
5. ディスプレイには、負荷タイプが保存されたことが表示されます。
6. プログラミングモードを終了します。

非調光負荷のタイプを設定する

非調光負荷として設定されたゾーンは次の 3 つの設定が可能です。

- LOFO: 最後にオン、最初にオフ
- FOFO: 最初にオン、最初にオフ
- FOLO: 最初にオン、最後にオフ

調光負荷および非調光負荷の両方で構成されるシーンにおいて、非調光負荷が最初にオンもしくは最初にオフ設定となっている場合は調光可能負荷の動作前、最後にオンもしくは最後にオフ設定となっている場合は調光負荷の動作後に、非調光負荷ゾーンはトグルされます。

1. プログラミングモードを起動します。
2. マスターボタンで、「Zone setup 」(ゾーンセットアップ) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
3. マスターボタンで「Non-Dim Load type」(非調光負荷タイプ) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押して決定します。次ページの表「負荷タイプの設定」を参照してください。
4. ゾーン アップ/ダウン ボタンで、そのゾーンの非調光負荷タイプを選択し、(非調光としてプログラミングされていないゾーンは「無変化」として表示されます)。OK ボタンを押して決定します。
5. ディスプレイには、負荷タイプが保存されたことが表示されます。
6. プログラミングモードを終了します。

ゾーンセットアップ (続き)

負荷タイプの設定			
		GRAFIK Eye® QS コントロールユニットによる直接コントロール EcoSystem® リンクへ	パワーモジュールまたはインターフェース経由でコントロール パワーモジュール
	負荷タイプ	GRAFIK Eye QS コントロールユニットのメニューで選択する負荷タイプ:	
ゾーン 1～3	白熱灯・ MLV（電磁トランス付きローボルト球）	Incandescent (白熱灯）、MLV	パワーモジュール
	ELV（電子トランス付きローボルト球）	—	パワーモジュール
	ルートロン蛍光灯安定器 Hi-Lume®/Eco-10®	—	蛍光灯モジュール
	0～10V	—	蛍光灯モジュール
	非調光照明負荷	**非調光**	非調光
	ネオン/冷陰極管	Neon、CC (ネオン、CC、電磁トランスつき器具に限る)	Neon、CC (ネオン、CC、電磁トランスつき器具に限る)
	EcoSystem®	デジタル負荷	—
	DMX	—	DMX
	RGB/CMY DMX	—	RGB/CMY DMX
	Cree 社製 LR4/LR6 LED	Cree 社製 LR4/LR6 LED	蛍光灯モジュール
ゾーン 4～16	EcoSystem®	デジタル負荷	—
	DMX	—	DMX
	RGB/CMY DMX	—	RGB/CMY DMX
	EcoSystem® スイッチング (XPJ など)	非調光デジタル	—

負荷タイプに関する注意

- 電子トランス付きローボルト器具 (ELV) を使用する場合は必ず、逆相調光制御が可能なインターフェース (NGRX-ELVI-JA など) が必要です。電子トランスは調光可能型のものを使用してください。また、調光トランスはインターフェースとのマッチングテストが必須です。マッチングしないトランスを使用すると、不点・ちらつき・器具故障の原因となります 。
- すべての DMX または RGB/CMY DMX 照明には、コントロールユニットに DMX インターフェース (QSE-CI-DMX など) が必要です。

EcoSystem® ではない負荷:

- すべてのゾーンが接続されている必要はありませんが、接続されているゾーンには最低負荷が必要です。

  100 V～ : 25 W

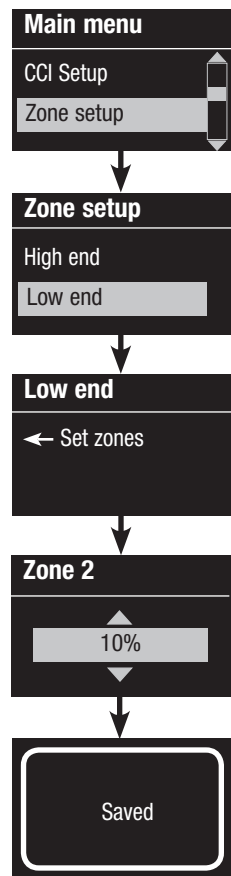
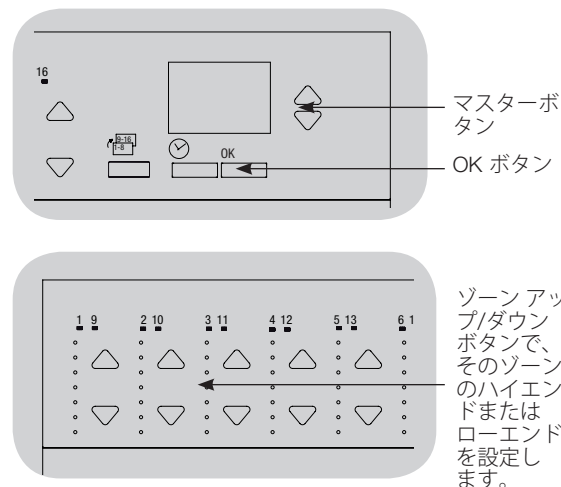
  200 V～: 40 W
- 最大ゾーン容量:

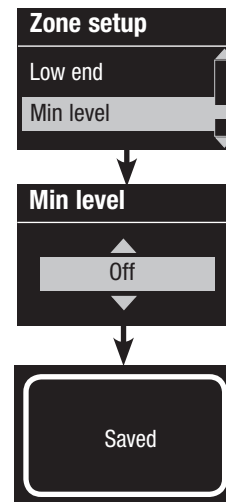
  100 V～: 600 W
  200 V～: 900 W
- 電磁トランス付きローボルト球 (MLV) の最大照明負荷の合計は、入力電圧によって異なります:

  100 V～: 600 VA / 500 W
  200 V～: 900 VA / 750 W

ゾーンセットアップ

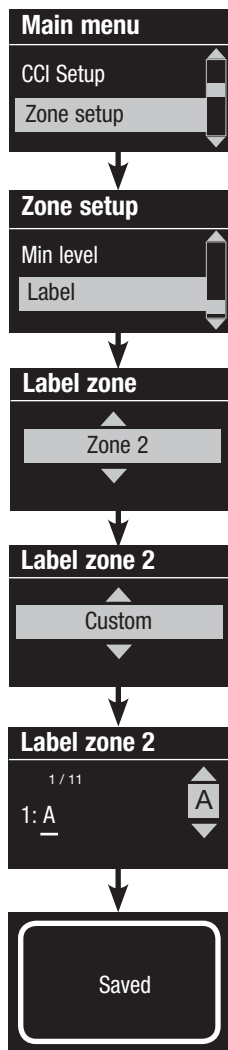
ハイエンドまたはローエンドを設定する

- ハイエンドおよびローエンドの設定についてよくわからない場合は、ルートロンのテクニカルサポートまでお問合せください。
- ハイ・ローエンドはゾーンの照度の上限および下限を設定します。負荷タイプをプログラミングすると、レベルが自動的に設定されます。

1. プログラミングモードを起動します
2. マスターボタンで、「Zone setup 」(ゾーンセットアップ) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
3. マスターボタンで「High end」(ハイエンド) または「Low end」(ローエンド) にカーソルを合わせます (左の図では「Low end」が選択されています)。OK ボタンを押して決定します。
4. ゾーン アップ/ダウン ボタンで、そのゾーンのハイエンドまたはローエンドを設定します。各ゾーン番号と照度 (%) がディスプレイに表示されたらボタンで調整し、OK ボタンを押して決定します。
5. ディスプレイには、設定が保存されたことを示す「Saved」が表示されます。
6. プログラミングモードを終了します。

最低照度を設定する (オプション)

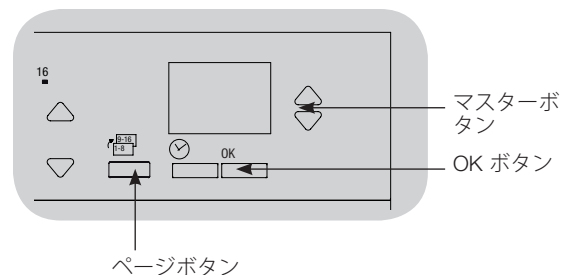
お住まいの地域によっては、居住建築物内の調光空間に対し、最低照明レベルが定められている場合があります。この規定が適用される地域にお住まいの場合は、次の手順に従って最低照明レベルを設定してください。

1. プログラミングモードにして、「Zone setup」(ゾーンセットアップ) 続いて「Min level」(最低レベル) を選択します。OK ボタンを押して決定します。
2. 最低レベルを消灯とする場合は、マスターボタンで「OFF」に、最低レベルを 10 % とする場合は「10 %」にカーソルを合わせます。OK ボタンを押して決定します。

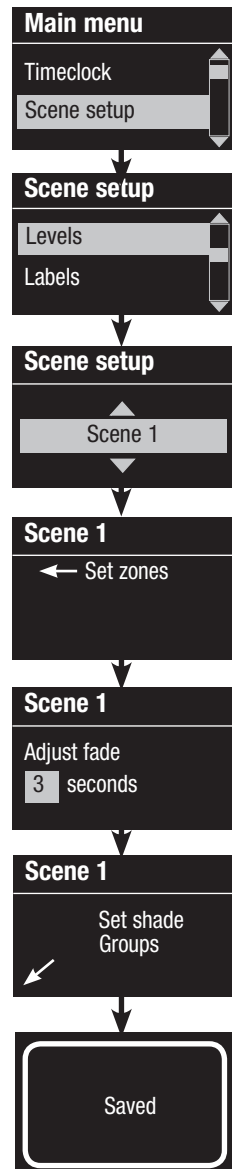
   注: 非調光タイプ負荷の場合、設定内容に関らず消灯となります。
3. ディスプレイには、保存オプションが設定されたことを示す「Saved」が表示されます。
4. プログラミングモードを終了します。

ゾーンセットアップ

ゾーン名を作成する (オプション)

1. プログラミングモードを起動します。
2. マスターボタンで、「Zone setup 」(ゾーンセットアップ) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
3. マスターボタンで、「Label」(名前) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
4. マスターボタンで変更するゾーンに切り替えます。以前に設定している場合は、その名前が表示されます。OK ボタンを押して決定します。
5. マスターボタンで、「Custom」(カスタム) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押すか、「Default」にカーソルを合わせ初期設定のゾーン名に戻します (ゾーン 1 など)。
6. マスターボタンでアルファベット (小文字、大文字、数字の 0 〜9 まで) を順に表示します。現在入力している箇所の文字に下線が表示されます。入力したいアルファベットが表示されたら、OK を押し、ゾーン名が完全に入力されるまでこの操作を繰り返します。文字を入力しない部分は、スペースを入力し OK を押します。入力が完了したら、OK ボタンを押して決定します。

   注: カスタムゾーン名は、常にゾーン番号およびコロンから始まります (1: Uplights など)。
7. ディスプレイには、ゾーン名が保存されたことを示す「Saved」が表示されます。
8. プログラミングモードを終了します。

   注: 16 ゾーン ユニットの場合、すべてのゾーンを変更するには、ページボタンを使用してください。

シーンセットアップ

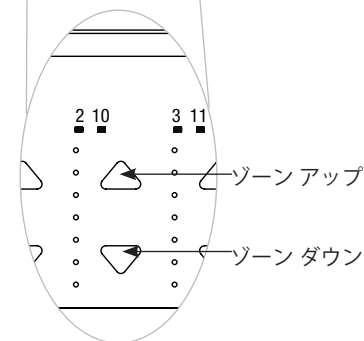
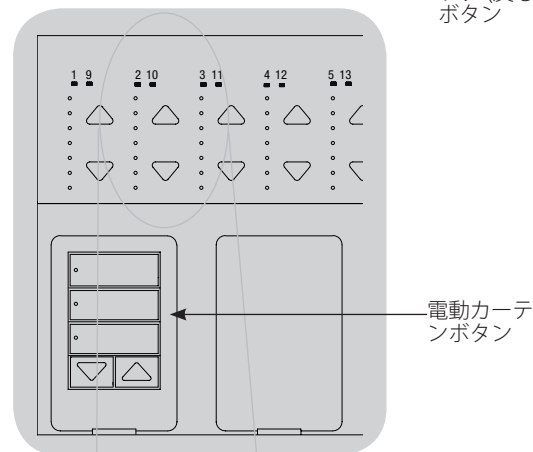
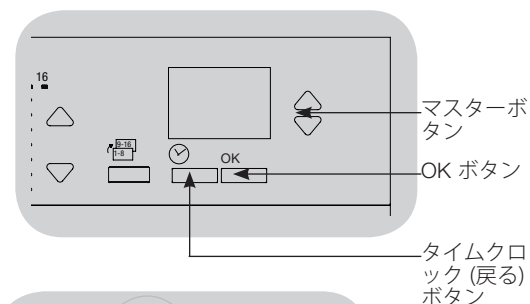
ゾーンレベル、フェード、電動カーテングループ動作の設定

1. プログラミングモードを起動します。
2. マスターボタンで、「Scene setup」(シーンセットアップ) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
3. マスターボタンで、「Level」 にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。マスターボタンで、希望のシーン番号にカーソルを合わせ、OK ボタンを押して決定します。
4. ゾーン アップ/ダウン ボタンで、このシーン用の照明レベルを各ゾーンごとに設定します。ディスプレイにゾーンと照度が表示されますので、希望に合わせて調整します。

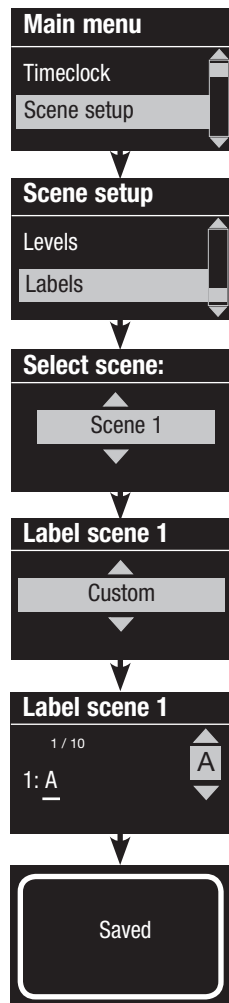
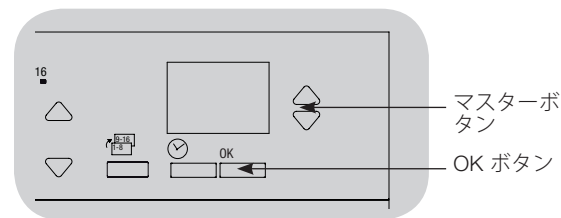
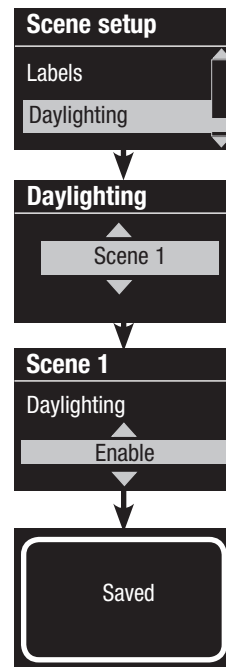
ゾーンを無変化にするには、照明レベルをオフにまで下げ、さらにゾーン ダウンボタンを 3 秒間押し続けます。ディスプレイには 「---」 が表示され、中央 の 3 つのゾーン LED が点灯して、そのゾーンが該当のシーンで無変化になっている (そのゾーンでは該当のシーンが作動しない) ことを知らせます 。

すべてのゾーンの照明レベルを設定したら、OK ボタンを押して決定します。

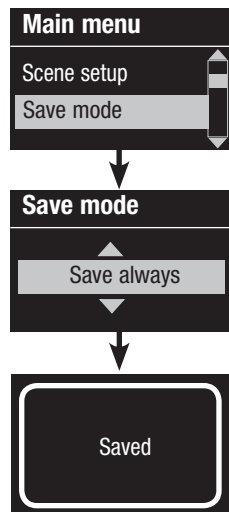
5. マスターボタンでそのシーンのフェードタイムを設定し、OK ボタンを押して決定します。
6. **注:** この手順は、システムに電動カーテンが接続されている場合のみ使用できます。電動カーテンがない場合や、そのシーンで電動カーテングループを設定しない場合は、OK ボタンを押して次の手順に進んでください。

   そのシーンで希望するレベルに、各電動カーテングループを設定します。すべての電動カーテングループがすでに希望のレベルになっている場合、OK ボタンを押して先に進みます。

   電動カーテンのプログラミングについては、「電動カーテン設定の調整」の項目をご覧ください。
7. ディスプレイには、シーンが保存されたことを示す「Saved」が表示されます。
8. プログラミングモードを終了します。

シーンセットアップ

シーン名を作成する (オプション)

1. プログラミングモードを起動します。
2. マスターボタンで、「Scene setup」(シーンセットアップ) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
3. マスターボタンで「Labels」 にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
4. マスターボタンで名前を変更するゾーン番号に切り替え、OK ボタンを押して決定します。
5. マスターボタンで「Custom」にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
6. マスターボタンでアルファベット (小文字、大文字、数字の 0～9 まで) を順に表示します。現在入力している箇所の文字に下線が表示されます。入力したいアルファベットが表示されたら、OK を押し、ゾーン名が完全に入力されるまでこの操作を繰り返します。文字を入力しない部分は、スペースを入力しOK を押します。最大12文字まで入力できます。入力が完了したら、OK ボタンを押して決定します。
7. ディスプレイには、ゾーン名が保存されたことを示す「Saved」が表示されます。
8. プログラミングモードを終了します。

シーンの光センサー機能をオン/オフする

1. プログラミングモードを起動します。
2. マスターボタンで、「Scene setup」(シーンセットアップ) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
3. マスターボタンで、「Daylighting」 にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
4. マスターボタンで名前を変更するゾーン番号に切り替え、OK ボタンを押して決定します。
5. マスターボタンで、「Enable」(オン) または「Disable」(オフ) を選択します。シーンで光センサー機能がオフになっている場合、そのシーンでは、GRAFIK Eye® QS コントロールユニットは、光センサーと連動しません。
   OK を押して保存します。
6. プログラミングモードを終了します。

保存オプションを設定する

GRAFIK Eye® QS コントロールユニットの保存オプションは、クイック シーンプログラミングをオンまたはオフにできるように設定したり、特定の場合にゾーンやシーンボタンを使用できなくするよう設定することができます。

保存オプションの設定

Save by OK (セーブ バイ OK: 初期設定): クイック シーンプログラミングが可能なオプションです。ゾーンの調整は OK ボタンで確定されるまで、保存されません。

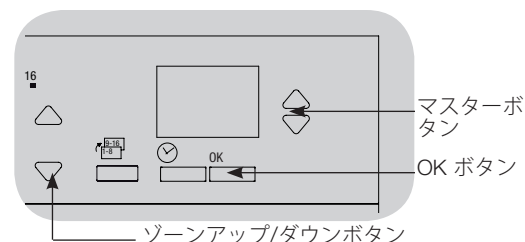
Save always (常に保存): 照明レベルやオフまでのフェードタイムへの変更をすべて自動的に保存するモードです (マスターボタンでの変更は保存されません)。

Save never (保存しない): 照明レベルやフェードタイムへの一時的な変更はどのような場合も保存しないモードです。

Four scenes (4 シーン: 主にレンタルスペースなどで使用): ゾーン アップ/ダウン ボタンの操作を無効にするモードです。マスター アップ/ダウン ボタン、補助コントロール、リモコンによる照度調整は引き続き可能ですが、これらの変更は保存されません。

Button disable (ボタン操作無効: 主に公共空間などで使用): タイムクロックボタン、リモコン、補助コントロールでのみ選択・一時的な変更ができるようにするモードです。

保存オプションを変更する

1. プログラミングモードを起動します。
2. マスターボタンで「Save mode」にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
3. マスターボタンで適用する保存オプションにカーソルを合わせます。各保存オプションの詳細は本ページの下をご覧ください。
4. OK ボタンを押して決定します。ディスプレイには、保存オプションが保存されたことを示すメッセージが表示されます。
5. プログラミングモードを終了します。

クイックシーン プログラミング: セーブ バイ OK モード

GRAFIK Eye® QS コントロールユニットは、工場出荷時は「Save by OK」(セーブ バイ OKモード) に設定されています。このモードでは、プログラミングモードを開始しなくても、すばやくシーンを設定することができます。

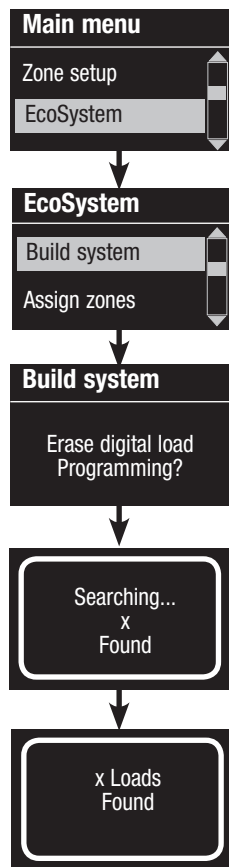
1. 設定したいシーンボタンを押します。LED が点灯し、照明は現在の設定で点灯します。
2. ゾーン アップ/ダウンボタンで、すべての照明を希望のレベルに調整したら、OK ボタンを押して選択します。
3. マスターボタンでフェードタイムを希望の長さに設定し、OK ボタンを押して保存します。
4. ディスプレイには、新しいシーン設定が保存されたことを示す「saved」が表示されます。

注

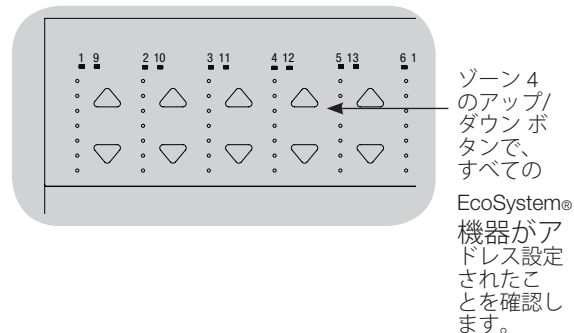
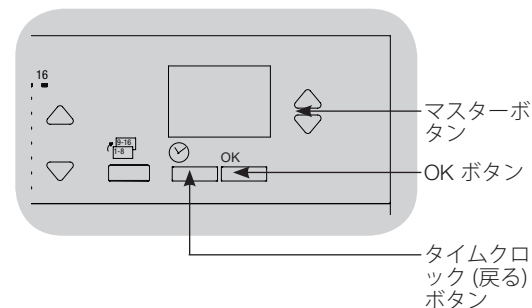
- マスターボタンで照明レベルを変更した場合は、保存されません。
- ゾーンを無変化 (---) に設定するには、ゾーンの照明レベルを 0% にしてから、ゾーン ダウンボタンを 6 秒間押し続けます。

EcoSystem® セットアップ

EcoSystem® 各機器が配線され、電源が供給されたら、システムがコントロールを開始する前にアドレス設定を行なう必要があります。「Build System」(システム構築) コマンドを使用すると自動的にこの操作を実行することができます。

注:「Build System」が実行されると、 EcoSystem® に保存されている既存の プログラミングはすべて消去されます。これには、GRAFIK Eye® *QS* コントロールユニットの EcoSystem® センサープログラミングも含まれます。

システムを構築する

1. プログラミングモードを起動します
2. マスターボタンで、「EcoSystem」にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
3. マスターボタンで、「Build system」(システム構築) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
4. OK ボタンを押して、現在のプログラムをすべて消去して、EcoSystem® 各機器をリセットし、アドレス設定を行なって、システムに接続されているセンサーを認識させます。
5. プログラミングモードを終了します。

注: 「Build System」を実行すると、ゾーン 4 がすべての EcoSystem® 機器をコントロールして、配線のチェックと確認を行ないます (アドレス設定された機器が GRAFIK Eye® QS コントロールユニットのゾーンに割り当てられると、この機能はオフになります)。ゾーン 4 のアップ/ダウン ボタンで、すべての機器が正しくアドレス設定されたことを確認します。応答しない機器がある場合は、「Build System」コマンドを再度行なうか、配線を確認してください。

EcoSystem® セットアップ

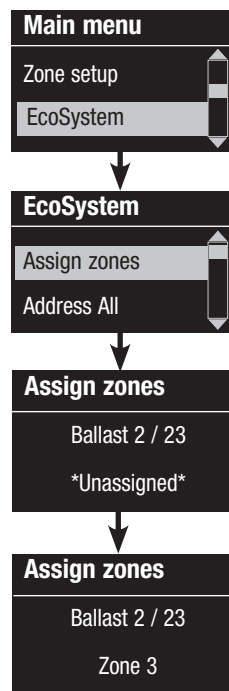
EcoSystem® 機器をゾーンに割当て/解除する

EcoSystem® 各機器は、ゾーンに割当てまたは割当てを解除する前に、システムでアドレス設定する必要があります (前ページ参照)。

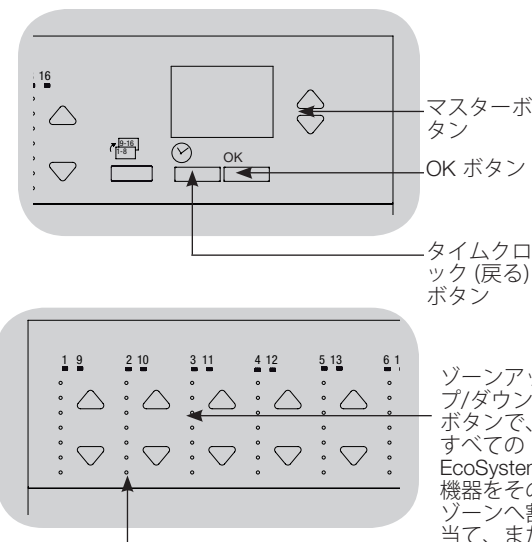
Main menu
Zone setup
EcoSystem

EcoSystem
Assign zones
Address All

Assign zones
Ballast 2 / 23
Unassigned

Assign zones
Ballast 2 / 23
Zone 3

1. プログラミングモードを起動します。
2. マスターボタンで、「EcoSystem」にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
3. マスターボタンで「Assign zones」(ゾーン割当て) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
4. マスターボタンで、リンク上の EcoSystem® 機器 を順に表示します。選択された機器は点滅し、ディスプレイには機器の番号とリンクに接続されている機器数が表示されます。その機器がゾーンに割当てられている場合、ゾーン番号が画面の一番下に表示され、そのゾーン LED が点灯します。割当てられていない場合は、「Unassigned」(割当てなし) と表示されます。
   - ゾーンアップ ボタンを押して機器をそのゾーンに割当てます。
   - ゾーンダウン ボタンを押して、機器のそのゾーンへの割当てを解除ます。
5. タイムクロック (戻る) ボタンを押して、EcoSystem メニューに戻ります。EcoSystem® 各機器は通常のレベルに戻ります。
6. プログラミングモードを終了します。

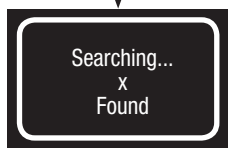
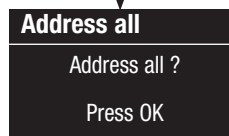
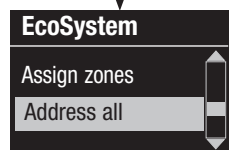
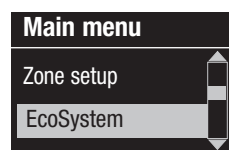
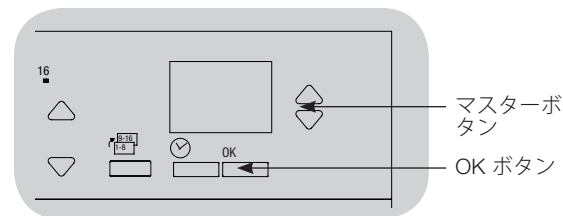
注

- 以前に割当てていたゾーンがある場合、機器はそのゾーンからは解除され、新しいゾーンに割当てられます (各機器を割当てられるゾーンは 1 度に 1 ゾーンのみです)。
- 各機器は EcoSystem® 負荷タイプに設定されているゾーン以外には、割当てられません。
- 負荷タイプの変更方法については、「ゾーンセットアップ」の項目をご覧ください。

EcoSystem® セットアップ

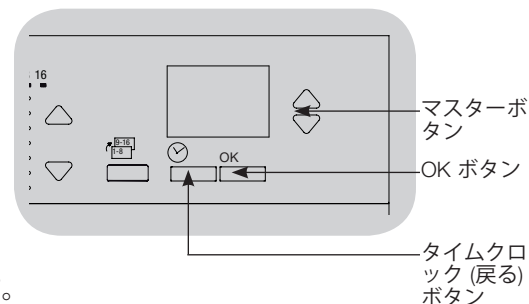
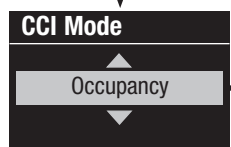
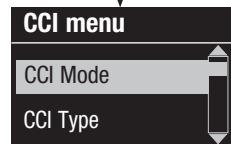
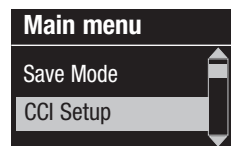
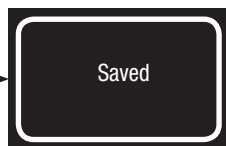
EcoSystem® 機器のアドレスを設定する

「Address All」(全アドレス設定) コマンドを使用すると、「Build System」(システム構築) コマンドを実行することなく、EcoSystem® 機器をシステムに追加/変更することができます (これにより、既存の全プログラミング情報の消去を避けることができます)。

「Address All」コマンドは、交換するEcoSystem® 機器を、システムに追加する新規の機器として扱うため、合計機器数に、新規または交換した機器が追加されます。

注: システムに EcoSystem® 機器がすでに 64 台接続されている場合、機器の交換には「Build System」コマンドを実行する必要があります。

1. プログラミングモードを起動します。
2. マスターボタンで、「EcoSystem」にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
3. マスターボタンで、「Address all」(全アドレス設定) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。システムに接続されているすべての EcoSystem® 機器が全開オンになります。
   各 EcoSystem® 機器はアドレスが設定されているため、GRAFIK Eye® QS コントロールユニットにはその情報が表示され、各機器はローエンドの状態になります。これには数分かかり、その後メインメニュー表示に戻ります。
4. 新規/交換用機器をプログラミングする場合は、EcoSystem® 機器のゾーン割当てに関する説明に従ってください。
5. プログラミングモードを終了します。

内蔵接点入力 (CCI) のセットアップ
(GRAFIK Eye® QS コントロールユニットに直接配線されている場合)

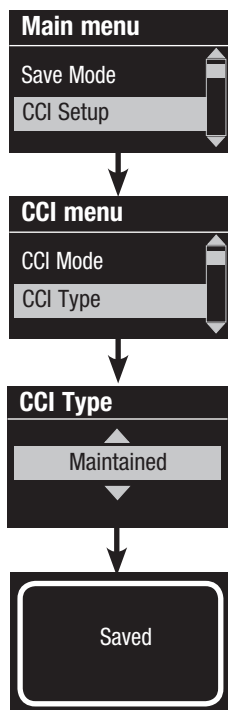
GRAFIK Eye® QS コントロールユニットの背面に設置されている、内蔵接点入力 (CCI) は次のように設定することができます:

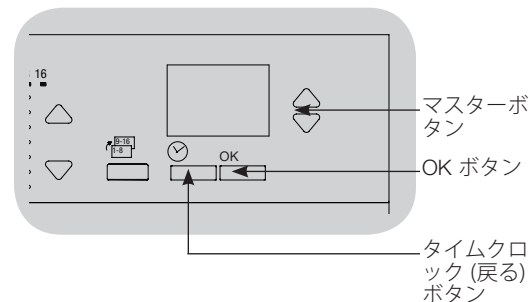
Occupancy (人感センサーモード: 初期設定): 配線されている人感センサーで、検出時の動作を設定すると、利用可能なセンサーに組み入れます。
Afterhours (営業時間外モード): CCI で営業時間外モードの開始および終了ができます。
Timeclock (タイムクロックモード): CCI でタイムクロックがオンおよびオフができます。
Lockout (ロックモード): どのような変更もできないように、コントロールユニットをロックします。CCI により通常作動が開始されるまで、この状態を保ちます。
Never Save (保存しないモード): CCI 使用中は、どのような変更も保存できないようにします。
Disable CCI (内蔵接点入力オフ): CCI によるシステムを操作をオフにします。また、センサー セットアップメニューの利用可能センサーに CCI が表示されなくなります。

接点入力のモードを変更:

1. プログラミングモードを起動します。
2. マスターボタンで、「CCI Setup」(CCI セットアップ) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
3. マスターボタンで「CCI Mode」にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
4. マスターボタンで CCI モードを選択し、OK ボタンを押して決定します。
5. ディスプレイには、設定が保存されたことを示す「Saved」が表示されます。
6. プログラミングモードを終了します。

(次ページに続く)

内蔵接点入力 (CCI) のセットアップ (続き)
(GRAFIK Eye® QS コントロールユニットに直接配線されている場合)

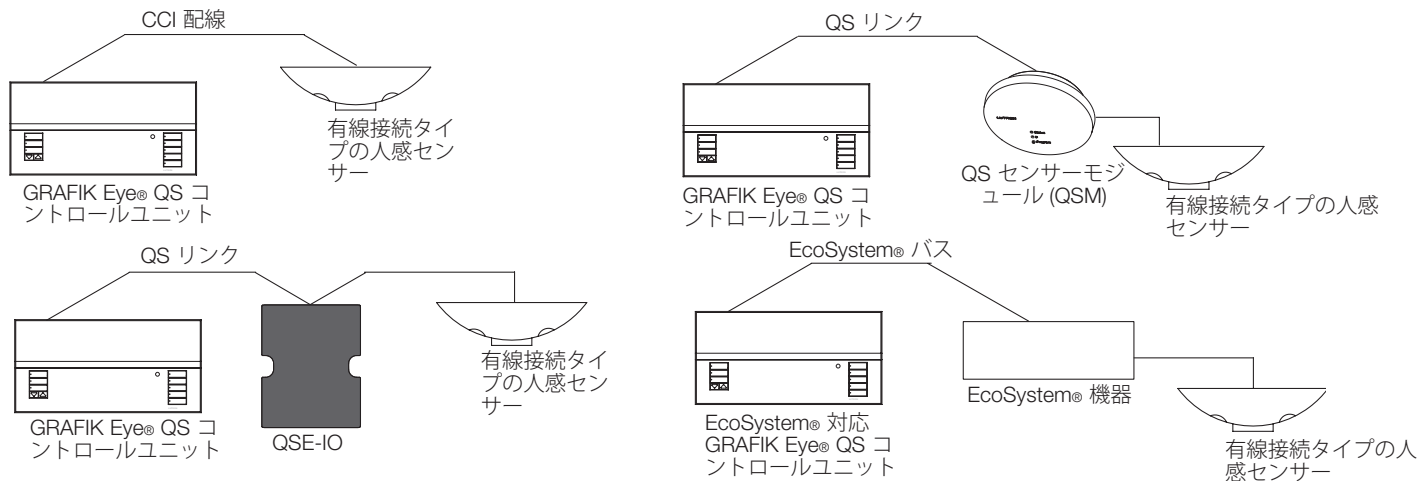
GRAFIK Eye® QS コントロールユニットの背面に設置されている、内蔵型の接点入力 (CCI) は、次のいずれのタイプの接点機器でも使用することができます:

Maintained (連続: 初期設定): GRAFIK Eye® QS コントロールユニットは、接点が閉じた際も、また接点のオープンによっても作動します。
例: CCI モードを営業時間外にすると、接点が閉じると営業時間外を開始し、接点が開くと営業時間外が終了します。

Momentary (ワンショット): GRAFIK Eye® QS コントロールユニットは、接点が閉じられた場合のみ作動します。例: CCI モードを営業時間外にすると、接点が閉じると営業時間外を開始し、接点が開いても変化はありません。次に接点が閉じたときに営業時間外モードが終了します。接点入力のタイプを変更:

1. プログラミングモードを起動します。
2. マスターボタンで、「CCI Setup」(CCI セットアップ) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
3. マスターボタンで「CCI Type」 にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
4. マスターボタンで CCI のタイプを選択し、OK ボタンを押します。
5. ディスプレイには、設定が保存されたことを示す「Saved」が表示されます。
6. プログラミングモードを終了します。

注: CCI の非常時モードはその他モードと異なり、接点が開くと非常時モードが開始され、接点が閉じると終了します。正しく非常時モードを作動させるには、CCI を「Maintained」(連続モード) にしておく必要があります。

人感センサーのセットアップ

Lutron® 人感センサーを接続すると、GRAFIK Eye® QS ワイヤレス コントロールユニットはセンサーの感知により自動的に照明レベルを調整します。

有線接続タイプの人感センサーは、GRAFIK Eye® QS コントロールユニットの接点入力や、QS センサーモジュール (QSM)、GRAFIK Eye® QS システムの接点インターフェース、GRAFIK Eye® QS コントロールユニットにアドレス設定されている EcoSystem® 機器に接続することができます。

ワイヤレスタイプの Radio Powr Savr™ 人感センサーは、GRAFIK Eye® QS ワイヤレスまたは QSM と接続することができます。ワイヤレスセンサーは、GRAFIK Eye® QS ワイヤレスシステムに認識させる前に、まずこれらの機器とワイヤレス接続する必要があります。

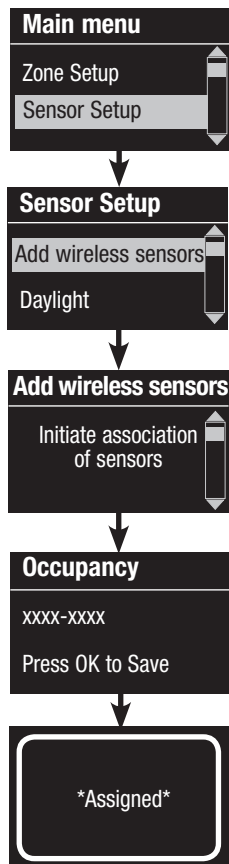
メモ:ワイヤレス対応ユニットのみの情報。お住まいの地域で適用される可否をご確認ください。

GRAFIK Eye® QS コントロールユニットで人感センサーをプログラムするには、事前に次の手順が必要です。

1. 有線またはワイヤレスタイプのセンサーを接続/ワイヤレス接続します。
2. 動作モードを選択します (シーンまたはゾーンコントロール)。
3. センサーを選択します。
4. センサーの動作を選択します。
5. センサーの設定を行ないます (オプション)。

人感センサーのセットアップ

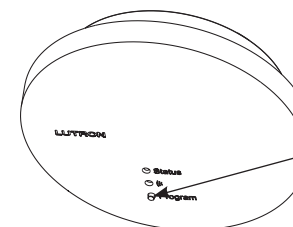
ワイヤレス人感センサーと GRAFIK Eye® QS ワイヤレス コントロールユニットを接続する (ワイヤレス対応ユニットのみ):

メモ:ワイヤレス対応ユニットのみの情報。お住まいの地域で適用される可否をご確認ください。

1. GRAFIK Eye® QS コントロールユニットのモードが「オン」になっていることを確認します。
2. プログラミングモードを起動します。
3. マスターボタンで、「Sensor setup」にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
4. マスターボタンで「Add wireless sensors」にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
5. センサーの「Lights Off」または💡ボタンを、センサーが点滅するまで 6 秒間押し続けます。GRAFIK Eye® QS コントロールユニットのディスプレイに、センサーのシリアル番号が表示されます。
6. GRAFIK Eye® QS コントロールユニットの OK ボタンを押します。ディスプレイに、センサーが接続されたことが示されます。(ワイヤレス光センサーを GRAFIK Eye® QS コントロールユニットから解除し、購入時の状態にセンサーを戻す場合は、Radio Powr Savr™ 光センサーの取付説明書をご参照ください。解除すると、GRAFIK Eye® QS コントロールユニットからそのプログラミングも消去されます。
7. 上記の手順を、ワイヤレス接続するすべてのセンサーで繰り返します。
8. プログラミングモードを終了します。

Radio Powr Savr™ 光センサー

QS センサーモジュール経由でワイヤレス光センサーをワイヤレス接続する:

1. QSM のプログラムボタンを 3 秒間押し続け、プログラミングモードを起動します。ピーという音が 1 回聞こえ、ステータス LED が点滅を始めます。GRAFIK Eye® QS コントロールユニットのディスプレイに、QSM がプログラミングモードになったことが表示されます。
2. 光センサーの「Lights Off」または💡を 6 秒間押し続けます。QSM から、接続を確認するピーという音が 3 回聞こえます。
3. QSM のプログラムボタンを 3 秒間押し続けると、プログラミングモードが終了します。

注: ワイヤレス信号の通信可能範囲は通常構造通過で 9 m、見通しで 18 m です。

QS センサーモジュール (QSM)

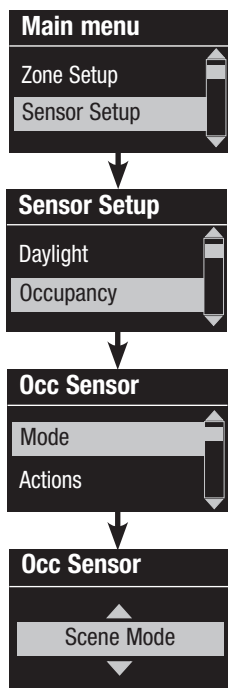
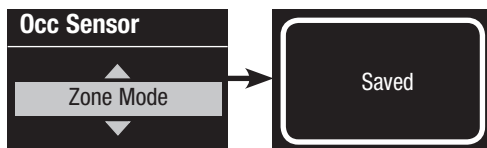
人感センサーのセットアップ

メモ:ワイヤレス対応ユニットのみの情報。お住まいの地域で適用される可否をご確認ください。

GRAFIK Eye® QS システムへ給電されると (初回)、まず接点入力に接続された人感センサー (および接続されている最初の 3 台の Radio Powr Savr™ 人感センサー) は、自動的にシーンモードで作動を開始します。初期設定では、在室の場合“動作なし“、無人の場合“シーンオフ“ になっています。その他のセンサーの追加や、代替機能を使用する場合は、必要なプログラミングをすべて行なってください。

動作モードを選択する

シーンモード (初期設定) は、GRAFIK Eye® QS コントロールユニットが、1 部屋や 1 つのエリアをコントロールする場合に便利なモードです。GRAFIK Eye® QS コントロールユニットには、在室の場合に特定のシーンを開始し、無人の場合には別のシーンを作動させることができるセンサーを、最大 4 台まで接続することができます。

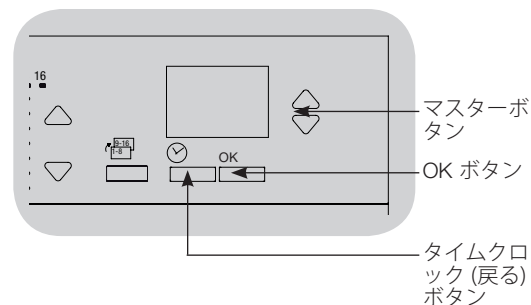
ゾーンモード は、GRAFIK Eye® QS コントロールユニットが、複数の部屋やエリアの照明をコントロールする場合に便利なモードです。各ゾーンに最大 4 台までセンターを接続することでき (1 台のセンサーは複数のゾーンに接続することも可能)、在室の場合と無人の場合に、ご希望のレベルへ各ゾーンの照明を変更します。

Main menu
Zone Setup
Sensor Setup

Sensor Setup
Daylight
Occupancy

Occ Sensor
Mode
Actions

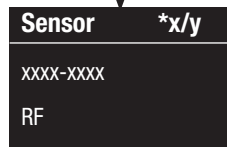
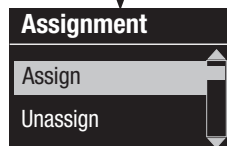
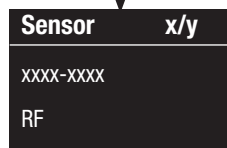
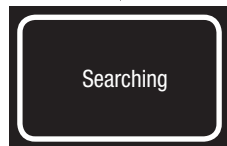
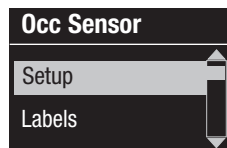
Occ Sensor
Scene Mode

1. プログラミングモードを起動します。
2. マスターボタンで、「Sensor setup」 にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
3. マスターボタンで「Occupancy」 にカーソルを合わせ、OKボタンを押します。
4. マスターボタンで、「Mode」 にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
5. マスターボタンで、センサーを各ゾーンに割当てるための「Zone Mode」か、「Scene Mode」(初期設定) にカーソルを合わせます。OK ボタンを押して決定します。モードが選択されたことを示す「Saved」がディスプレイに表示され、光センサー画面に戻ります。

   注: モードを変更すると、以前の人感センサー割当てはすべて消去されます。

人感センサーのセットアップ

Scene Mode

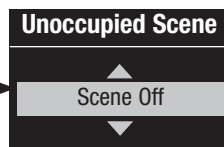
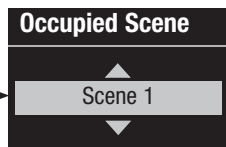
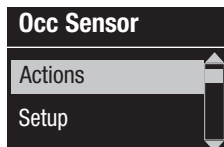
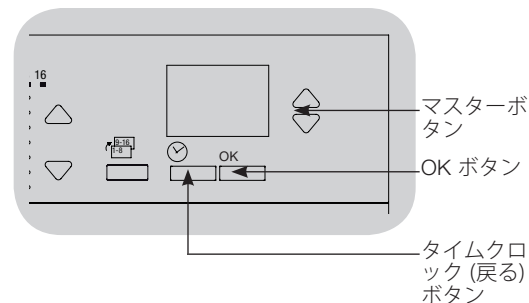
この手順を行なうことで、GRAFIK Eye® QS コントロールユニットへ、最大で 4 台の人感センサーを接続することができます。

メモ:ワイヤレス対応ユニットのみの情報。お住まいの地域で適用される可否をご確認ください。

センサーを選択する

1. 人感センサーをユニットに接続し、「Scene Mode」に設定します (これまでにこの手順を行なっていない場合)。
2. マスターボタンで、「Setup」にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。ディスプレイには、利用可能なセンサーをユニットが認識している間、「Searching」(検索中) が表示されます。
3. マスターボタンで、利用可能な人感センサーを順に表示します。割当てるセンサーが表示されたら、OK ボタンを押して選択します。続いてメニューから「Assign」(割当て) または「Unassign」(解除) を選択し OK を押します。センサーが割当てられると、アスタリスクマーク (*) がセンサーのリストに表示されます。その他のセンサーについても同じ手順を繰り返します。

注: ワイヤレスセンサーが認識されない場合、適切にコントロールユニットへワイヤレス接続されているか確認してください。

センサーの動作を設定する

1. タイムクロック (戻る) ボタンを押して、
   人感センサーの画面に戻ります。マスターボタンで、「Actions」(動作) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。初期設定では、在室の場合のシーンは“動作なし“、無人の場合のシーンは“シーンオフ“ になっています。
2. マスターボタンで、在室の場合に実行するシーンにカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。無人の場合に使用するシーンについて、同じ手順を行ないます。OK ボタンを押して決定します。
3. プログラミングモードを終了します。

人感センサーのセットアップ

Zone Mode

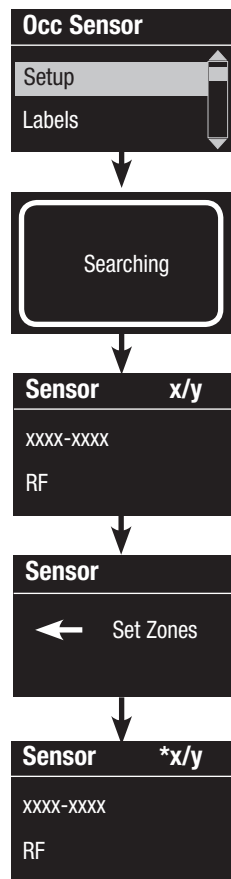
この手順を行なうことで、GRAFIK Eye® QS コントロールユニットへ、1 ゾーンにつき最大 4 台の人感センサーを接続することができます。センサーは 1 つのゾーンに複数台追加することも可能です。
メモ:ワイヤレス対応ユニットのみの情報。お住まいの地域で適用される可否をご確認ください。

Occ Sensor
Setup
Labels

Searching

Sensor x/y
xxxx-xxxx
RF

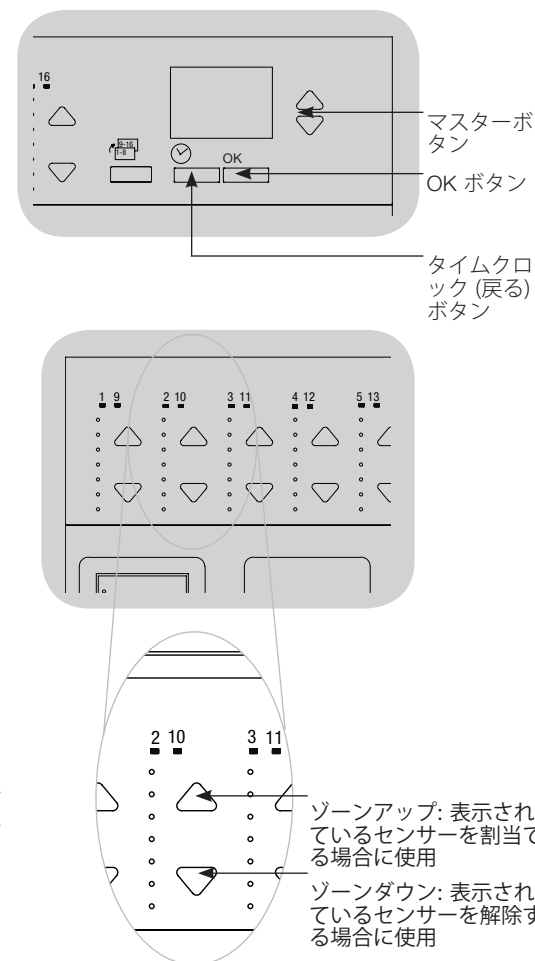
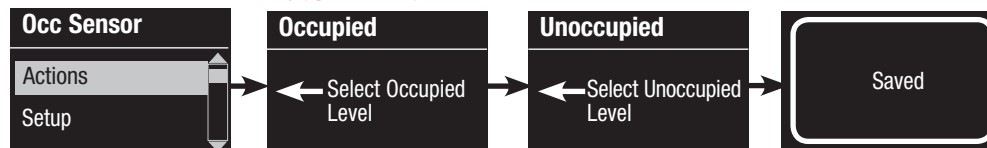
Sensor
Set Zones

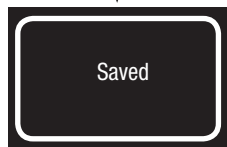
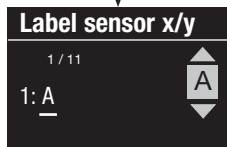
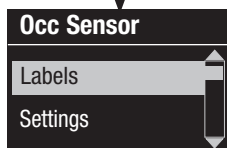
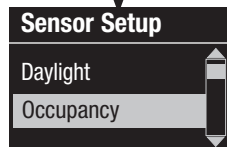
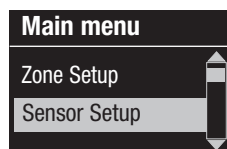
Sensor *x/y
xxxx-xxxx
RF

センサーを選択する

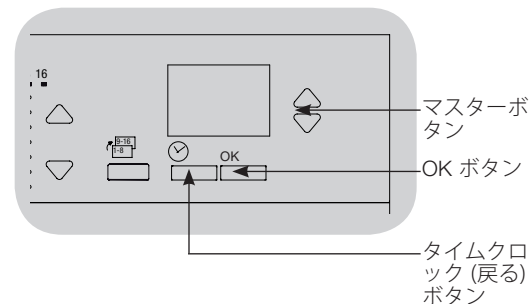
1. センサーをユニットに接続し、「Zone Mode」に設定します (これまでにこの手順を行なっていない場合)。
2. マスターボタンで「Setup」にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
3. 1 ゾーンにつき最大 4 台までセンサーを割当てることができ、1 台のセンサーを複数のゾーンに割当てることも可能です。マスターボタンを使用してセンサーを順に表示し、割当てまたは割当てを解除するセンサーにカーソルを合わせ、OK ボタンを押して選択します。
4. 割当てるゾーンのゾーン アップ/ダウンボタンを押して、センサーを割当てまたは解除します。ゾーン アップボタンで表示されているセンサーを割当て、ダウンボタンで解除することができます。タイムクロック (戻る) ボタンを押して利用可能なセンサーのリストに戻ります。センサーが割当てられると、アスタリスクマーク (*) がセンサーのリストに表示されます。その他のセンサーについても同じ手順を繰り返します。

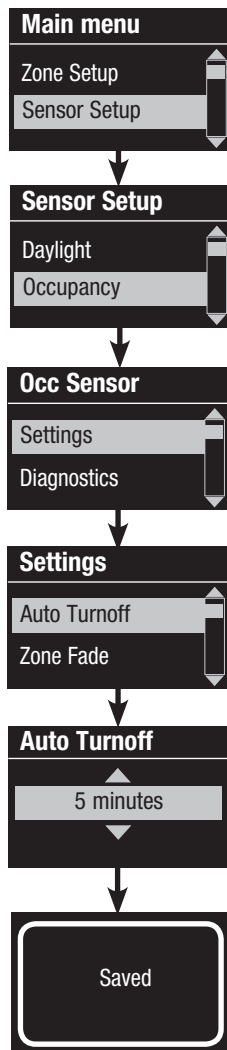
注:ワイヤレスセンサーが認識されない場合、適切にコントロールユニットへワイヤレス接続されているか確認してください。

センサーの動作を設定する

1. タイムクロック (戻る) ボタンを押して、人感センサーの画面に戻ります。マスターボタンで、「Actions」にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
2. ゾーン アップ/ダウンボタンを押して、人が感知されている場合の照明レベルを調整し、OK ボタンを押します。
   ゾーンを無変化にするには、照明レベルをオフにまで下げ、さらにゾーン ダウンボタンを 3 秒間押し続けます。ディスプレイには 「---」が表示され、中央 3 つのゾーン LED が点灯して、そのゾーンが該当のシーンで無変化になっている (そのゾーンでは該当のシーンが作動しない) ことを知らせます 。
3. ゾーン アップ/ダウンボタンを押して、無人の場合の照明レベルを調整し、OK ボタンを押します。
4. プログラミングモードを終了します。

人感センサーのセットアップ

人感センサー名を作成する (オプション)

メモ:ワイヤレス対応ユニットのみの情報。お住まいの地域で適用される可否をご確認ください。

1. プログラミングモードを起動します。
2. マスターボタンで、「Sensor Setup」にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
3. マスターボタンで「Occupancy」 にカーソルを合わせ、OKボタンを押します。
4. マスターボタンで「Labels」 にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
5. マスターボタンで名前を作成する人感センサーを表示し、OK ボタンを押します。
6. マスターボタンでアルファベット (小文字、大文字、数字の 0〜9 まで) を順に表示します。現在入力している箇所の文字に下線が表示されます。入力したいアルファベットが表示されたら、OK を押し、人感センサー名が完全に入力されるまでこの操作を繰り返します。文字を入力しない部分は、スペースを入力し OK を押します。入力が完了したら、OK ボタンを押して決定します。ディスプレイには、センサー名が保存されたことを示す「Saved」が表示されます。その他の名前を作成するセンサーについても同じ手順を繰り返します。
7. プログラミングモードを終了します。

人感センサーのセットアップ

人感センサーの設定を行なう (オプション)

人感センサーの設定

注:各設定は、GRAFIK Eye® QS コントロールユニットへ接続されているすべてのセンサーで有効となります。

メモ:ワイヤレス対応ユニットのみの情報。お住まいの地域で適用される可否をご確認ください。

Grace Period (保留時設定): GRAFIK Eye® QS コントロールユニットが、無人の状態へ移行している際、この保留時になんらかの動きが検知されると、照明が直前の在室レベルに戻ります。設定可能範囲: 15～30 秒 (初期設定は 15 秒)。

Vacancy Delay (無人ディレイ設定): 無人状態が検出された後、無人時のシーンが開始する前に、ディレイを追加します。十分なディレイがない場合に、この設定を使用してください。

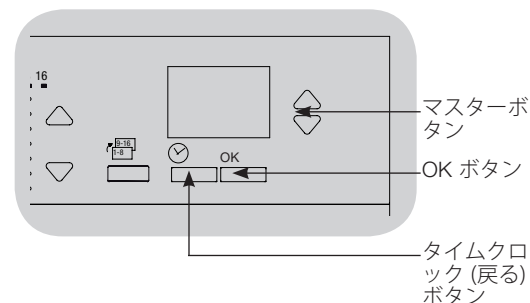
設定可能範囲: 0～30 秒 (初期設定は 0 秒)。

Auto Turnoff (自動オフ設定): 人感センサーが在室を感知する前に、センサーに接続している照明をオンにした場合にも、一定のディレイの後、自動で照明がオフになるよう GRAFIK Eye® QS コントロールユニットを設定することができます。ディレイ時間を 0 (無効) に設定すると、この機能は無効になります。

設定可能範囲: オフまたは 1～30 秒 (初期設定はオフ)。

Zone Fade (ゾーンフェード設定): ゾーンモードの際に、設定した時間が過ぎると、照明を無人レベルまでフェードすることができます。設定範囲: 0～59 秒、1～10 分 (初期設定は 10 秒)。

センサーの設定を行なう:

1. プログラミングモードを起動します。
2. マスターボタンで、「Sensor Setup」にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
3. マスターボタンで「Occupancy」 にカーソルを合わせ、OKボタンを押します。
4. マスターボタンで、「Settings」 にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
5. マスターボタンで設定を行なう項目にカーソルを合わせ、OK ボタンを押して決定します。
6. マスターボタンで選択した設定の数値を選び、OK ボタンを押して決定します。
7. ディスプレイには、設定が保存されたことを示す「Saved」が表示されます。
8. プログラミングモードを終了します。

光センサーのセットアップ

Lutron® 光センサーを接続すると、GRAFIK Eye® QS ワイヤレスコントロールは、室内に入る自然光の変化に合わせ、照明レベルを自動的に調整します。

有線接続タイプの光センサーは QS システムの QS センサーモジュール (QSM) または GRAFIK Eye® QS コントロールユニットにアドレス設定されている EcoSystem® 機器に接続することができます。

ワイヤレスタイプの Radio Powr Savr™ 光センサーは、GRAFIK Eye® QS コントロールユニットまたは QSM に接続することができます。ワイヤレスセンサーは、GRAFIK Eye® QS ワイヤレスシステムに認識させる前に、まずこれらの機器の 1 つとワイヤレス接続させる必要があります。

メモ:ワイヤレス対応ユニットのみの情報。お住まいの地域で適用される可否をご確認ください。

GRAFIK Eye® QS コントロールユニットで光センサーをプログラムするには、事前に次の手順が必要です。各手順の詳細説明は次のページをご覧ください。

1. 有線またはワイヤレスタイプのセンサーを接続/ワイヤレス接続します。
2. 動作モードを選択します: (ゾーンまたはグループコントロール)。(グループモードを選択する場合は、グループを構築してください。)
3. センサーをゾーンまたはグループに割当てます。
4. 自然光に対し適切な応答をするか、システムを較正します。
   注: 光センサーの機能は、DMX 負荷タイプには対応していません。

光センサーのセットアップ

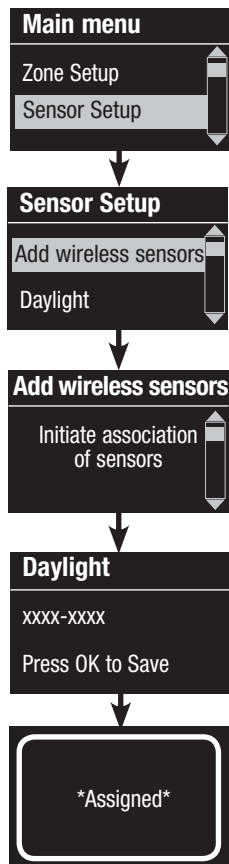
ワイヤレス光センサーと GRAFIK Eye® QS ワイヤレス コントロールユニットを接続する (ワイヤレス対応ユニットのみ):

メモ:ワイヤレス対応ユニットのみの情報。お住まいの地域で適用される可否をご確認ください。

Main menu
Zone Setup
Sensor Setup

Sensor Setup
Add wireless sensors
Daylight

Add wireless sensors
Initiate association of sensors

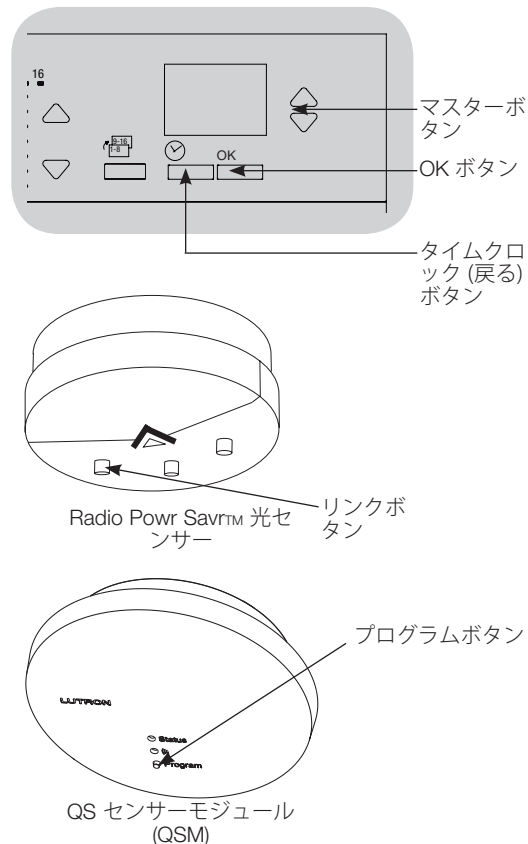
Assigned

1. GRAFIK Eye® QS コントロールユニットのモードが「オン」になっていることを確認します。
2. プログラミングモードを起動します。
3. マスターボタンで、「Sensor setup」にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
4. マスターボタンで「Add wireless sensors」にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
5. センサーのリンクボタンを、センサーが点滅するまで 3 秒間押し続けます。GRAFIK Eye® QS コントロールユニットのディスプレイに、センサーのシリアル番号が表示されます。
6. GRAFIK Eye® QS コントロールユニットの OK ボタンを押します。ディスプレイに、センサーが接続されたことが示されます。(ワイヤレス光センサーを GRAFIK Eye® QS コントロールユニットから解除し、購入時の状態にセンサーを戻す場合は、Radio Powr SavrTM 光センサーの取付説明書をご参照ください。解除すると、GRAFIK Eye® QS コントロールユニットからそのプログラミングも消去されます。
7. 上記の手順を、ワイヤレス接続するすべてのセンサーで繰り返します。
8. プログラミングモードを終了します。

QS センサーモジュール経由でワイヤレス光センサーをワイヤレス接続する:

1. QSM のプログラムボタンを 3 秒間押し続け、プログラミングモードを起動します。ピーという音が 1 回聞こえ、ステータス LED が点滅を始めます。GRAFIK Eye® QS コントロールユニットのディスプレイに、QSM がプログラミングモードになったことが表示されます。
2. 光センサーのリンクボタンを 6 秒間押し続けます。QSM から、接続を確認するピーという音が 3 回聞こえます。
3. QSM のプログラムボタンを 3 秒間押し続けると、プログラミングモードが終了します。

注: ワイヤレス信号の通信可能範囲は通常構造通過で 9 m、見通しで 18 m です。

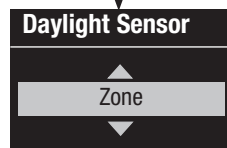
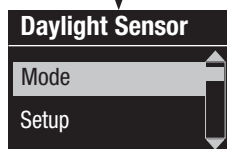
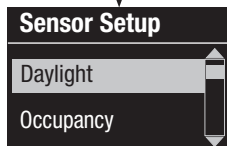
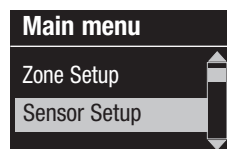
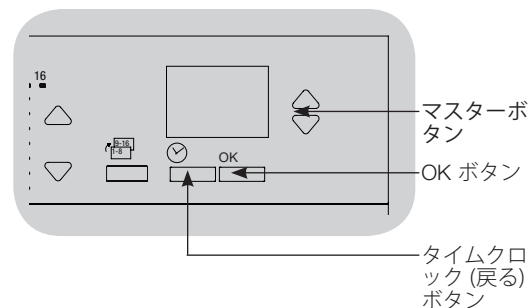
Radio Powr SavrTM 光センサー

QS センサーモジュール (QSM)

光センサーのセットアップ

モードを設定する

メモ:ワイヤレス対応ユニットのみの情報。お住まいの地域で適用される可否をご確認ください。

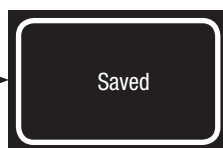
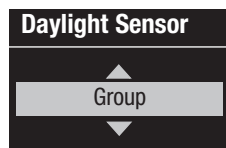
Zone Mode (ゾーンモード: 初期設定) は、GRAFIK Eye® QS コントロールユニットが、複数の部屋やエリアの照明をコントロールする場合に便利なモードです。ゾーンモードにより、各ゾーンの照明レベルは、計測した自然光のレベルに応じて調整されます。各ゾーンに割当てられるセンサーは 1 台までです (ただし 1 台のセンサーを複数のゾーンに割当てることは可能です)。各ゾーンはそれぞれ、特定の照明レベルのターゲットを設定することができます。

Group Mode (グループモード) は、光センサーを使用する照明のグループが複数のゾーンに渡る場合に便利なモードです。システム内のいずれの EcoSystem® 負荷でも、グループを構成することができます。便宜上、電源電圧負荷タイプ (ゾーン 1〜3 のみ) に設定されているゾーンは、利用可能なグループに含まれます。各グループに割当てられるセンサーは 1 台までです (ただし 1 台のセンサーを複数のグループに割当てることは可能です)。各部グループにはそれぞれ、照明レベルの目標値を設定することができます。

Main menu
Zone Setup
Sensor Setup

Sensor Setup
Daylight
Occupancy

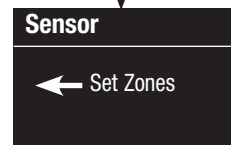
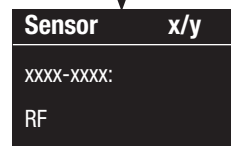
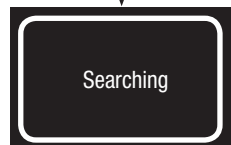
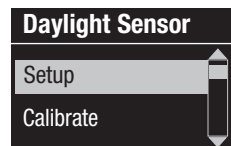
Daylight Sensor
Mode
Setup

1. プログラミングモードを起動します。
2. マスターボタンで、「Sensor setup」にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
3. マスターボタンで、「Daylight」にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
4. マスターボタンで、「Mode」 にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
5. マスターボタンで、センサーを各ゾーンに割当てるための「Zone Mode」か、*EcoSystem* 負荷のグループ (または電源電圧ゾーン) にセンサーを割当てるための「Group Mode」に、カーソルを合わせます。OK ボタンを押して決定します。モードが選択されたことを示す「Saved」が表示され、光センサー画面に戻ります。

注: モードを変更すると、以前の光センサー割当てはすべて消去されます。

光センサーのセットアップ

Zone Mode

この手順を行なうことで、GRAFIK Eye® QS コントロールユニットのゾーンへ、センサーを割当てることができます。各ゾーンに割当てられるセンサーは 1 台までですが、1 台のセンサーを複数のゾーンに割当てることは可能です。

メモ:ワイヤレス対応ユニットのみの情報。お住まいの地域で適用される可否をご確認ください。

センサーを選択する

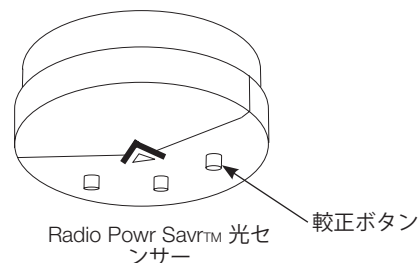
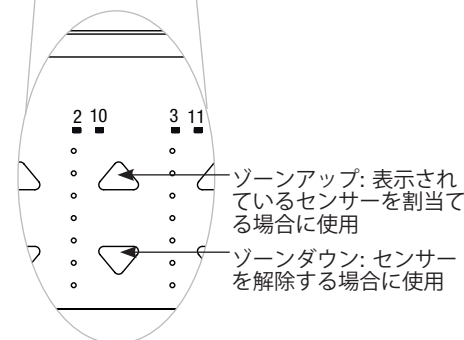
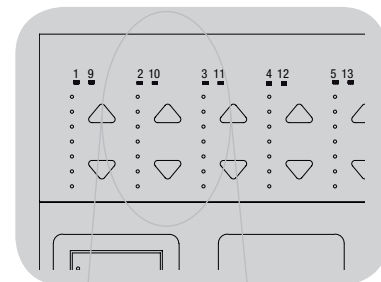
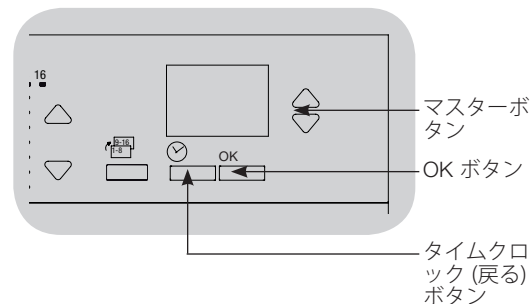
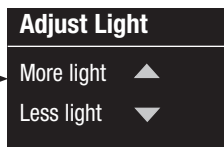
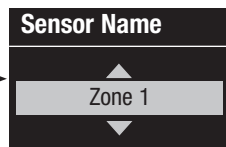
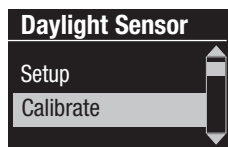
1. 光センサーをユニットに接続し、「Zone Mode」に設定します (これまでにこの手順を行なっていない場合)。
2. マスターボタンで、「Setup」にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
3. マスターボタンを使用してセンサーを順に表示し、割当てまたは解除したいセンサーにカーソルを合わせ、OK ボタンを押して選択します。
4. 割当てるゾーンのゾーン アップ/ダウンボタンを押して、ゾーンにセンサーを割当てまたは解除します。ゾーン アップボタンで表示されているセンサーを割当て、ダウンボタンで解除することができます。タイムクロック (戻る) ボタンを押して利用可能なセンサーのリストに戻ります。その他のセンサーについても同じ手順を繰り返します。

Radio Powr Savr™ 光センサー

センサーを較正する

1. 較正するゾーンに割当てられている Radio Powr Savr™ 光センサーのいずれかを、較正モードにします。較正モードにするには、センサーが点滅を始めるまで、較正ボタンを 6 秒間押し続けます。

   注: 5 分経過すると、センサーは較正モードから通常のモードに戻ります。
2. タイムクロック (戻る) ボタンを押して光センサーの画面に戻ります。マスターボタンで、「Calibrate」(較正) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
3. マスターボタンで「desired zone」 にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
4. マスターボタンを使用し、そのゾーンで較正する照明レベルを選択して、OK ボタンを押します。較正するすべてのゾーン照明レベルで同様の手順を繰り返します。
5. プログラミングモードを終了します。

   注: ワイヤレスセンサーが認識されない場合、適切にコントロールユニットへワイヤレス接続されているか確認してください。

光センサーのセットアップ

Group Mode

この手順を行なうことで、EcoSystem® 対応 GRAFIK Eye® QS コントロールユニットへ接続されている、EcoSystem® 機器グループへ、光センサーを割当てることができます。電源電圧ゾーンへもこのモードを使用して、光センサーを割当てることが可能です。各グループに割当てられるセンサーは 1 台までです (ただしセンサーを複数のグループに割当てることは可能です)。

メモ:ワイヤレス対応ユニットのみの情報。お住まいの地域で適用される可否をご確認ください。

もしくは

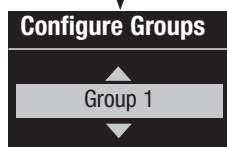
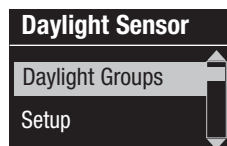
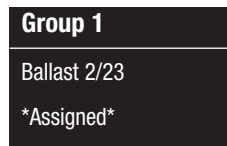
Group 1

Ballast 2/23

Assigned

もしくは

Group 1

Ballast 2/23

Group 2

グループを設定する

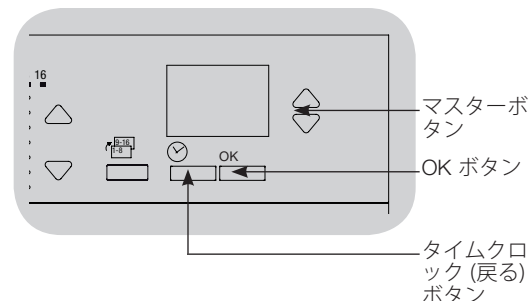
1. 光センサーをユニットに接続し (これまでにこの手順を行なっていない場合)、「Group Mode」 に設定します。
2. マスターボタンで「Daylight Groups」 にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
3. マスターボタンで、利用可能な光センサーグループを順に表示します。EcoSystem® 負荷のグループを、最大で 16 グループまで設定することができます。OK ボタンを押して決定します。
4. マスターボタンで、リンク上の EcoSystem® 機器を順に表示します。OK ボタンを押して、選択した機器を追加または削除することができます。現在選択されている機器について、現在の割当て状況が表示されます:

   Unassigned (未割当て**)** いずれのグループにも割当てられていない場合

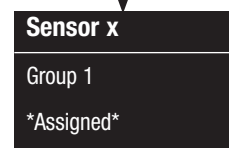
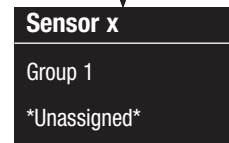
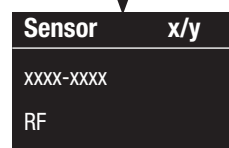
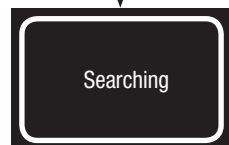
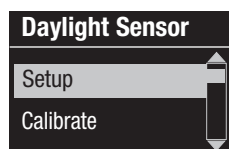
   Assigned (割当て済み**)** 選択 (表示) されているグループに割当てられている場合

   Group (グループ**)** その他のグループに割当てられている場合
5. タイムクロック (戻る) ボタンを押して、利用可能なグループの表示に戻り、この手順を繰り返して、各機器をその他のグループに割当てます。

   注: 各 EcoSystem® 機器を、割当てられるグループは 1 つだけです。あるグループへすでに割当てられている機器をその他のグループへ割当てた場合、以前の割当ては無効となります。

(次ページに続く)

光センサーのセットアップ

グループモード (続き)

メモ:ワイヤレス対応ユニットのみの情報。お住まいの地域で適用される可否をご確認ください。

センサーを選択する

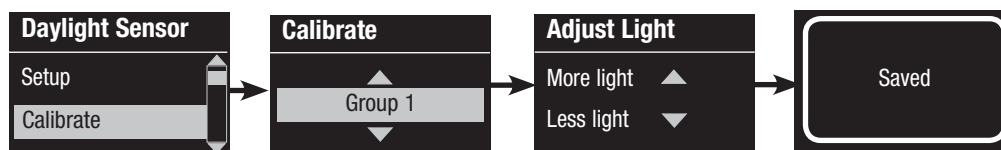
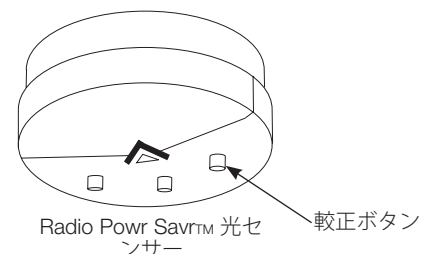
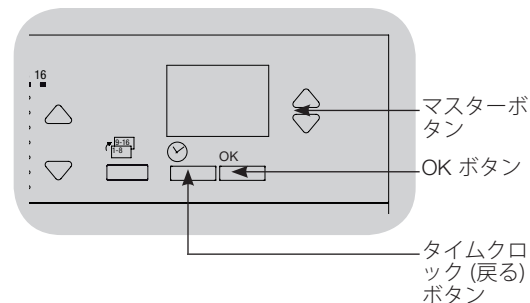
1. タイムクロック (戻る) ボタンを押して、光センサーのメニューに戻ります。
2. マスターボタンで「Setup」にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
3. マスターボタンで、利用可能な光センサーを順に表示します。割当てるセンサーが表示されたら、OK ボタンを押して選択します。
4. マスターボタンで、利用可能なグループを順に表示します。割当てるグループが表示されたら、OK ボタンを押して、センサーをそのグループへ割当てまたは解除します。タイムクロック (戻る) ボタンを押して利用可能なセンサーのリストに戻ります。その他のセンサーについても同じ手順を繰り返します。

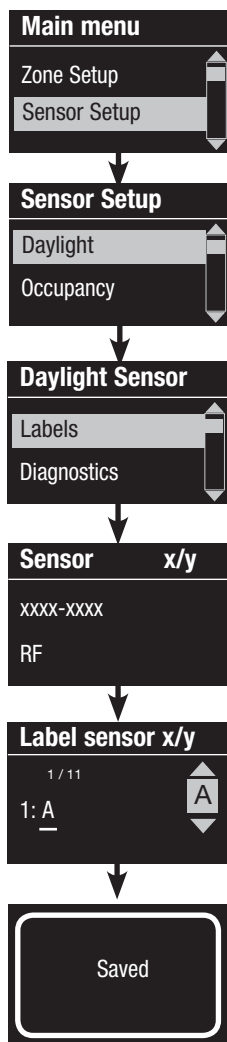
センサーを較正する

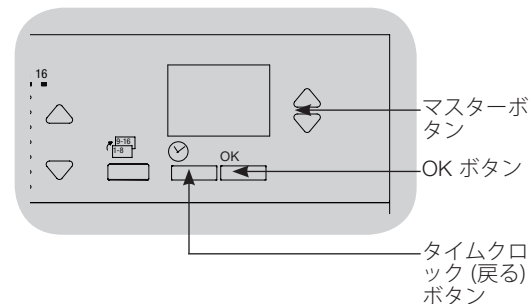
1. 較正するゾーンに割当てられている Radio Powr Savr™ 光センサーのいずれかを、較正モードにします。較正モードにするには、センサーが点滅を始めるまで、較正ボタンを 6 秒間押し続けます。

   注: 5 分経過すると、センサーは較正モードから通常のモードに戻ります。
2. タイムクロック (戻る) ボタンを押して光センサーの画面に戻ります。マスターボタンで、「Calibrate」(較正) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
3. マスターボタンで、較正するグループにカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
4. マスターボタンを使用し、そのグループで較正する照明レベルを選択し、OK ボタンを押します。較正するすべてのグループの照明レベルで同様の手順を繰り返します。
5. プログラミングモードを終了します。

   注: ワイヤレスセンサーが認識されない場合、適切にコントロールユニットへワイヤレス接続されているか確認してください。

Radio Powr Savr™ 光センサー

光センサーのセットアップ

光センサー名を作成する (オプション)

メモ:ワイヤレス対応ユニットのみの情報。お住まいの地域で適用される可否をご確認ください。

1. プログラミングモードを起動します。
2. マスターボタンで、「Sensor Setup」にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
3. マスターボタンで、「Daylight」にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
4. マスターボタンで「Labels」 にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
5. マスターボタンで名前を作成する光センサーを表示し、OK ボタンを押します。
6. マスターボタンでアルファベット (小文字、大文字、数字の 0〜9 まで) を順に表示します。現在入力している箇所の文字に下線が表示されます。入力したいアルファベットが表示されたら、OK を押し、人感センサー名が完全に入力されるまでこの操作を繰り返します。文字を入力しない部分は、スペースを入力し OK を押します。入力が完了したら、OK ボタンを押して決定します。ディスプレイには、センサー名が保存されたことを示す「Saved」が表示されます。その他の名前を作成するセンサーについても同じ手順を繰り返します。
7. プログラミングモードを終了します。

Pico® ワイヤレスコントロールのセットアップ

ルートロンの Pico® ワイヤレスコントロールは、GRAFIK Eye® QS システムに接続して、特定のゾーンの照明レベルをコントロールしたり、シーンをコントロールすることができます。Pico® ワイヤレスコントロールは、GRAFIK Eye® ワイヤレス コントロールユニットに直接ワイヤレス接続することも、QS リンクに配線されている QS センサーモジュール (QSM) を経由して有線/ワイヤレスタイプの GRAFIK Eye® QS コントロールユニットに接続することも可能です。

メモ:ワイヤレス対応ユニットのみの情報。お住まいの地域で適用される可否をご確認ください。

QS リンク

GRAFIK Eye® QS コントロールユニット

Pico® ワイヤレスコントロール

GRAFIK Eye® QS コントロールユニット

QS センサーモジュール (QSM)

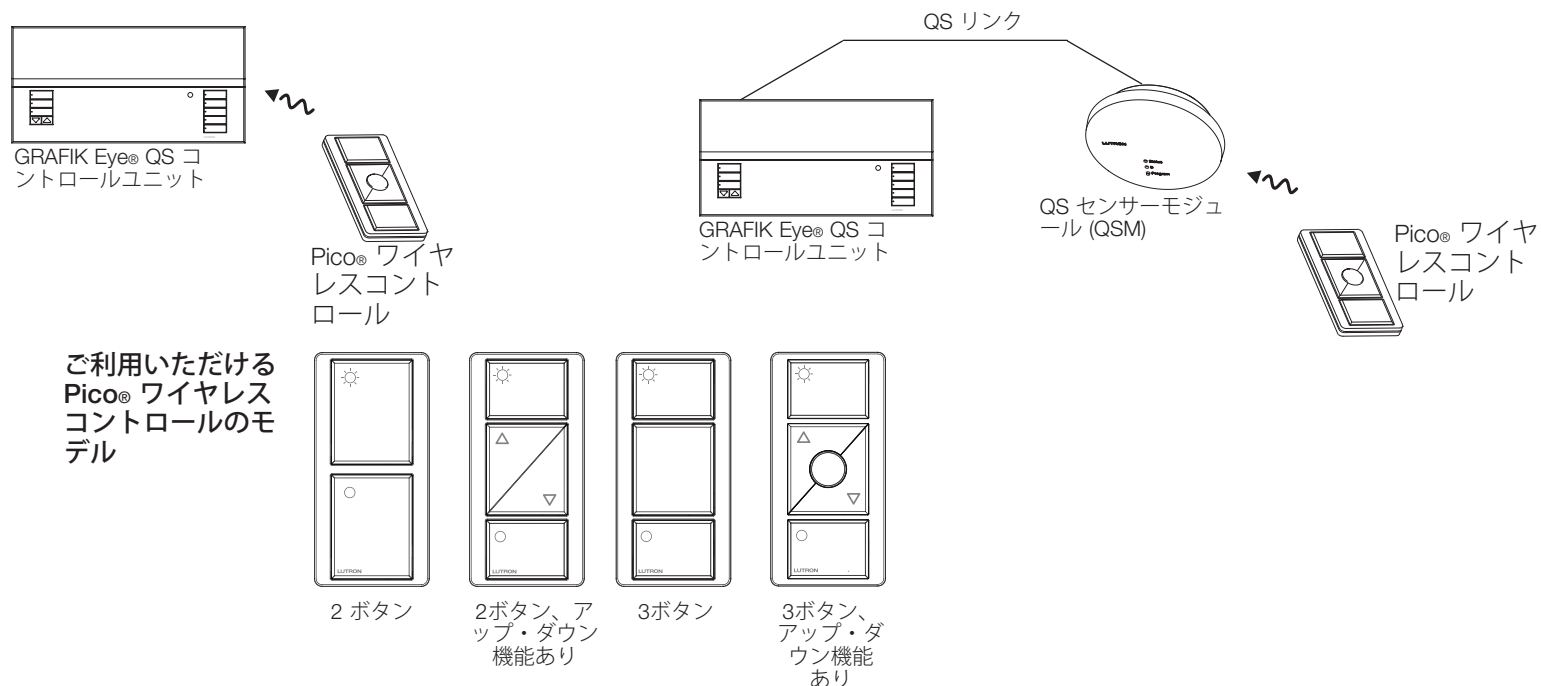
Pico® ワイヤレスコントロール

ご利用いただける Pico® ワイヤレスコントロールのモデル

2 ボタン

2ボタン、アップ・ダウン機能あり

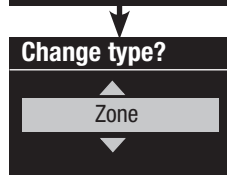
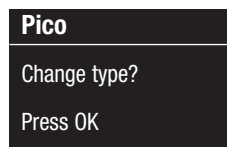
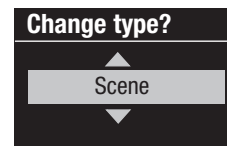
3ボタン

3ボタン、アップ・ダウン機能あり

Pico® ワイヤレスコントロールの機能

	ゾーン機能	シーン機能
一番上の (オン) ボタン	割当てられているすべてのゾーンを 100%	Scene 1
中央 (プリセット) ボタン (備えている場合)	割当てられているすべてのゾーンを、あらかじめ設定されているプリセットレベルへ (ボタンを長押しすることにより、現在の照明レベルを、プリセットとして保存)	Scene 16
アップ/ダウンボタン (備えている場合)	割当てられているすべてのゾーンの照度を変更	現在シーンが設定されているすべてのゾーンの照度を変更
一番下の (オフ) ボタン	割当てられているすべてのゾーンをオフ	Scene Off

Pico® ワイヤレスコントロールのセットアップ

Pico® ワイヤレスコントロールを GRAFIK Eye® QS ワイヤレスコントロールユニットと連動する:
(ワイヤレス対応 GRAFIK Eye® QS コントロールユニットのみ)

メモ:ワイヤレス対応ユニットのみの情報。お住まいの地域で適用される可否をご確認ください。

もしくは

Pico® ワイヤレスコントロール

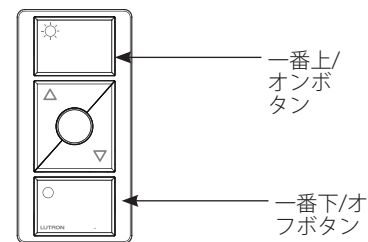
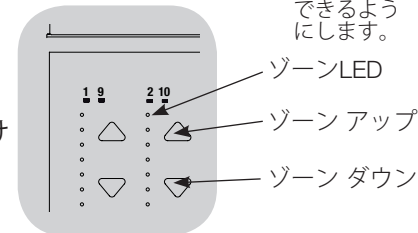
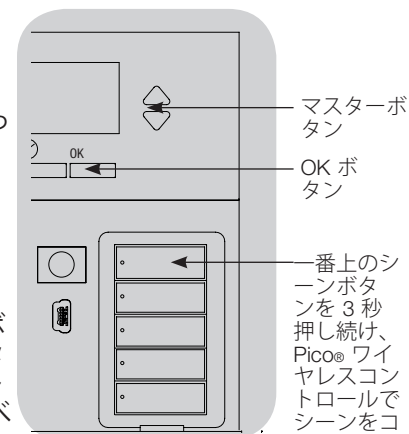
1. GRAFIK Eye® QS コントロールユニットのモードが「Enabled」(オン) になっていることを確認します。
2. Pico® ワイヤレスコントロールの一番上 (オン) と一番下 (オフ) のボタンを、Pico® ワイヤレスコントロールの LED がゆっくりと点滅し始めるまで、3 秒間押します。GRAFIK Eye® QS コントロールユニットの OK ボタンを押して、*Pico*ワイヤレスコントロール の機能モードを選択します。

3a. Pico® ワイヤレスコントロールで ゾーンをコントロールする場合、マスターボタンで「Zone」を選択し、OK ボタンを押します。ゾーンアップ/ダウンボタンで、ゾーンのプリセットレベルを選択したら、ゾーンアップ/ダウンボタンを同時に 1 秒間押します (ゾーン LED がプログラミングしたプリセットレベルで点滅するまで)。*Pico* ワイヤレスコントロールでコントロールするすべてのゾーンでこの手順を繰り返します。

または

3b. Pico® ワイヤレスコントロールで シーン をコントロールする場合、マスターボタンで「Scene」を選択し、OK ボタンを押します。GRAFIK Eye® QS ワイヤレス コントロールユニットの一番上のシーンボタンを 3 秒間押し続けます (シーン LED が点滅を開始するまで)。

4. Pico® ワイヤレスコントロールの一番上 (オン) と一番下 (オフ) のボタンを、Pico® ワイヤレスコントロールのLED が点滅を停止するまで、3 秒間押します。

注: ワイヤレス信号の通信可能範囲は通常構造通過で 9 m、見通しで 18 m です。

Pico® ワイヤレスコントロールのセットアップ

Pico® ワイヤレスコントロールを QS センサーモジュール (QSM) 経由で接続する:(有線またはワイヤレス対応 GRAFIK Eye® QS コントロールユニットの場合)

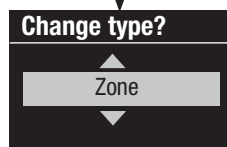
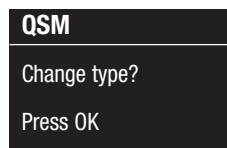
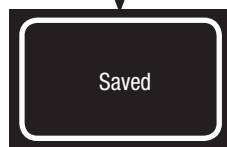
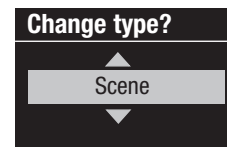
メモ:ワイヤレス対応ユニットのみの情報。お住まいの地域で適用される可否をご確認ください。

QSM
Change type?
Press OK

Change type?
Zone

もしくは

Change type?
Scene

Saved

1. QSM のプログラムボタンを 3 秒間押し続け、プログラミングモードを起動します。ピーという音が一回聞こえ、ステータス LED が点滅を始めます。GRAFIK Eye® QS コントロールユニットのディスプレイに、QSM がプログラミングモードになったことが表示されます。
2. Pico® ワイヤレス コントロールの一番下のボタンを 6 秒間押し続けます。QSM から、接続を確認するピーという音が 3 回聞こえます。
3. QSM のプログラムボタンを 3 秒間押し続けると、プログラミングモードが終了します。
4. Pico® ワイヤレスコントロールの一番上 (オン) と一番下 (オフ) のボタンを、Pico® ワイヤレスコントロールの LED がゆっくりと点滅するまで、3 秒間押します。GRAFIK Eye® QS コントロールユニットの OK ボタンを押して、Pico® ワイヤレスコントロールの機能モードを選択します。

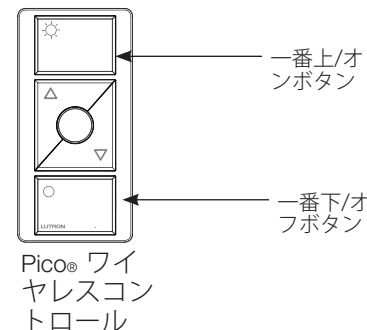
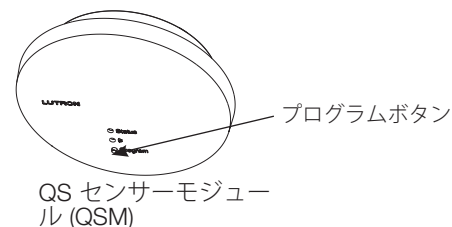
5a. Pico® ワイヤレスコントロールで ゾーンをコントロールする場合、マスターボタンで「Zone」を選択し、OK ボタンを押します。ゾーンアップ/ダウンボタンで、ゾーンのレベルを選択したら、ゾーンアップ/ダウンボタンを同時に 1 秒間押します (ゾーン LED がプログラミングしたプリセットレベルで点滅するまで)。Pico® ワイヤレスコントロールでコントロールするすべてのゾーンでこの手順を繰り返します。

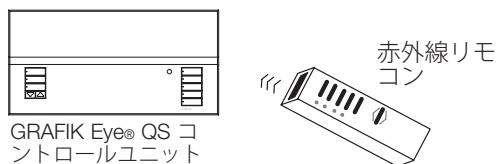
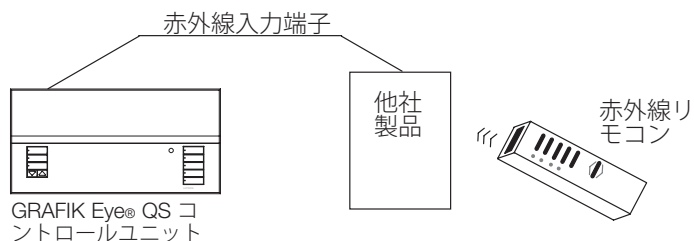
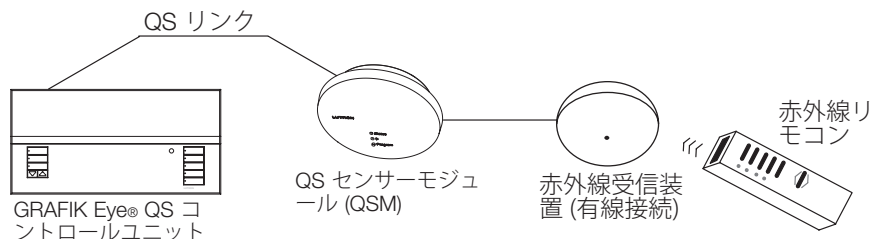
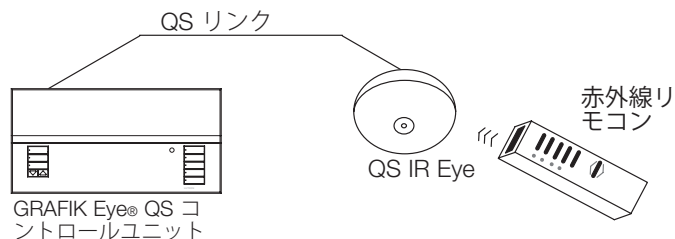
または

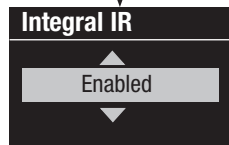
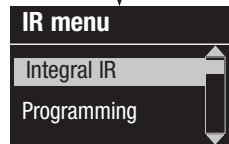
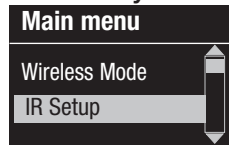
5b. Pico® ワイヤレスコントロールで シーンをコントロールする場合、マスターボタンで「Scene」を選択し、OK ボタンを押します。GRAFIK Eye® QS ワイヤレス コントロールユニットの一番上のシーンボタンを 3 秒間押し続けます (シーン LED が点滅を開始するまで)。

6. Pico® ワイヤレスコントロールの一番上 (オン) と一番下 (オフ) のボタンを、Pico® ワイヤレスコントロールのLED が点滅を停止するまで、3 秒間押します。

QS センサーモジュール (QSM)

Pico® ワイヤレスコントロール

赤外線セットアップ

GRAFIK Eye® QS コントロールユニットは、前面にある赤外線受信部を通じて、赤外線リモコンで直接コントロールすることができます。外部電源から給電されている赤外線リピーターも同様に、GRAFIK Eye® QS コントロールユニットの 赤外線端子に接続し、

リモコンでコントロールすることが可能です。これは、GRAFIK Eye® QS コントロールユニットへ他社製品 (ホームシアター機器など) を接続する場合になどに便利な機能です。GRAFIK Eye® QS コントロールユニットの 赤外線機能をプログラミングするコマンドの詳細は www.lutron.com/qs をご覧ください。

赤外線リモコンはまた、QS センサーモジュール (QSM) に配線されている Lutron® 赤外線受信装置やQS IR Eye を通じて、GRAFIK Eye® QS コントロールユニットを操作し、特定のゾーンの照明レベルやシーンをコントロールすることが可能です。QSM に配線されている QS IR Eye および 赤外線受信装置は、GRAFIK Eye® QS システムに認識させる前に GRAFIK Eye® QS コントロールユニットに接続しておく必要があります。

赤外線セットアップ

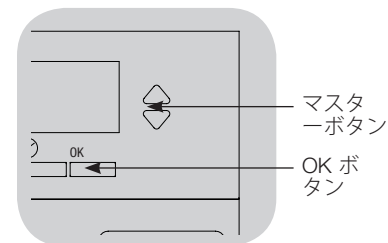
GRAFIK Eye® QS コントロールユニットの 赤外線受光部をオンまたはオフにする:

注: この手順により、GRAFIK Eye® QS コントロールユニットの 赤外線入力端子もオンまたはオフになります。

1. プログラミングモードを起動します
2. マスターボタンで、「IR Setup」 にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
3. マスターボタンで、「Integral IR」にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
4. マスターボタンで、「Enabled」(オン) または「Disabled」(オフ) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。ディスプレイには、設定が保存されたことを示す「saved」が表示されます。
5. プログラミングモードを終了します。

Main menu
Wireless Mode
IR Setup

IR menu
Integral IR
Programming

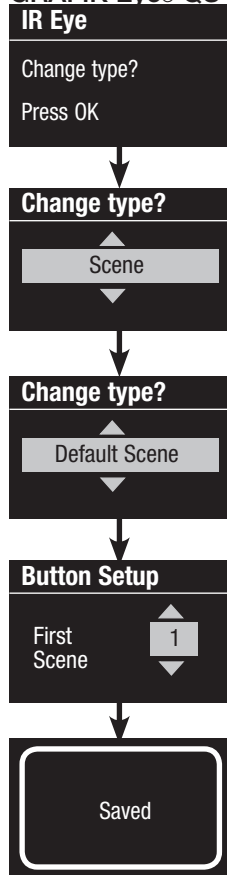
Integral IR
Enabled

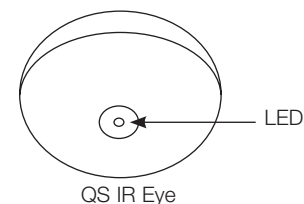
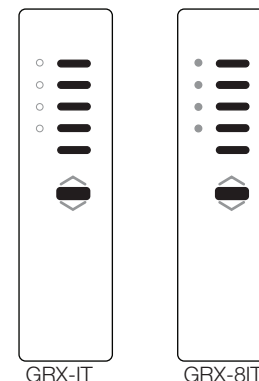
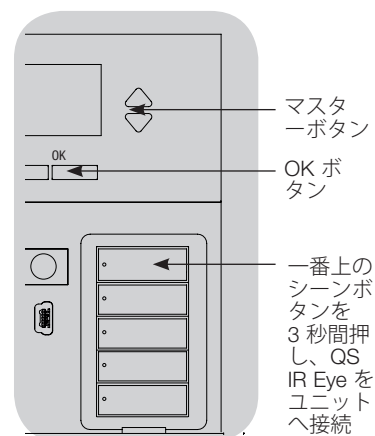
Saved

赤外線セットアップ

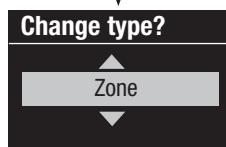
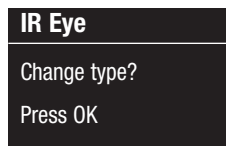
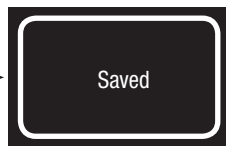
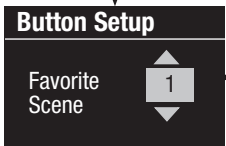
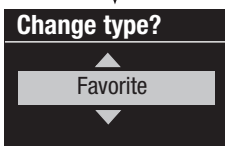
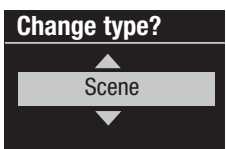
QS IR Eye を利用すると、使用している赤外線リモコンに応じて、さらに高度なシーンコントロールが可能になります。GRAFIK Eye® QS コントロールユニットを適切なモードに変更する (下表参照):

赤外線リモコン	コントロールモード
GRX-IT	4 ボタン & オフ または 5 ボタン
GRX-8IT	8 ボタン & Off
MIR-ITFS	お気に入りまたはゾーンコントロール
C-FLRC	お気に入りまたはゾーンコントロール
他社製赤外線リモコン	初期設定

GRAFIK Eye® QS コントロールユニットに QS IR Eye を接続する:

IR Eye
Change type?
Press OK
↓
Change type?
Scene
↓
Change type?
Default Scene
↓
Button Setup
First Scene 1
↓
Saved

注: Lutron® リモコン GRX-IT および GRX-8IT、または他社製赤外線リモコンをご利用の場合。

1. 赤外線リモコンを QS IR Eye に向けます。リモコンの一番上と一番下のボタンを、QS IR Eye の LED がゆっくりと点滅するまで、3 秒間押して、プログラミングモードを起動します。
2. GRAFIK Eye® QS ワイヤレス コントロールユニットの一番上のシーンボタンを 3 秒間押し続けます。シーン LED が点滅し、QS IR Eye が接続されたことを示します。OK ボタンを押して次の手順に進みます。
3. マスターボタンで、「Scene」にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
4. マスターボタンで、QS IR Eye で使用するリモコンに対応する、シーンのコントロールモード (下に表示) を選択し、OK ボタンを押して決定します。
「Default」以外を選択した場合、ディスプレイには、赤外線リモコンの一番上のボタンに対応させるシーンの候補が表示されます。マスターボタンで対応させるシーンを選択し、OK ボタンを押して決定します。ディスプレイには、設定が保存されたことを示す「saved」が表示されます。
注: 「Default」を選択すると、GRAFIK Eye® QS コントロールユニットに伝送される、いずれかのシーンコマンドを起動します。
5. 赤外線リモコンを QS IR Eye に向けます。リモコンの一番上と一番下のボタンを 3 秒間押し続け、プログラミングモードを終了します。

GRAFIK Eye® QS コントロールユニットに QS IR Eye を接続する (続き):

注: Lutron® リモコン MIR-ITFS および C-FLRC 利用の場合。

1. 赤外線リモコンを QS IR Eye に向けます。リモコンのオン (一番上) ボタンを、5 秒間押し、さらに 1 秒以内にリモコンのオフ (一番下) ボタンを 5 秒間押し続け、プログラミングモードを起動します。QS IR Eye の LED がゆっくりと点滅し始めます。GRAFIK Eye® QS コントロールユニットの OK ボタンを押して次の手順に進みます。

2a. QS IR Eye でゾーンをコントロールする場合、マスターボタンで「Zone」を選択し、OK ボタンを押します。GRAFIK Eye® QS コントロールユニットのゾーンアップ/ダウンボタンで、ゾーンのプリセットレベルを選択したら、ゾーンアップ/ダウンボタンを同時に 1 秒間押します (ゾーン LED がプログラミングしたプリセットレベルで点滅するまで)。QS IR Eye に割当てるすべてのゾーンでこの手順を繰り返します。ディスプレイには、設定が保存されたことを示す「saved」が表示されます。

　　または

2b. QS IR Eye でシーンをコントロールする場合、マスターボタンで「Scene」を選択し、OK ボタンを押します。マスターボタンで「Favorite」(お気に入り) を選択し、OK ボタンを押して決定します。マスターボタンでお気に入りのシーンを選択し、OK ボタンを押して決定します。*GRAFIK Eye QS* ワイヤレス コントロールユニットの一番上のシーンボタンを 3 秒間押し続けます (シーン LED が点滅を開始するまで)。ディスプレイには、設定が保存されたことを示す「saved」が表示されます。

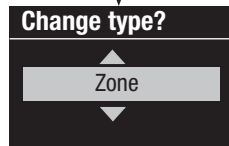
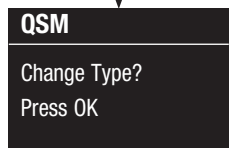
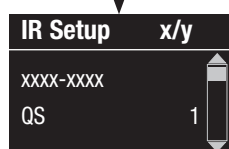
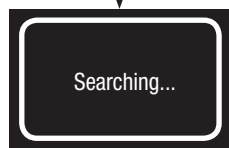
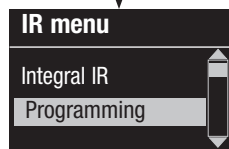
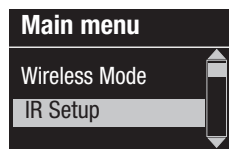
3. 赤外線リモコンを QS IR Eye に向けます。リモコンのオン (一番上) ボタンを、5 秒間押して、さらに 1 秒以内にリモコンのオフ (一番下) ボタンを 5 秒間押し続け、プログラミングモードを終了します。

LED

QS IR Eye

MIR-ITFS
C-FLRC

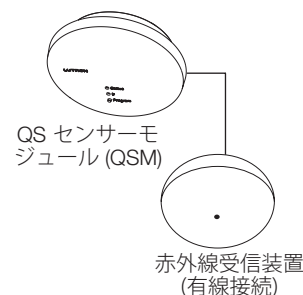
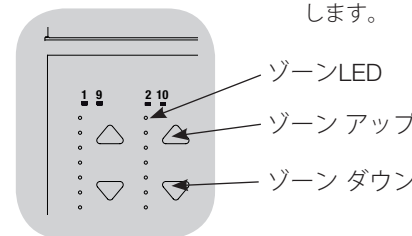
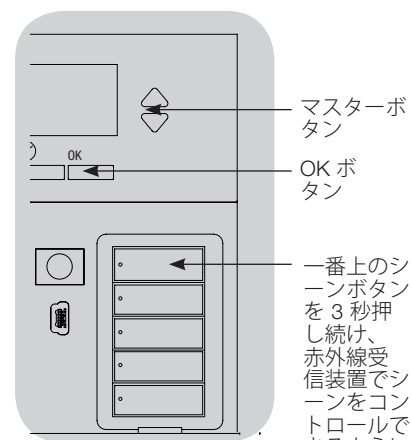
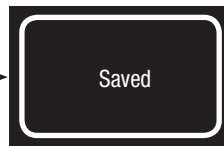
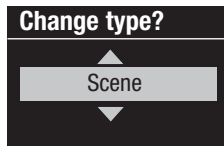
赤外線セットアップ

QS センサーモジュール (QSM) 経由で赤外線受信装置を接続する:

1. QSM は給電すると、配線されている 赤外線受信装置からの信号を受け次第、受信装置を自動的に検出し、設定します。赤外線リモコンでシステムに接続されているすべての受信機に、信号を送ってください。
2. GRAFIK Eye® QS コントロールユニットのプログラミングモードを起動します。
3. マスターボタンで、「IR Setup」にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
4. マスターボタンで、「Programming」にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。ディスプレイには、利用可能な赤外線受信装置をユニットが認識している間、「Searching」が表示されます。
5. マスターボタンで、利用可能な赤外線装置を順に表示します (ディスプレイに表示されている 赤外線受信装置は点滅します)。割当てる 赤外線受信装置が表示されたら、OK ボタンを押して選択します。もう一度 OK ボタンを押して次の手順に進みます。

6a. 赤外線受信装置で<u>ゾーン</u>をコントロールする場合、マスターボタンで「Zone」を選択し、OK ボタンを押します。ゾーンアップ/ダウンボタンで、ゾーンのレベルを選択したら、ゾーンアップ/ダウンボタンを同時に 1 秒間押します (ゾーン LED がプログラミングしたプリセットレベルで点滅するまで)。赤外線受信装置でコントロールするすべてのゾーンでこの手順を繰り返します。

または

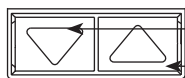
6b. 赤外線受信装置で<u>シーン</u>をコントロールする場合、マスターボタンで「Scene」を選択し、OK ボタンを押します。GRAFIK Eye® QS ワイヤレス コントロールユニットの一番上のシーンボタンを 3 秒間押し続けます (シーン LED が点滅を開始するまで)。

7. タイムクロック (戻る) ボタンを押して利用可能な 赤外線受信装置のリストに戻り、必要に応じてこの手順を繰り返します。
8. GRAFIK Eye® QS コントロールユニットのプログラミングモードを終了します。

Sivoia® QS ロールスクリーン/ドレープリーと GRAFIK Eye® QS コントロールユニットを接続する:

GRAFIK Eye® QS システムが、Sivoia® QS ロールスクリーン (またはドレープリー) と、電動カーテンボタンを備えている GRAFIK Eye® QS で構成されている場合、コントロールユニットの電動カーテンボタンに割当てると、電動カーテンを直接コントロールすることができます。

GRAFIK Eye® QS コントロールユニットに直接配線されている Sivoia® QS ロールスクリーン/ドレープリーの場合:

ロールスクリーンを電動カーテンボタンに割当てるまたは割当てを解除する:

1. ロールスクリーンを割当てる GRAFIK Eye® QS コントロールユニットの電動カーテンボタンで、電動カーテンプログラミングモードを起動します。一番上 (開) と下のボタン (閉) を同時に 3 秒間押し続けます。一番上と下の LED が点滅を始めます。未割当てのロールスクリーンは開き、すでに割当てられているロールスクリーンは閉じます。
2. 一番上のボタン (開) を軽く押し、割当てを開始します。
3. 一番上 (開) を軽く数回押すと、アドレスを順に繰り返し表示します。また、下のボタン (閉) を同じように押すと、逆の順序でアドレスが表示されます。
4. 電動カーテンボタンのダウンボタンを押すと、そのロールスクリーンを割当てます。電動カーテンボタンのアップボタンを押すと、そのロールスクリーンの割当てを解除します。

5. 電動カーテンプログラミングモードを終了します。一番上 (開) と下のボタン (閉) を同時に 3 秒間押し続けます。一番上と下の LED の点滅が止まります。

ワイヤレスSivoia® QS ロールスクリーンの場合:

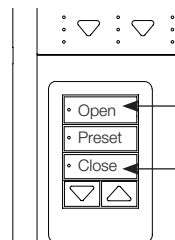
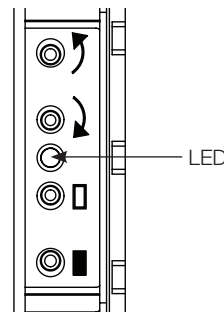
メモ:ワイヤレス対応ユニットのみの情報。お住まいの地域で適用される可否をご確認ください。

ロールスクリーンを電動カーテンボタンに割当てる:

1. GRAFIK Eye® QS コントロールユニットのワイヤレスモードが「オン」になっていることを確認します。
2. 電動カーテンを割当てる GRAFIK Eye® QS コントロールユニットの電動カーテン ボタン列の一番上 (開) と下 (閉) を同時に 3 秒間押し続け、電動カーテン プログラミングモードを起動します。一番上と下の LED が点滅を始めます。
3. 電子ドライブユニット (EDU) の LED と未割当てのロールスクリーン/ドレープリーのワイヤレスアンテナが、ゆっくりと点滅を始めます。電動カーテン ボタン列に割当てるロールスクリーン/ドレープリーのいずれかのボタンを軽く押します。EDU の LED が高速点滅を始め、ロールスクリーンが GRAFIK Eye® QS コントロールユニットのボタンに割当てられたことを示します。
4. その他のロールスクリーンをボタンに割当てる場合は、手順 2 を繰り返します。
5. 一番上 (開) と下のボタン (閉) を同時に 3 秒間押し続け、プログラミングモードを終了します。一番上と下の LED の点滅が止まります。
6. 必要に応じて、その他のボタン列でも手順 1 から 5 を繰り返します。

ロールスクリーンの電動カーテンボタンへの割当てを解除する:

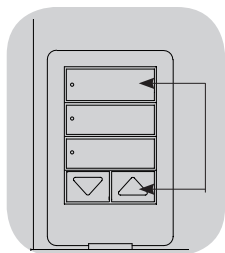
上記のロールスクリーン/ドレープリーを割当てる手順を同じ順序で行ないます。電動カーテンプログラミングモードになったら、電動カーテンボタンから解除する、ロールスクリーン/ドレープリー の EDU のボタンを軽く押します。EDU とアンテナにあるグリーンの LED が高速点滅を始め、ロールスクリーンが GRAFIK Eye® QS コントロールユニットのボタンから解除されたことを示します。

注: ワイヤレス信号の通信可能範囲は通常構造物通過で 9 m、見通しで 18 m です。

GRAFIK Eye® QS コントロールユニットの電動カーテンボタンの一番上 (開) と下 (閉) を同時に 3 秒間押し続け、電動カーテンプログラミングモードを起動または終了。

Sivoia® QS ワイヤレスロールスクリーン/ドレープリー EDU

電動カーテン設定を調整する (有線およびワイヤレス Sivoia® QS ロールスクリーン/ドレープリーの場合)

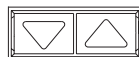
開下限を設定する
(有線接続タイプのロールスクリーン/ドレープリーのみ)

注: 上下限セットアップモードを起動すると、ロールスクリーンが上下に 200 mm 程度上下に動く場合があります。**上下限セットアップモードを起動する前に、各ロールスクリーンが 200 mm 程度上下に動いても大丈夫か確認してください。**

1. いずれかの電動カーテン ボタン列の一番上とアップボタンを、同時に押し続けます。一番上と下のボタンの横にある LED が循環点滅を開始します。

上下限セットアップモードになったら、一番上のボタンを 2 回続けて軽く押すと、すべてのロールスクリーンを同時に、現在の上限まで開けることができ、一番下のボタンを 2 回続けて軽く押すと、現在の下限まで閉じることができます。

注: ロールスクリーン/ドレープリーの電子ドライブユニット (EDU) は、上下限を調整する前に、電動カーテンボタンに割り当てておく必要があります。

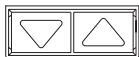
2. 電動カーテンボタンの一番上と下のボタンで、調整する EDU を選択します。一番上のボタンを 1 回押して指を離すごとに、そのボタンに割り当てられている各 EDU が順に 200 mm の幅で上下して、その EDU が選択されていることを示します。

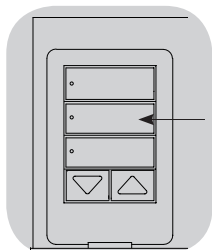
   調整するロールスクリーンの EDU が動き始めるまで、一番上のボタンを軽く押していきます (なお、一番下のボタンでも調整することが可能ですが、割当てられている EDU は逆の順序で上下します)。
3. アップおよびダウンボタンを使用して、選択した EDU を希望の上限の位置まで動かします。

4. 電動カーテンボタンの一番上のボタンを 5 秒間押し続けると、その位置が上限として保存されます。一番上のボタンの横にある LED が 2 秒間高速点滅します。
5. アップおよびダウンボタンを使用して、選択した EDU を希望の下限の位置まで閉じます。
6. 電動カーテンボタンの一番下のボタンを 5 秒間押し続けると、その位置が下限として保存されます。一番下のボタンの横にある LED が 2 秒間高速点滅します。
7. 手順 2 から 6 を繰り返して、ボタン列に割当てられている、各電動カーテンの上下限を設定します。
8. 電動カーテンボタンの一番上とアップボタンを押して、上下限のセットアップモードを終了します。

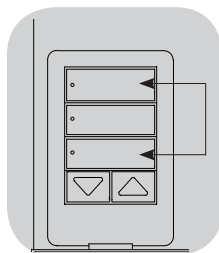
   注: GRAFIK Eye® QS コントロールでは、Sivoia® QS ワイヤレス ロールスクリーンの上下限を設定することはできません。上下限は、ワイヤレス ロールスクリーンの EDU を使用して、手動で設定してください Sivoia® QS ワイヤレス ロールスクリーンに関する説明の項をご覧ください)。

電動カーテン設定を調整する (有線およびワイヤレス Sivoia® QS ロールスクリーン/ドレープリーの場合)

プリセットの調整: 簡単な方法

1. 電動カーテンボタンのアップおよびダウンボタンで、すべてのロールスクリーンの電子ドライブユニット (EDU) を希望のレベルに調整します。

2. 電動カーテンボタンの中央のボタンを 5 秒間押し続けると、その位置が EDU のプリセットレベルとして保存されます。ボタンの横の LED が点滅し、その後点灯して、プリセットが保存されたことを示します。

注: EDU のプリセットが、電動カーテンボタンに設定されると、そのEDU が割当てられているボタン以外ではプリセットを操作できなくなり、その電動カーテン ボタン列は、割当てられている EDU のプリセットレベル以外、操作できなくなります。

プリセットの調整: 高度な方法

- プリセットを設定する高度な方法は、ボタン列に割当てられている複数のロールスクリーンに、それぞれ異なる位置のプリセットを設定する場合にのみ必要な方法です。すべてのロールスクリーンのプリセットを同じ位置にする場合は、左記の簡単な方法をご利用ください。
- 設定モードを起動すると、ロールスクリーンが上下限の間で上下します。上下限が正しく設定されていることを確認してください。

1. プリセットを調整する電動カーテンボタンの一番上と下のボタンを、同時に押し続けます。ボタンの横にある LED が点滅を開始します。割当てられているロールスクリーンの EDU が下限まで動き、未割当てのロールスクリーンの EDU は上限まで動きます。
2. ロールスクリーン ボタン列の中央のボタンを 1 回押すと、横の LED が高速点滅を開始します。割当てられているロールスクリーンの EDU は、自動的に現在のプリセット位置まで移動します。
3. アップ/ダウンボタンを押して、割当てられているすべてのロールスクリーン EDU を同時に、希望のプリセット位置まで動かします。

4. 1 つの EDU を個別に、別のプリセット位置まで動かす場合は、電動カーテン ボタン列の一番上のボタンで、その EDU を選択します。一番上のボタンを一回押して指を離すごとに、そのボタン列に割り当てられている各 EDU が順に 200 mm の幅で上下します。調整するロールスクリーンの EDU が動くまで、繰り返しボタンを押します。アップおよびダウンボタンを使用して、希望の位置まで、その EDU を調整します。この手順を割当てられているすべての EDU で繰り返します。
5. 割当てられている EDU すべてが、希望のプリセット位置に設定されたら、電動カーテンボタンの中央ボタンを 5 秒間押し続け、プリセットを保存します。
6. 電動カーテンボタンの一番上と下のボタンを 5 秒間押し続けると、通常モードに戻ります。ボタンの横にある LED の点滅が止まります。

電動カーテン設定を調整する

(有線およびワイヤレス Sivoia® QS ロールスクリーン/ドレープリーの場合)

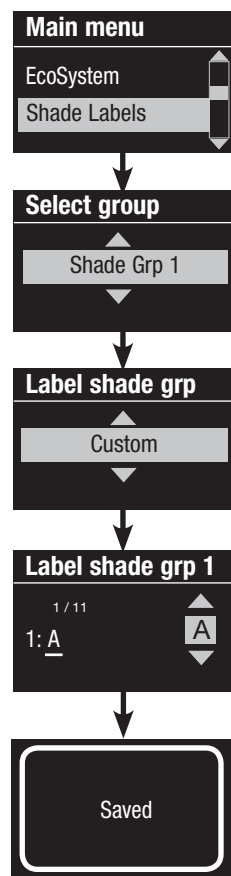
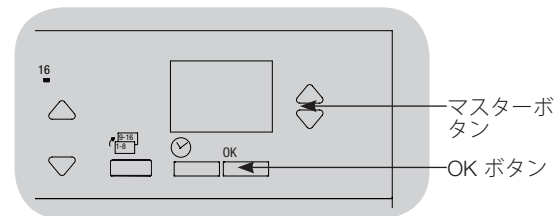
電動カーテングループの名前を作成する

Main menu
EcoSystem
Shade Labels

Select group
Shade Grp 1

Label shade grp
Custom

Label shade grp 1
1 / 11
1: A
A

Saved

1. プログラミングモードを起動します。
2. マスターボタンで「Shade Labels」 にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
3. マスターボタンで名前を作成する電動カーテン グループに切り替え、OK ボタンを押して決定します。
4. マスターボタンで「Custom」 にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
5. マスターボタンでアルファベット (小文字、大文字、数字の 0 ～9 まで) を順に表示します。現在入力している箇所の文字に下線が表示されます。入力したいアルファベットが表示されたら、OK を押し、名前が完全に入力されるまでこの操作を繰り返します。文字を入力しない部分は、スペースを入力し OK を押します。最大 12 文字まで入力できます。入力が完了したら、OK ボタンを押して決定します。
6. ディスプレイには、名前が保存されたことを示す「Saved」が表示されます。
7. プログラミングモードを終了します。

複数のGRAFIK Eye QS コントロールユニットを連動する

システムに複数の GRAFIK Eye® QS コントロールユニットがある場合、特定の機能を GRAFIK Eye® QS コントロールユニット間で通信できるよう、各ユニットを接続しておくと便利です。

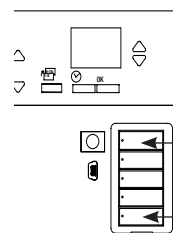
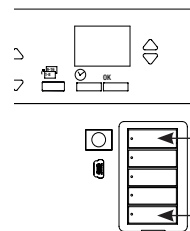
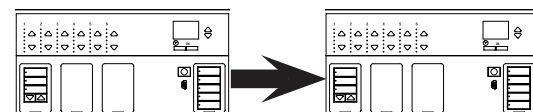
- **有線接続タイプのユニット:** プログラミングされていない GRAFIK Eye® QS コントロールユニット (有線タイプ) は、QS リンクにはじめて接続されると、リンク上の別のコントロールユニットから、シーンの起動とマスターボタン操作をコピーします。コントロールユニットの連動または連動解除により、QS リンク上で「話し手」になるユニットと「聞き手」になるユニットが決まります。QS リンクに接続したコントロールユニットはタイムクロックと接点の設定もコピーします
- **ワイヤレス接続タイプのユニット:** GRAFIK Eye® QS ワイヤレス コントロールユニットは、シーン起動やマスターボタン操作をコピーしないため、プログラミングする必要があります (2 台のワイヤレス コントロールユニットを連動しても、タイムクロックと接点の設定を相互に送信することはありません)。複数のワイヤレス コントロールユニットを連動する際は、両方のユニットのワイヤレスモードが「オン」になっていることを確認してください。

注: ワイヤレス信号の通信可能範囲は通常構造物通過で 9 m、見通しで 18 m です。

2 台の GRAFIK Eye® QS コントロールユニットを連動する:

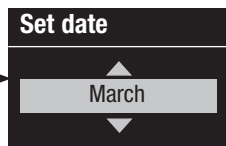
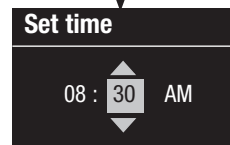
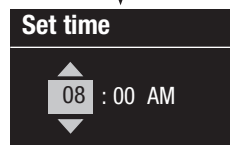
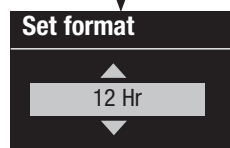
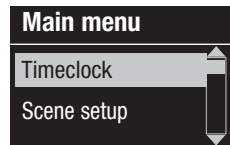
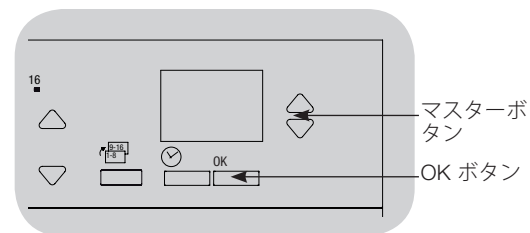
1. 「話し手」(このユニットのボタン操作を他のコントロールユニットがコピー。下図ではGRAFIK Eye® QS コントロールユニット A が話し手) となる GRAFIK Eye® QS コントロールユニットから操作を開始します。シーンボタンの一番上と下を LED が点滅するまで (約 3 秒) 押し続けてください。
2. 続いて「聞き手」(このユニットが他のコントロールユニットのボタン操作をコピー。下図ではGRAFIK Eye® QS コントロールユニット B が聞き手) となる GRAFIK Eye® QS コントロールユニットで操作を行います。一番上のシーンボタンを LED が点滅するまで (約 3 秒) 押し続けてください。
3. 「話し手」(A) となる GRAFIK Eye® QS コントロールユニットに戻り、シーンボタンの一番上と下を LED が点滅を終了するまで (約 3 秒) 押し続けてください。
4. この操作を反対の順序で行なうと、GRAFIK Eye® QS コントロールユニット A を、GRAFIK Eye® QS コントロールユニット B の「聞き手」して、両方のユニットがお互いにコピーし合うようにすることも可能です。

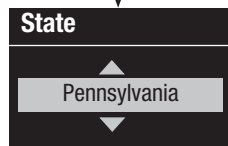
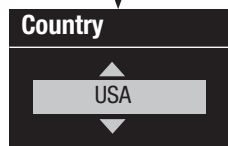
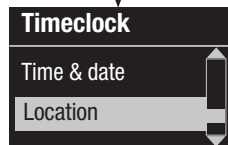
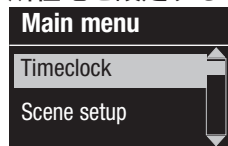
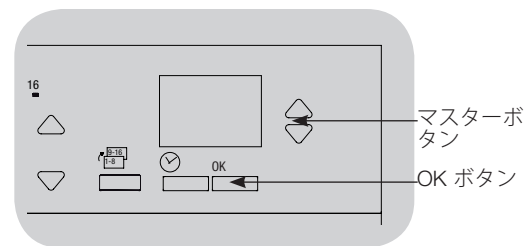
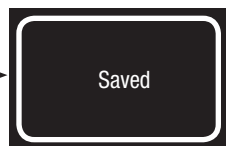
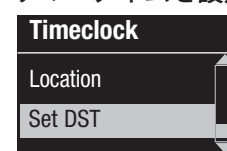
2 台の GRAFIK Eye® QS コントロールユニットの連動を解除する:

接続手順を同じ順序で行ないます。
B は、1 番下のシーンボタンを押し続けると、解除できます。

「話し手」になるユニットの一番上と下のシーンボタンを 3 秒間押し、「聞き手」となるユニットと連動もしくは連動解除を開始または終了。

「聞き手」となるユニットの一番上のシーンボタンを 3 秒間押し続けると連動。一番下のボタンを 3 秒間押し続けると「話し手」との連動を解除。

GRAFIK Eye® QS コントロールユニット A
GRAFIK Eye® QS コントロールユニット B に対して「話し手」になり、ユニット A のシーン起動やマスターボタン操作がコントロールユニット B にコピー。

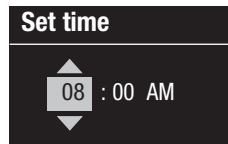
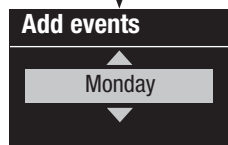
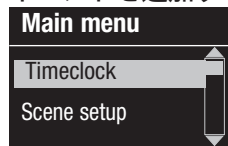
GRAFIK Eye® QS コントロールユニット B
GRAFIK Eye® QS コントロールユニット A に対して「聞き手」になり、コントロールユニット B がユニット A のシーン起動やマスターボタン操作をコピー。

タイムクロックの操作

日時を設定する

1. プログラミングモードを起動します。
2. マスターボタンで、「Timeclock」にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
3. マスターボタンで、「Time & date」 にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
4. マスターボタンで、時刻表示を 12 時間形式または24 時間形式のどちらにするか選択し、OK ボタンを押して決定します。
5. マスターボタンで、現在の「時間」を入力し、OK ボタンを押します。同様に「分」も入力します。
6. マスターボタンで西暦を選択し、OK ボタンを押します。同様に月日も入力します。
7. ディスプレイには、日時が保存されたことを示す「Saved」が表示されます。
8. プログラミングモードを終了します。

タイムクロックの操作

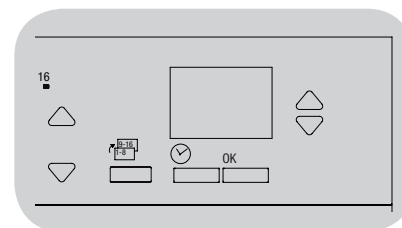
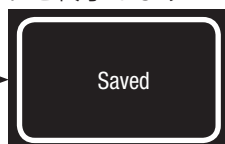
所在地を設定する

1. プログラミングモードを起動します。
2. マスターボタンで、「Timeclock」にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
3. マスターボタンで、「Location」にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
4. マスターボタンで、国と都市名または緯度経度のどちらかで所在地を設定し、OK ボタンを押して決定します。
5. マスターボタンで、国を選択し OK ボタンを押します。最寄の大都市も同様に選択します。
6. ディスプレイには、日時が保存されたことを示す「Saved」が表示されます。
7. プログラミングモードを終了します。

サマータイムを設定する

1. プログラミングモードを開始して、「Timeclock」を選択します。マスターボタンで、「DST」(ゾーン設定) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
2. サマータイムを適用する場合はマスターボタンで「YES」に、適用しない場合は「NO」にカーソルを合わせ、OK ボタンを押して決定します。
3. 「yes」を選択した場合、マスターボタンで「USA 2007」(サマータイム適用期間: 3 月の第 2 日曜日～11 月の第 1 日曜日)、または「Other」(その他) を選択します。「Other」の場合は、ディスプレイの表示に従いサマータイムの適用期間を設定してください。
4. OK ボタンを押して決定します。ディスプレイには、日時が保存されたことを示すメッセージが表示されます。
5. プログラミングモードを終了します。

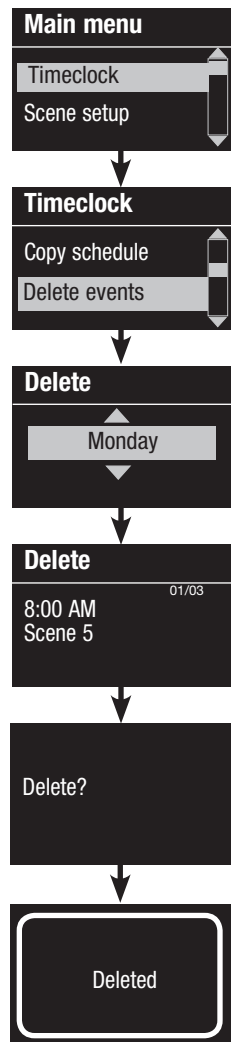
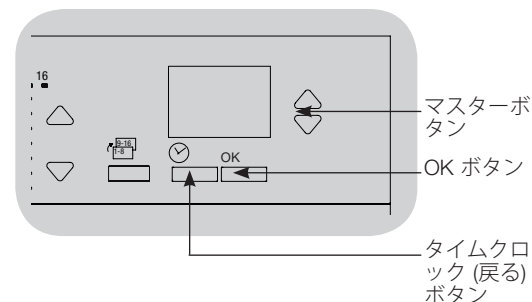
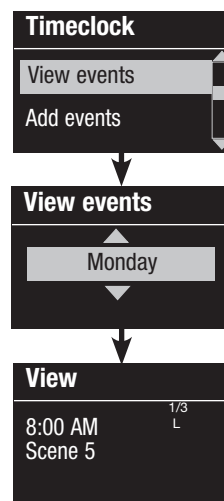
タイムクロックの操作

イベントを追加する

マスターボタン
OK ボタン

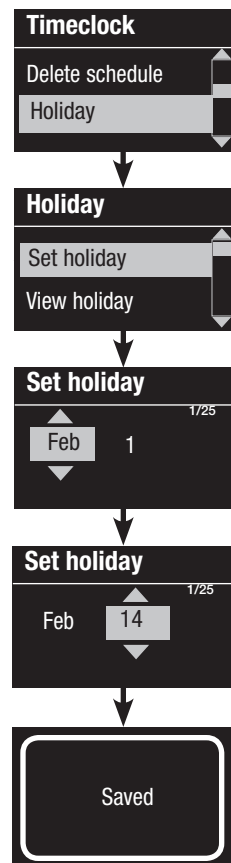
1. プログラミングモードを起動します。
2. マスターボタンで、「Timeclock」にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
3. マスターボタンで、「Add events」にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
4. マスターボタンで、イベントを設定する日を特定の曜日、平日、週末から選択し、OK ボタンを押します。
5. マスターボタンで、タイムクロック イベントのタイプ (ローカルまたはリモート) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
   - ローカルイベントは、その GRAFIK Eye® QS コントロールユニットがコントロールするシーンで起動します。
   - リモートイベントは、リンク上の他の 機器 (Energi Savr Node™ QS など) がコントロールするシーンで起動します。

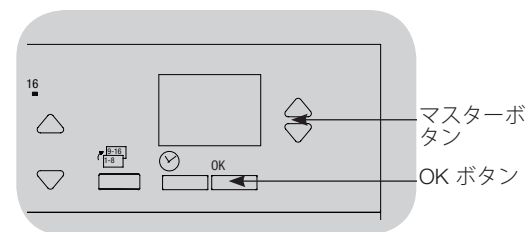
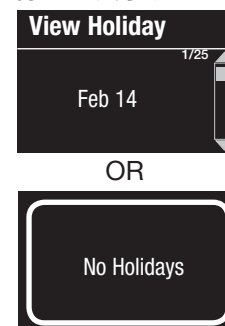
   注: リモートイベントでは、タイムクロックが内蔵されていない QS リンク機器でも、バーチャルタイムクロック機能が作動しますこれにより GRAFIK Eye® QS コントロールユニットは、他の機器がコントロールしている空間を変化させることなく、その機器でシーンを起動することができます。
6. マスターボタンでイベントのタイプを選択し (特定の時刻または日の入り・日の出に合わせる)、OK ボタンを押します。
7. 特定の時刻にイベントを設定するには、マスターボタンで開始時刻を選択し、OK ボタンを押します。同様に分も入力します。

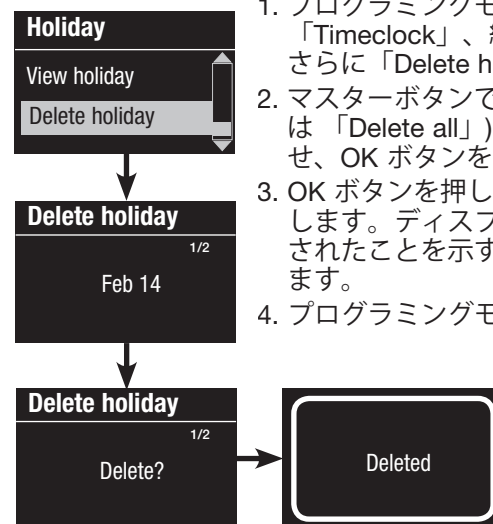
   日の出・日の入りに合わせてイベントを設定にするには、マスターボタンで、日の出・日の入り前後の時間を時・分の順で設定し、OK ボタンを押します。(最長で日の出・日の入りの前後 1 時間 59 分まで設定できます)
8. マスターボタンを使用して、タイムクロックイベントで起動させたい動作にカーソルを合わせます。
   - シーン 1〜16、オフ
   - 電動カーテン グループ 1〜3 開またはプリセット、閉
   - 営業時間外モードを開始/終了
   - 人感センサーをオン/オフ
   - 人感センサーイベントをオン/オフ
   - 光センサーをオン/オフ
9. ディスプレイには、イベントが保存されたことを示す「save」が表示されます。
10. その他のイベントを追加する場合は、手順 4〜9 を繰り返します。
11. プログラミングモードを終了します

タイムクロックの操作

イベントを削除する

1. プログラミングモードを起動します。
2. マスターボタンで、「Timeclock」にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
3. マスターボタンで「Delete events」にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
4. マスターボタンでイベントを設定する曜日 (または特日) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
5. マスターボタンで削除するイベントに切り替え、OK ボタンを押して決定します。
6. ディスプレイに削除を確認する「Delete?」が表示されます。OK ボタンを押して削除するか、タイムクロックボタンを押して前の画面に戻ります。
7. ディスプレイには、イベントが削除されたことを示す「Deleted」が表示されます。
8. プログラミングモードを終了する

イベントを表示する

1. プログラミングモードを開始して、続いて「Timeclock」を選択します。
2. マスターボタンでイベントを設定する曜日 (または特日) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
3. マスターボタンで、表示するイベントにカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
4. OK ボタンを押して、タイムクロックのメニューに戻ります。
5. プログラミングモードを終了します。

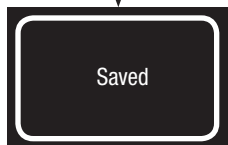
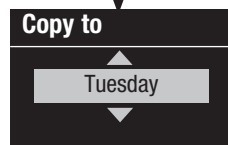
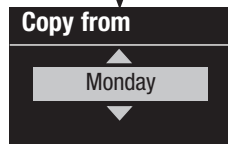
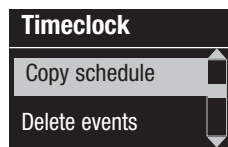
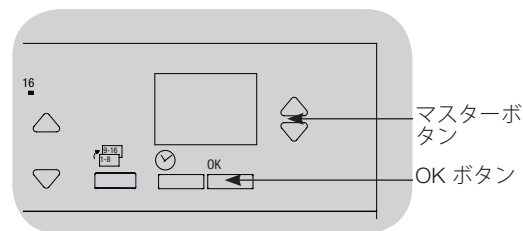
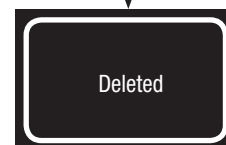
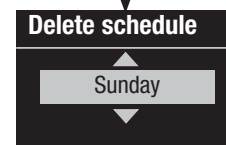
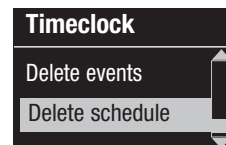
タイムクロックの操作

特日を設定する

1. プログラミングモードを起動します。
2. マスターボタンで、「Timeclock」にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
3. マスターボタンで、「Holiday」にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
4. マスターボタンで、「Set holiday」にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
5. マスターボタンで、特日を設定する月にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。日にちも同様に入力します。
6. ディスプレイには特日が追加されたことを示す「Saved」が表示されます。
7. プログラミングモードを終了します。

注: EcoSystem® 対応 GRAFIK Eye® QS コントロールユニットでは、特日を個別に 25 まで入力することができます。特日を追加する場合は、「イベントを追加する」の手順に従ってください。

特日を表示する

1. プログラミングモードを開始して、「Timeclock」、続いて「View holiday」を選択します。
2. マスターボタンで、設定した特日の日付を順に表示します。
3. 特日が設定されていない場合、ディスプレイには、「No Holiday」が表示されます。
4. プログラミングモードを終了します。

特日を削除する

1. プログラミングモードを開始して、「Timeclock」、続いて「Holidays」、さらに「Delete holiday」を選択します。
2. マスターボタンで削除する特日 (または 「Delete all」) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
3. OK ボタンを押して、選択した特日を削除します。ディスプレイには、特日が削除されたことを示す「Deleted」が表示されます。
4. プログラミングモードを終了します。

タイムクロックの操作

スケジュールをコピーする

1. プログラミングモードを起動します。
2. マスターボタンで、「Timeclock」にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
3. マスターボタンで、「Copy Schedule」にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します
4. マスターボタンで、スケジュールのコピー元にする日を選択し、OK ボタンを押します。
5. マスターボタンを押して、スケジュールのコピー先にする日を選択し、OK ボタンを押します。
6. ディスプレイには、「Overwrite all events?」が表示され、選択した日のイベントをすべて上書きしてもよいか確認します。OK ボタンを押して決定します。
7. プログラミングモードを終了します。

スケジュールを削除する

1. プログラミングモードを開始して、「Timeclock」続いて「Delete schedule」を選択します。
2. マスターボタンで、スケジュールを削除する日を選択し、OK ボタンを押します。
3. ディスプレイには、イベントが削除されたことを示す「Deleted」が表示されます。
4. ディスプレイには、「Delete schedule?」が表示され、選択した日のイベントをすべて上書きしてもよいか確認します。OK ボタンを押して決定します。
5. プログラミングモードを終了します。

タイムクロックの操作

業務時間外モード

業務時間外モードは、照明を自動的に省エネモード (通常はシーンオフ) にするよう、GRAFIK Eye® QS コントロールユニットを設定する機能です。この機能により、照明を手動でオンにしても、特定の時間が経過すると自動でオフにすることが可能です。

営業時間外モードが起動すると、照明は点滅し、室内の人に照明が間もなく営業時間外モードへ移行することを知らせます。キーパッドのボタンを押せば、次に再び点滅するまで点灯時間を延長することができます。

GRAFIK Eye® QS コントロールユニットでは、3 種類の営業時間外モードを使用することができます:

- **オン:** GRAFIK Eye® QS コントロールユニットが、営業時間外モードを起動できるようにします。
- **同調:** GRAFIK Eye® QS コントロールユニットが、QS リンク上で接続されている他の機器の営業時間外モード設定を実行します。
- **オフ (初期設定):** GRAFIK Eye® QS コントロールユニットは、営業時間外モードを起動させません (タイムクロックイベントや接点入力、その他 QS リンク機器からのコマンドを受信した場合も同様です)。

注: 営業時間外モードはタイムクロックイベントまたは内蔵接点入力、その他 QS リンクで接続されている機器により、開始または終了するようにプログラミングする必要があります。GRAFIK Eye® QS コントロールユニットは、営業時間外モードが「オン」または「同調」に設定されている場合のみ、この機能を起動します。

営業時間外モードの設定内容

<u>点滅回数(Flash count):</u> 間もなく営業時間外モードへ以降することを知らせる、照明の点滅回数。

範囲(Range): 点滅回数 0〜15 回 (初期設定では 3 回点滅)

<u>ディレイタイム(Delay time):</u> 点滅が終了してから、実際に営業時間外モードが起動されるまでの時間。

範囲(Range): 1〜180 分 (初期設定では 15 分)

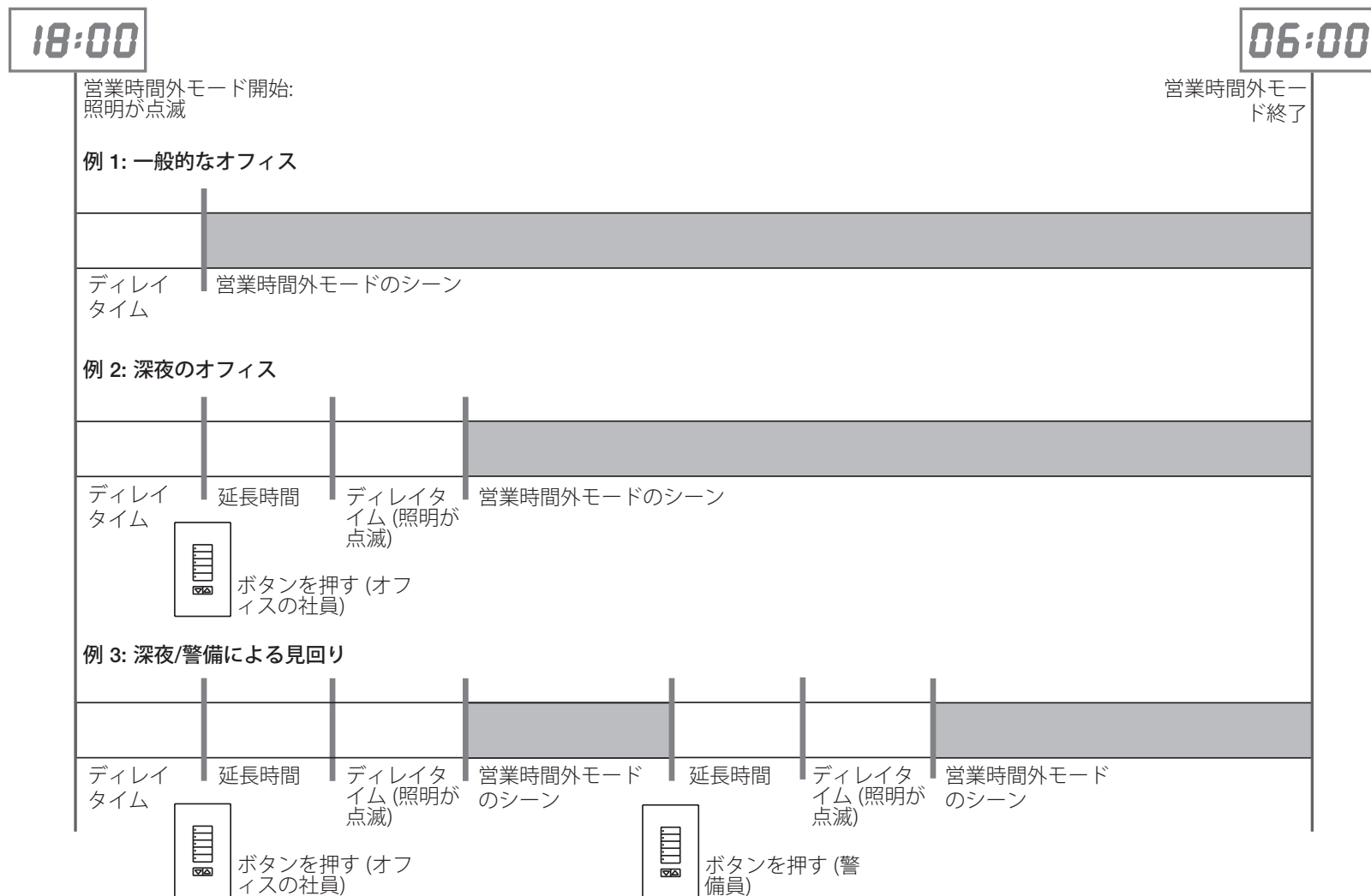
<u>延長時間(Warn time):</u> 点滅開始後にボタンが押されて延長された場合、システムが再び点滅を始め、営業時間外モードへ移行するまでの時間。

範囲(Range): 1〜180 分 (初期設定では 5 分)

<u>営業時間外モードのシーン(Afterhours scene): *GRAFIK Eye®* QS コントロールユニットが、ディレイタイムが終わり、営業時間外モードを起動したときのシーン。</u> 範囲(Range): シーン 1〜6 (初期設定ではシーン 5)

(次ページの例を参照してください。)

タイムクロックの操作

営業時間外モード設定例

18:00

06:00

営業時間外モード開始:
照明が点滅

営業時間外モード終了

例 1: 一般的なオフィス

ディレイタイム
営業時間外モードのシーン

例 2: 深夜のオフィス

ディレイタイム
延長時間
ディレイタイム (照明が点滅)
営業時間外モードのシーン
ボタンを押す (オフィスの社員)

例 3: 深夜/警備による見回り

ディレイタイム
延長時間
ディレイタイム (照明が点滅)
営業時間外モードのシーン
ボタンを押す (オフィスの社員)
延長時間
ディレイタイム (照明が点滅)
営業時間外モードのシーン
ボタンを押す (警備員)

タイムクロックの操作

営業時間外モードを設定する

Main menu
Timeclock
Scene setup

Timeclock
Holiday
Afterhours setup

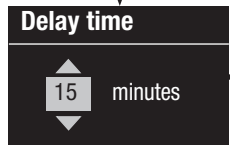
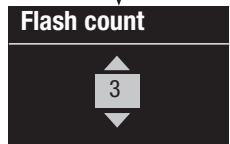
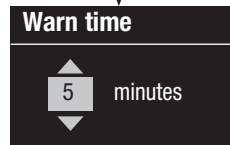
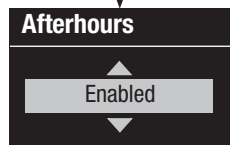
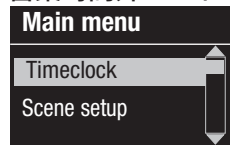
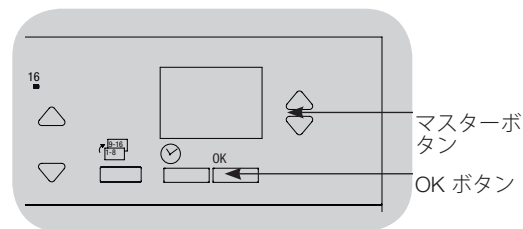
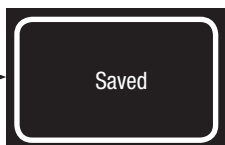
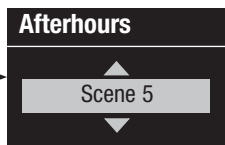
Afterhours
Enabled

Warn time
5 minutes

Flash count
3

Delay time
15 minutes

Afterhours
Scene 5

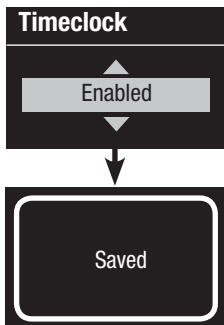
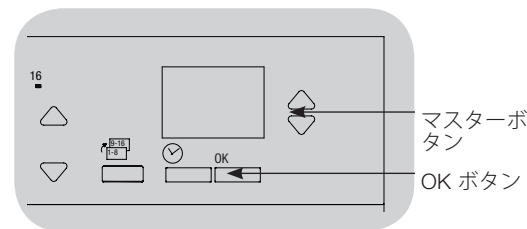
Saved

1. プログラミングモードを起動します。
2. マスターボタンで、「Timeclock」を選択し、OK ボタンを押します。
3. マスターボタンで、「Afterhours setup」にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。
4. マスターボタンで、利用する営業時間外モードを選択し、OK ボタンを押します。
5. (営業時間外モードを「オン」にした場合)
   マスターボタンで、希望の点滅回数、ディレイタイム、延長時間、営業時間外シーンを選択したら、OK ボタンを押して決定します。ディスプレイには、営業時間外モードの設定が保存されたことを示す「saved」が表示されます。
6. プログラミングモードを終了します。

営業時間外モードを終了する

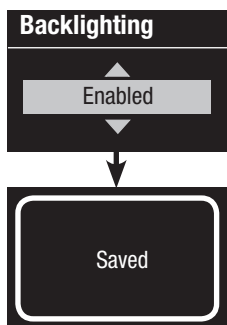
営業時間外モードは、一度起動した後であれば、プログラミングメニューからいつでも上書きおよび終了することが可能です。

1. プログラミングモードを起動します。
2. マスターボタンで、「Timeclock」を選択し、OK ボタンを押します。
3. マスターボタンで、「End Afterhours」(営業時間外モード終了) にカーソルを合わせ、OK ボタンを押します。ディスプレイには、モードが終了したことを示すメッセージが表示されます。
4. プログラミングモードを終了します。

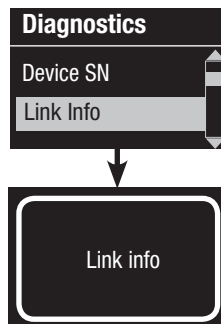
システム診断および特殊な設定

タイムクロックをオン/オフにする

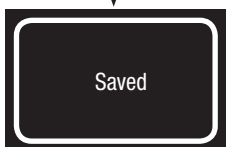
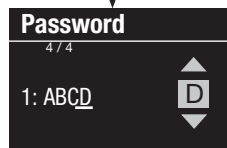
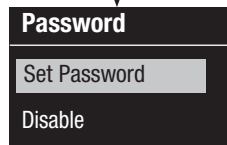
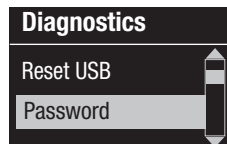
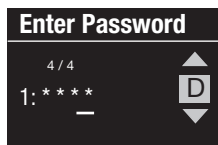
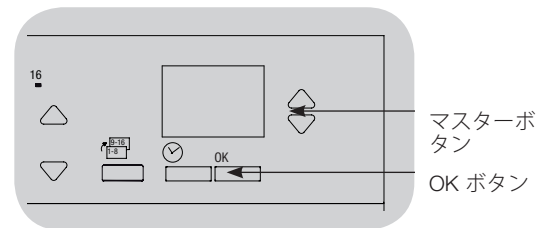
タイムクロックは希望に応じて、オンにもオフにもすることができます。

1. プログラミングモードを開始して、「Timeclock」を選択し、OK ボタンを押します。
2. マスターボタンで、「Enabled」(オン) または「Disabled」(オフ) を選択し、OK ボタンを押します。ディスプレイには、設定が保存されたことを示す「saved」が表示されます。
3. プログラミングモードを終了します。

バックライトをオン/オフにする

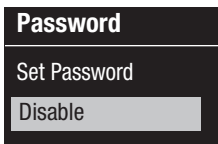
ディスプレイのバックライトは希望に応じて、オンにもオフにもすることができます。

1. プログラミングモードにして、「Backlighting」を選択し、OK ボタンを押して決定します。
2. マスターボタンで、「Enabled」(オン) または「Disabled」(オフ) を選択し、OK ボタンを押します。ディスプレイには、設定が保存されたことを示す「saved」が表示されます。
3. プログラミングモードを終了します。

Diagnostics

コントロールユニットの操作について、ルートロンのテクニカルサポートにお問合せいただく場合、ユニットの情報をお伺いすることがあります。

1. プログラミングモードを起動し、「Diagnostics」(診断) を選択し、OK ボタンを押して決定します。
2. マスターボタンを使用して、表示する情報を選択します。ディスプレイに表示できる情報は、機器のシリアル番号、リンク情報、ソフトウェアバージョン、USB ステータスです。また、USB 接続のリセットも選択することが可能です (リセットはルートロンのテクニカルサポート担当者による指示があった場合にのみ実行してください)。
4. プログラミングモードを終了します。

パスワードを設定する

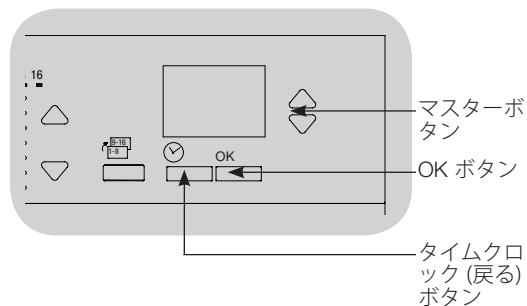
4 桁のパスワードを設定して、GRAFIK Eye® QS コントロールユニットにプログラミングした設定を保護することができます。

1. プログラミングモードを起動します。
2. 「Diagnostics」(診断) を選択したら、OK ボタンを押して決定します。
3. 「Password」を選択したら、OK ボタンを押して決定します。
4. 「Set Password」を選択したら、OK ボタンを押して決定します。
5. ディスプレイに 4 桁のパスワード入力画面が表示されたら、マスターボタンでアルファベット (大文字、数字の 0〜9 のみ) を順に表示します。現在変更しているパスワードの文字は、画面に下線で表示されます。入力するアルファベットが表示されたら OK を押し、この操作を繰り返して残りの文字も入力します。ディスプレイには、設定が保存されたことを示す「saved」が表示されます。
6. プログラミングモードを終了します。

パスワードを設定し、プログラミングモードに戻ると、パスワード入力画面が表示されます。上記の手順 5 の方法で、文字を選択・入力します。

注: 入力した文字は画面上ではアスタリスクマークで表示されます。

パスワード機能をオフにする場合は、「パスワードを設定する」の項目に記載されている 1〜4 の手順を行ない、パスワードメニューで「Disable」(オフ) を選択します。

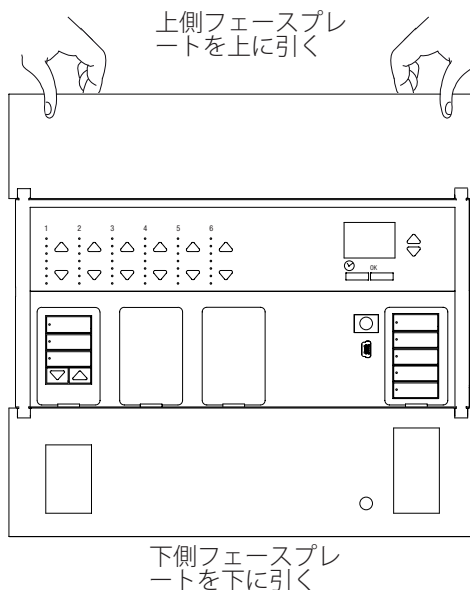
言語の選択

GRAFIK Eye® QS コントロールユニットの画面は、次の各言語に変更することができます:

- 英語
- フランス語
- スペイン語
- ドイツ語
- イタリア語
- ポルトガル語

言語を変更する場合は、ディスプレイに「Language」が表示されるまで、Timeclock ボタンを押します (注: プログラミングモードは起動しないでください)。

マスターボタンで、使用する言語を選択し、OK ボタンを押して保存します。フェースプレートの取り外し

色の変更やゾーン名の記入のため、フェースプレートを取り外す必要がある場合があります。フェースプレートを取り外すには、取り外す方のフェースプレートを完全に開き (壁と平行になるまで)固定されているプレートを上 (上側フェースプレ) ートの場合)または下 (下側フェースプレートの場合) に引き、ヒンジを差込み口から取り外します。

元に戻す場合は、ヒンジを再び差し込みます。

トラブルシューティング

問題	考えられる原因	対処方法
ユニットの電源が入らない ユニットで負荷のコントロールができない ブレーカーがトリップしている	ブレーカーがオフになっている	ブレーカーをオンにします
	誤配線	ユニットおよび負荷への配線をチェックしてください
	配線に短絡がある	短絡箇所を探し、修正してください
	システムが過負荷状態になっている	ゾーン/ユニットの負荷が定格内になっていることを確認してください (「ゾーンセットアップ」の項目参照)
ゾーンのコントロールができない ゾーンが正しくコントロールできない	誤配線	負荷が正しいゾーンに接続されているか確認してください
	配線に接続不良個所がある	ゾーンの出力線を負荷に正しく接続してください
	電球が切れている。	電球を取り替えてください
	負荷タイプが正しく選択されていない	ゾーンに適切な負荷を割当ててください (「ゾーンセットアップ」の項目参照)
	調光ゾーンのハイエンド/ローエンドが正しくない	ハイエンド/ローエンドの設定値を調整してください (ゾーンセットアップ」の項目参照)
1 つまたは複数のゾーンが 100 % オンになり、ゾーンの照度調整ができない あるゾーンをコントロールすると他のゾーンも変化する	誤配線	負荷が正しいゾーンに接続されているか確認してください
	出力が短絡	配線を確認してください。正しく配線されている場合は、ルートロンのテクニカルサポートまでご連絡ください
フェースプレートが暖かい	正常	半導体による制御では接続した負荷の約 2 %が熱として放出されます。特に対処する必要ありません
コントロールユニットでシーンの変更やゾーンの調整ができない	コントロールユニットが適切な保存オプションになっていない	適切な保存オプションに変更してください
	QS 機器により、ボタン操作がロックされている	QS 機器の各設定と状態を確認してくださいs
「シーンオフ」からのフェードタイムを設定できない	「シーンオフ」からのフェードタイムを設定することはできません。設定できるのは「シーンオフ」までのフェードタイムのみです	「シーンオフ」からのフェードタイムは 3 秒で固定されています
内蔵接点入力が機能しない	誤配線	無電圧接点入力の配線を確認してください
	入力接点信号が受信されていない	入力機器が正しく機能しているか確認してください
	ユニットが正しい CCI モード/タイプになっていない	利用状況に適した CCI モード/タイプに変更してください
リンクに接続している QS 機器が作動しない	QS リンクの低電圧配線に誤配線または接続不良がある	すべての機器への QS リンク配線を確認してください
	QS 機器がユニットに接続できてない	QS 機器のプログラミングモードを起動し、連動するGRAFIK Eye® QS コントロールユニットの「Scene 1」ボタンを押し続け、連動してください。
	QS 機器が正しくプログラミングされていない。	QS 機器の機能とプログラミングを確認してください
タイムクロックイベントが実行されない 日の出・日没イベントが正しいタイミングで作動しない	タイムクロックがオフになっている	タイムクロックをオンにしてください
	時間/日付が正しく設定されていない	正しい時間/日付を設定してください
	所在地が正しく設定されていない	ユニット設置場所の緯度経度を入力してください
	特日のスケジュールが起動している	特日が終了すると、通常のスケジュールが再開します

トラブルシューティング (続き)

問題	考えられる原因	対処方法
赤外線リモコンでコントロールしても、機器が応答しない	赤外線受信装置がオフになっている	赤外線受信装置をオンにしてください
	背面の 赤外線入力端子に誤配線または接続不良がある	背面の赤外線入力端子配線をチェックしてください
パスワードを入れてもプログラミングモードにならない	パスワードが正しく設定されていない	ルートロン テクニカルサポートにお問合せの上、パスワードをリセットしてください

トラブルシューティング: ワイヤレス機能 (ワイヤレス対応ユニットのみ)

問題	考えられる原因	対処方法
ワイヤレス機器をユニットに接続できない	ユニットがワイヤレス対応ではない	前面のラベルに「GRAFIK Eye® QSワイヤレス」と記載されていることを確認してください。
	コントロールユニットが適切なワイヤレスモードになっていない	ワイヤレスモードを「オン」に変更してください
	すでにユニットへ接続できる機器数の上限を超えている	そのユニットから別の機器を解除するか、他のユニットに接続してください
	ワイヤレス機器が通信可能範囲外に設置されている	ワイヤレス機器が適切な範囲内にあるか確認してください。ワイヤレス信号の通信可能範囲は通常構造通過で 9 m、見通しで 18 m です
接続しているワイヤレス機器でユニットをコントロールできない	ワイヤレス機器がユニットから接続解除されている	その機器をもう一度ユニットへワイヤレス接続してください
	機器に電源が供給されていない	機器のバッテリー/電源配線を確認してください
	コントロールユニットが適切なワイヤレスモードになっていない	適切なワイヤレスモード (「プログラミング無応答」または「オン」) に変更してください
	ユニットに複数の機器が接続されていて、各設定が相反している	各ワイヤレス機器の設定が一致していることを確認してください
	ワイヤレス機器が通信可能範囲外に設置されている	ワイヤレス機器が適切な範囲内にあるか確認してください。ワイヤレス信号の通信可能範囲は通常構造通過で 9 m、見通しで 18 m です
	Radio Powr Savr™ 光センサーが較正モードになっていない	説明に従って光センサーを較正してください
ワイヤレス機器が正しく作動しない ワイヤレス機器が特定の機能だけ作動する	システムが正しく設定されていない	ワイヤレス機器が、使用状況にあった設定になっていることを確認してください
	設定が保存されなかった	ワイヤレス機器の設定をやり直してください
	ワイヤレス機器が正しい場所に設置されていない	各機器に関する説明に従い、性能を最大限に発揮できる場所に設置されていることを確認してください
ディスプレイにワイヤレス接続を促す画面が頻繁に表示される	ユニットのワイヤレスモードが「オン」になっていて、近くの各ワイヤレスシステムがプログラミングされていることを確認してください	ワイヤレスモードを「プログラミング無応答」に変更してください

トラブルシューティング: 電動カーテン機能

問題	考えられる原因	対処方法
電動カーテン EDU (電子ドライブユニット) が動かない	EDU に電源が供給されていない。	EDU に電源を接続してください
	ロールスクリーンが何かに引っかかっている	引っかかりがある場合は、外してください
	EDU が電動カーテンボタンに割当てられていない	EDU を電動カーテンボタンに割当ててください
電動カーテンボタンで、どのロールスクリーンもコントロールできない	上下限設定がすべて同じ高さになっている	上下限の設定を確認してください
	通信リンクが EDU に配線されていない	EDU リンクを確認し、必要に応じて配線してください
	EDU がボタンから解除されている	EDU を電動カーテンボタンに再度割当ててください
EDU が完全に開かない、または閉じない	正しい上下限設定になっていない	正しく上下限を設定してください
	ロールスクリーンが何かに引っかかっている	引っかかりがある場合は、外してください
アップ/ダウンボタンを押すと、ロールスクリーンが反対方向に動く	上限および下限の設定が反対になっている	正しく上下限を設定してください
割当てた電動カーテンボタンで、操作できないロールスクリーンがある	EDU がその電動カーテンボタン から解除されている	EDU を電動カーテンボタンに再度割当ててください
	上下限設定がすべて同じ高さになっている	上下限の設定を確認してください
	EDU に誤配線がある	EDU の配線を確認し、必要に応じて再度配線します
	電動カーテンボタンが正しく配線されていない	電動カーテンボタンの配線をチェックし、必要に応じて再度配線します
ある部屋のロールスクリーンが勝手に動く	その EDU が別の部屋の電動カーテンボタンに割当てられている	EDU を再度割当ててください から解除されている
GRAFIK Eye® QS で、Sivoia® QS ワイヤレス ロールスクリーンの上下限設定ができない.	正常	上下限は Sivoia® QS ワイヤレス EDU で手動で設定する必要があります (Sivoia® QS ワイヤレス ロールスクリーン取付説明書をご覧ください)

トラブルシューティング: EcoSystem® 機能

問題	考えられる原因	対処方法
「Build System」コマンドで EcoSystem® 負荷を検出できない	E1、E2 に誤配線や接続不良がある	確認の上、配線に問題がない場合は、ルートロンのテクニカルサポートまでご連絡ください
「Build System」または「Address all」コマンドを実行した後、EcoSystem® 機器をゾーンに追加できない	ゾーンが「デジタル」に設定されていない	ゾーンを「デジタル」に設定してください
EcoSystem® 機器が 100%オンになっており、コントロールできない	E1 および E2 が接続されていない	EcoSystem® 対応 GRAFIK Eye® QS の背面にある、E1 および E2 接続を 確認してくださいEcoSystem® リンクが過負荷になっている
	EcoSystem® リンク オーバーロードされています	リンクにある EcoSystem® 機器を 64 台以下まで減らします。電圧を確認してください。最低電圧は 12 V⎓ です。
「Build System」コマンドを実行しても、EcoSystem® 機器が点滅しない	EcoSystem® 機器がアドレス設定されていない EcoSystem® 機器に誤配線がある	EcoSystem® 機器のアドレス設定をしてくださいE1 および E2 配線と EcoSystem® 機器への電源配線を確認してください
ゾーンのレベルを変更しても、EcoSystem® 機器がそれに応じた動作をしない	EcoSystem® 機器がアドレス設定されていない	「Address all」コマンドを実行して、 EcoSystem® 機器をゾーンに割当ててください
	EcoSystem® 機器がゾーンに割当てられていない	EcoSystem® 機器をゾーンに割当ててくださいEcoSystem® 機器をゾーンに割当ててください
EcoSystem® 機器の照明レベルを下げることは可能だが、100% オンにすることができない	EcoSystem® 機器は、光センサーの感知によって変化します	接続している光センサーの較正を再度行なってください

保証

ルートロンアスカ株式会社は、その裁量により、ご購入より１年間を限度として、ルートロンアスカ株式会社の責めに帰すべき事由により生じた製造上の欠陥のある本製品またはその部品（付属品を除きます）を修理または交換いたします。修理または交換にあたっては、不具合の生じたユニットをルートロンアスカ株式会社に返送していただく必要があります。詳細については、ルートロンアスカ株式会社までお問い合わせください。

本製品の保証は、本条項記載のものに限られます。本製品の保証の対象からは、取り付け、配線、取り外し、誤用、乱用、不十分・不適切な修理に起因する本製品の不具合、本製品の不具合により本製品以外の生命、身体、財産に生じた損害、特別の事情から生じた損害、逸失利益は除かれます。また、ルートロンアスカ株式会社が、本製品の製造上の欠陥に起因して生じた損害につき負う責任は、本製品の購入価格を限度とします。

本製品の保証に関する準拠法は、日本法とします。本製品の不具合から生じた紛争については、東京地方裁判所を、第一審における専属的合意管轄裁判所とします。

連絡先

Internet: www.lutron.com
E-mail: product@lutron.com

WORLD HEADQUARTERS
USA
Lutron Electronics Co., Inc.
7200 Suter Road, Coopersburg, PA 18036-1299
TEL +1.610.282.3800
FAX +1.610.282.1243
Toll-Free 1.888.LUTRON1
Technical Support 1.800.523.9466

North and South America Technical Hotlines
USA, Canada, Caribbean: 1.800.523.9466
Mexico: +1.888.235.2910
Central/South America: +1.610.282.6701

ASIAN HEADQUARTERS
Singapore
Lutron GL Ltd.
15 Hoe Chiang Road, Tower 15, Euro Asia Centre,
Singapore 089316
TEL +65.6220.4666
FAX +65.6220.4333

Lutron Asuka Co., Ltd.
No. 16 Kowa Building, 4F
1-9-20, Akasaka, Minato-ku
Tokyo 107-0052 Japan Asia
Technical Hotline 0120.083.417
TEL. 03.5575.8411
FAX. 03.5575.8420
E-mail. asuka@lutron.com
http://www.lutron.jp/

Lutron Electronics Co., Inc.
P/N 032242 Rev. A 01/2013